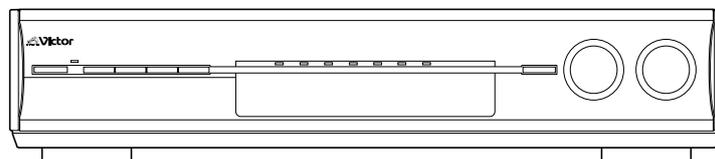
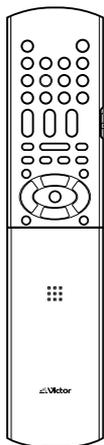
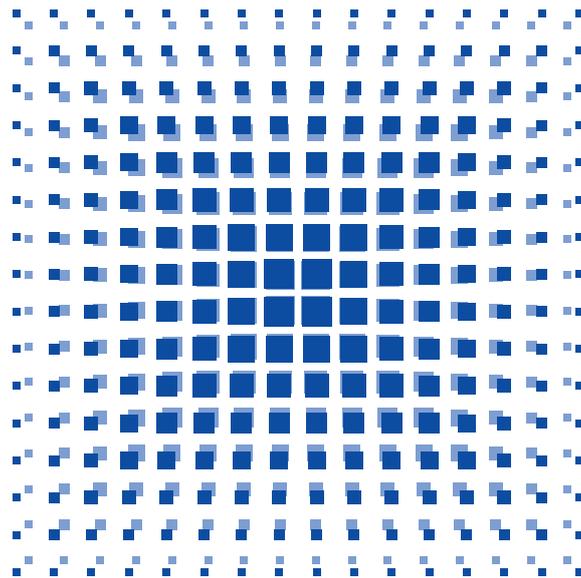
取扱説明書

AUDIO/VIDEO コントロールアンプ

型名 **AX-D701**

Audio/Video Control Amplifier
AX-D701

AV COMPU LINK

お買い上げいただき、ありがとうございます。

⚠ ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に 4～ 7ページの「安全上のご注意」は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LVT1438-001A

はじめに

本機の特長

■ 高音質デジタルアンプ「DEUS（デウス）」を搭載

デジタルパワーアンプの「小型」「軽量」「高効率」という特長を活かしながら、アンプ内で生成されたデジタル信号とアナログ信号をそれぞれフィードバックする「ハイブリッド・フィードバック」技術により、高音質オーディオ特性を実現させました。
高音質デジタルパワーアンプ固有の、デジタル信号処理技術のみでは解決できない問題点をアナログ信号処理技術を加えることによって解決し、これにコア技術を加え、長年にわたり培ってきたハイエンド・オーディオアンプ設計技術を応用しました。
このデジタルアンプの名称を、当社の普遍的な高音質サウンドに対する姿勢を表現した言葉の頭文字を取り「DEUS（Digital Emotional Universal Sound）」と命名しました。

■ HDMI*端子を装備

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）は、PC用ディスプレイなど多くの採用例があるデジタルインターフェイスのDVI（Digital Visual Interface）を元に、下位互換を持ちながらAV機器向けに機能を追加した次世代デジタルインターフェイス規格です。1本のケーブルで非圧縮のデジタル映像信号と音声信号の伝送が可能です。
本機はHDMI Ver1.1に対応しており、Dolby DigitalやDTSの他に、96kHzの5.1チャンネルPCMや、192kHzの2チャンネルPCMなどのDVDオーディオの音声信号もデジタル伝送することができます。
また、本機はデジタル画像信号の暗号化方式「HDCP（High-Bandwidth Digital Content Protection）」に対応しており、HDCPによって保護されたデジタルコンテンツを伝送することができます。

＊HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing,LLCの商標または登録商標です。

■ ホールの臨場感をさらに高めるDSPモード

世界の著名なコンサートホールやライブハウスなどの音場空間を、最新DSPチップの高速デジタル処理により再現。同じアーティストの演奏でも、違った雰囲気で楽しむことができます。

■ デジタル音声の音質向上を追求する K2テクノロジー

デジタル信号の伝送過程やメディアに起因する音質劣化の解消、より自然な再生を可能とするコーディング技術やデジタル圧縮情報の復元技術の開発など、日本ビクター独自のK2テクノロジーは、デジタル音声のさらなる音質向上のために進化し続けています。K2テクノロジーは本機の中核を成す技術です。

■ CC コンバーター搭載

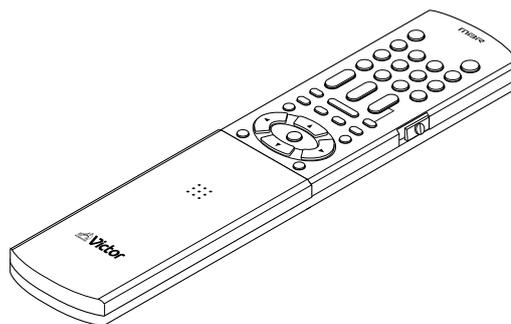
K2テクノロジーのひとつであるExtended K2技術から生まれたCC コンバーターを搭載。デジタル入力信号を、サンプリング前のアナログ原信号を想定しながらハイビット化(高量子化)/ハイサンプリング(広帯域化)処理をすることで、本来記録されているべき音を含んだ自然な音を再現することに成功しました。
CC コンバーターによって、アナログ音声やDolby Digital、DTSなどのデジタル圧縮音声についても高音質化処理を可能にしています。

■ DCDi**

DCDi（Directional Correlational Deinterlacing）はファロージャ社が開発した高画質化技術です。高画質のプロジェクターで動画を見るときに発生するギザギザを減らし、なめらかで自然な動画を再現します。
本機では、この機能はNTSCアナログビデオ信号をHDMI信号に変換するときに働きます。

** DCDi はGenesis Microchipの事業部門であるFaroudjaの商標です。

付属品

お使いになる前に付属品をお確かめください。
不足しているものがありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

リモコン(RM-SAXD701)(1個)

単3形乾電池(2本)
(リモコン動作確認用)

- このほかに、取扱説明書(本書)や保証書が添付されています。

もくじ

お使いになる前に　ページ

ふだんの使い方　ページ

調節・設定する　ページ

サラウンド　ページ

その他の操作　ページ

知っておいてほしいこと　ページ

安全上のご注意　ーはじめにお読みくださいー

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容を示しています。

⚠注意

● この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、「傷害を負ったり物的損害が想定される」内容を示しています。

●絵表示の説明

注意をうながす記号

一般的注意

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

水ぬれ禁止

行為を指示する記号

一般的指示

電源プラグを抜く

⚠警告

万一、次のような異常が発生したときはすぐ使用をやめる。

電源プラグを抜く

- 煙が出ている、へんなにおいがするとき
- 内部に水や異物が入ってしまったとき
- 落としたり、破損したとき
- 電源コードが傷んだとき（芯線の露出や断線など）

すぐに電源を「切」にし、必ず電源プラグをコンセントから抜きます。異常が発生したまま使用していると、火災や感電の原因となります。煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。

分解や改造をしない。
カバーを外さない。

分解禁止

火災や感電の原因となります。
内部の点検や修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

雷が鳴り出したら、アンテナ線や電源プラグに触れない。

接触禁止

感電の原因となります。

風呂場やシャワー室では使用しない。

水場での使用禁止

本機の中に水が入ると、火災や感電の原因となります。

本機の中に物を入れない。

禁止

通風孔などから、金属物や燃えやすいものが入ると、火災や感電の原因となります。特に小さいお子様のいるご家庭では注意してください。

本機の上に水などの入った容器を置かない。

禁止

花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など水の入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に水が入った場合は、火災や感電の原因となります。

電源コードを傷つけない。

禁止

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
特に、次のことに注意してください。

- 電源コードを加工しない
- 電源コードを無理に曲げない
- 電源コードをねじらない
- 電源コードを引っ張らない
- 電源コードを熱器具に近づけない
- 電源コードの上に家具などの重い物をのせない

⚠警告

電源プラグは根元まで確実に差し込む。

差し込みが不完全ですと、発熱したりほこりが付着して火災や感電の原因となります。また、たこ足配線も、コードが熱を持ち危険ですのでしないでください。

電源プラグは定期的に清掃する。

電源プラグとコンセントの間に、ゴミやほこりがたまって湿気を吸うと、絶縁低下を起こして、火災の原因となります。定期的に電源プラグをコンセントから抜き、ゴミやほこりを乾いた布で取り除いてください。

電池は放置しない。

電池を取り外したときは、幼児の手の届かないところに置いてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

表示された電源電圧(交流100ボルト)で使用する。

表示された電源電圧以外では、火災・感電の原因となります。
本機を使用できるのは日本国内のみです。

This set is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

本機の包装に使用しているポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かない。

頭からかぶると窒息の原因となります。

⚠注意

通風孔をふさいだり、風通しの悪い場所で使用しない。

本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。特に次のことに注意してください。

- あお向けや横倒し、逆さまにしない
- 本箱、押し入れなど風通しの悪い狭い所に押し込まない
- テーブルクロスを掛けない
- 本や雑誌などをのせない
- じゅうたんや布団の上に置かない
- 設置する場合は、壁から10cm 以上離す。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から10cm 以上、背面から10cm 以上のすきまをあけてください。

設置場所に注意する。

禁止

次のような所に設置すると、火災や感電、故障の原因となることがあります。

- 湿気やほこりの多いところ

- 直射日光の当たるところや、熱器具の近くなど高温になるところ
- 窓ぎわなど水滴の発生しやすいところ
- 調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気が当たるところ
- 不安定なところ
- 振動の激しいところ

寒い所から急に暖かい部屋へ移動したときは、約1〜2時間待ってから電源を入れてください。

使用中の本体の温度上昇について

使用状態によっては、本体の温度が上昇することがありますが、これは故障ではありません。
特に、大音量で使い続けると本体キャビネットが熱くなります。このようなときは、火傷などの原因となりますので本体には触れないようにしてください。

⚠注意

本機の上に重い物を置かない。

テレビなどの重い物や本機からはみ出るような大きな物を置くと、バランスがくずれて倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。

お手入れをするときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。電源プラグがコンセントに接続されていると、感電の原因となることがあります。

移動するときは、接続コード類や電源プラグを抜く。

接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

はじめから音量を上げすぎない。

突然大きな音が出て、スピーカーを破損したり、聴力障害の原因となることがあります。電源を切る前に音量（ボリューム）を下げておき、電源が入ってから徐々に上げてください。

電源プラグは、コードの部分を持って抜かない。

電源コードを引っ張ると、コードに傷がつき、火災や感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源プラグを抜く。

電源が「切」でも本機には、わずかな電流が流れています。安全および節電のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。

3年に一度は内部の清掃を販売店に依頼する。

内部にほこりがたまったまま使用すると、火災の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。

電池の取り扱いに注意する。

電池の取り扱いを誤ると、電池が破裂したり、液もれして、火災・けがや周囲を汚す原因となることがあります。
次のことに注意してください。

- 指定以外の電池を使用しない
- 電池のプラス（＋）とマイナス（－）を間違えない
- 電池を加熱しない
- 分解しない
- 火や水の中に入れない
- 新しい電池と一度使用した電池を混ぜて使用しない
- 種類の違う電池と混ぜて使用しない
- 乾電池は充電しない
- 長期間使わないときは、電池を取り出しておく

もし、電池が液もれをしてしまったときは、電池ケースについた液をよく拭きとってください。万一、もれた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

「JIS C 61000ー3ー2 適合品」

JIS C 61000ー3ー2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性ー第3ー2 部：限度値ー高調波電流発生限度値（1 相当りの入力電流が20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

本機の置き場所について

故障などを防止するため、以下の場所は避けてください。

- 湿気やほこりの多いところ
- 風通しの悪い狭いところ
- バランスの悪い不安定なところ
- 直射日光が当たるところ
- 熱器具の近く
- 極端に寒いところ
- 寒暖の差が激しいところ
  本機の使用環境温度は−5°C〜35°Cです。この範囲外の温度で使用すると、正しく動作しなかったり故障の原因となったりします。
- 磁気を発生するところ
- OA機器やけい光灯のすぐそば
- 振動の激しいところ

本体のお手入れ

パネル操作面が汚れたら柔らかい布で**からぶき**してください。汚れがひどいときは、水で布をしめらせるか、中性洗剤を少し布に付けてふき、あとで**からぶき**してください。
シンナーやベンジン、アルコールなどの化学薬品でふいたり、殺虫剤をかけないでください。変色したり表面の仕上げを損なうおそれがあります。

■ 音楽を聞くときのエチケット

音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。
特に、夜は小さな音でも周囲によく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

各部の名前　—（　）内のページに説明があります。—

リモコン

（フタを開けたところ）

❶ テレビ/ビデオボタン（➡ ***63、64*** ページ）

❷ 電源ボタン（➡ ***27、63〜65*** ページ）
- ⏻/I アンプボタン
- TV ⏻/Iボタン
- DBS/CATV ⏻/Iボタン
- VTR ⏻/Iボタン
- DVR/DVD ⏻/Iボタン

❸ ソース（音源）機器選択ボタン（➡ ***27*** ページ）
- TVボタン
- DBSボタン
- VTRボタン
- DVR/DVDボタン
- USBボタン
- AUXボタン

❹ テレビ音量（＋/－）ボタン（➡ ***63、64*** ページ）

❺ チャンネル（＋/－）ボタン（➡ ***63、64*** ページ）

❻ DVDレコーダー/プレーヤー/ビデオデッキ操作ボタン（➡ ***63〜65*** ページ）
- ●（録音）ボタン
- ▶（再生）ボタン
- ▶▶I（次スキップ）ボタンとI◀◀（前スキップ）ボタン
- 早送りボタンと巻戻しボタン
- ■（停止）ボタン
- II（一時停止）ボタン
- DVDメニューボタン

❼ セッティングボタン（➡ ***32、34*** ページ）

❽ カーソル（▲、▼、▶、◀）（➡ ***32、34、46、63、65*** ページ）

❾ アジャストボタン（➡ ***46*** ページ）

❿ ビデオ入力ボタン（➡ ***24*** ページ）

⓫ オーディオ入力ボタン（➡ ***25*** ページ）

⓬ デコードボタン（➡ ***30*** ページ）

⓭ EX/ES/PLⅡxボタン（➡ ***61*** ページ）

⓮ リターンボタン（➡ ***64*** ページ）

⓯ センタートーンボタン（➡ ***61*** ページ）

⓰ デジタルイコライザー調節ボタン（➡ ***60*** ページ）
- D.EQ（デジタルイコライザー）周波数ボタン
- D.EQレベルボタン

⓱ ライブネスボタン（➡ ***60*** ページ）

⓲ スピーカー出力調節ボタン（➡ ***59*** ページ）
- フロント・左（＋/－）ボタン
- フロント・右（＋/－）ボタン
- センター（＋/－）ボタン
- サブウーハー（＋/－）ボタン
- サラウンド・左（＋/－）ボタン
- サラウンド・右（＋/－）ボタン
- サラウンドバック・左（＋/－）ボタン
- サラウンドバック・右（＋/－）ボタン

⓳ サラウンドボタン（➡ ***56*** ページ）

⓴ CCコンバーターボタン（➡ ***30*** ページ）

㉑ アンプ主音量ボタン（➡ ***27*** ページ）

㉒ モード切換スイッチ（➡ ***63、65*** ページ）

㉓ 消音ボタン（➡ ***29*** ページ）

㉔ 決定ボタン（➡ ***32、34、46*** ページ）

㉕ 終了ボタン（➡ ***32、34、46*** ページ）

㉖ 数字ボタン（➡ ***63〜65*** ページ）

㉗ ディマーボタン（➡ ***29*** ページ）

㉘ バスブーストボタン（➡ ***60*** ページ）

㉙ スリープボタン（➡ ***29*** ページ）

㉚ ミッドナイトボタン（➡ ***61*** ページ）

㉛ スマートS.（サラウンド）セットアップボタン（➡ ***32、33*** ページ）

㉜ テストトーンボタン（➡ ***33、59*** ページ）

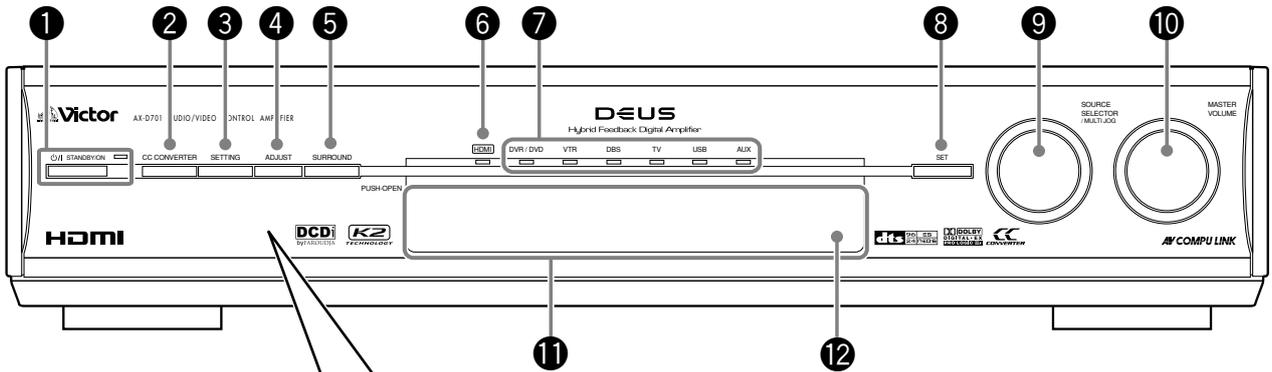
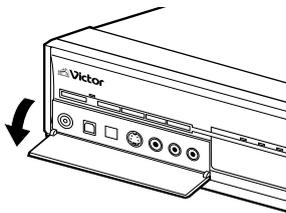
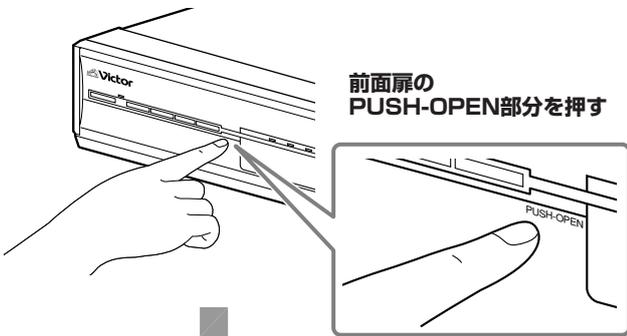
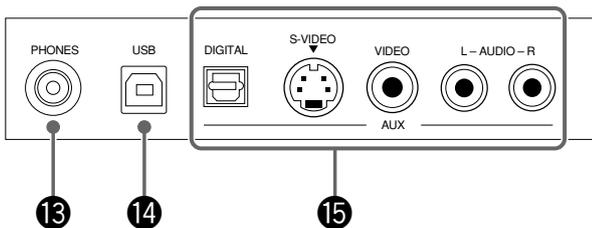
㉝ エフェクトボタン（➡ ***60*** ページ）

フタの開け方

上図の❿〜⓲および㉖〜㉝の各ボタンは、フタの中にあります。

フタの中央部を押して、矢印の方向へスライドさせる

本体

前面

❶ ⏻/I STANDBY/ON（スタンバイ/オン）ボタンとスタンバイランプ（➡ *27*、*28* ページ）
電源の「**入**」⟺「**切**」をするとき押します。
スタンバイランプは、電源を「**切**」にすると赤く点灯し、電源を「**入**」にすると消えます。

❷ CC CONVERTER（コンバーター）ボタン（➡ *30* ページ）
CCコンバーターを「**入**」⟺「**切**」するとき押します。

❸ SETTING（セッティング）ボタン（➡ *35* ページ）
スピーカーの設定など詳細な設定をするとき使います。

❹ ADJUST（アジャスト）ボタン（➡ *47* ページ）
音量･音質を調節するとき使います。

❺ SURROUND（サラウンド）ボタン（➡ *56* ページ）
サラウンドモードを選ぶとき使います。

❻ HDMIランプ
HDMI接続でお楽しみのとき点灯します。

❼ ソース（音源）ランプ（➡ *27*、*28* ページ）
現在選ばれているソース（音源）を表示します。
DVR/DVD、VTR、DBS、TV、USB、AUX

❽ SET（セット）ボタン（➡ *35*、*47* ページ）

❾ SOURCE SELECTOR/MULTI JOG（ソース セレクター/マルチ ジョグ）（➡ *28*、*35*、*47* ページ）

❿ MASTER VOLUME（マスター ボリューム）（➡ *28* ページ）
主音量を調節します。

⓫ 表示窓（➡ *11* ページ）

⓬ リモコン受光部（➡ *23* ページ）

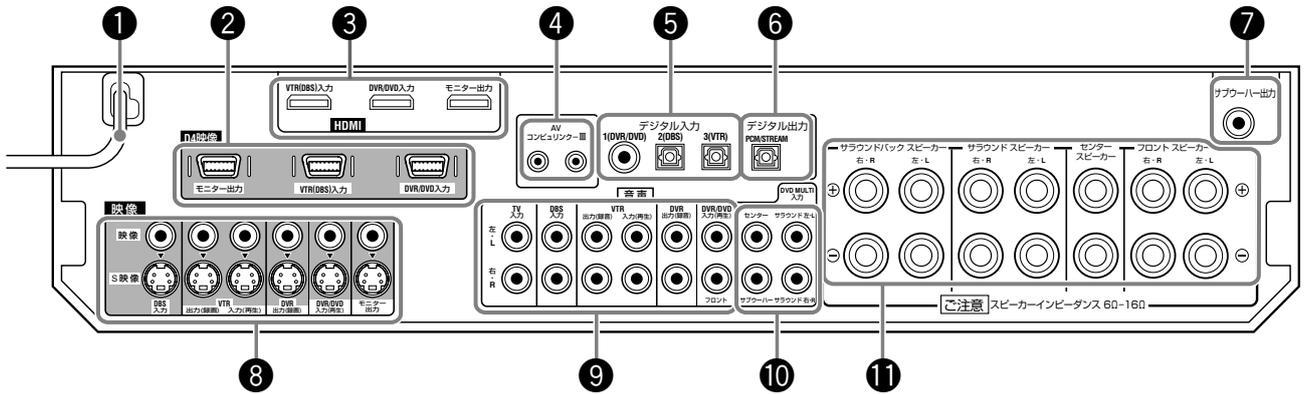
⓭ PHONES（ホーンズ）端子（➡ *28* ページ）
ヘッドホンを差し込みます。

⓮ USB入力端子（➡ *26* ページ）
USB出力端子のあるパソコンを接続します。

⓯ 前面AUX入力端子（➡ *22* ページ）
音声入力端子：DIGITAL、AUDIO L/R
映像入力端子：S-VIDEO、VIDEO

各部の名前(つづき)—(　)内のページに説明があります。—

本体(つづき)

背面

❶ **電源コード(➡ *23* ページ)**
家庭用のコンセント(交流 100V)に接続します。

❷ **D4映像入出力端子(➡ *15*、*18*、*19*、*21* ページ)**
入力端子: VTR(DBS)入力、DVR/DVD入力
出力端子: モニター出力

❸ **HDMI入出力端子(➡ *15*、*16*、*18*、*20* ページ)**
入力端子: VTR(DBS)入力、DVR/DVD入力
出力端子: モニター出力

❹ **AVコンピュリンク－Ⅲ端子(➡ *62* ページ)**
他のビクター製ビデオ機器のAVコンピュリンク端子と接続します。

❺ **デジタル入力端子(➡ *14*、*16*、*19*、*20* ページ)**
デジタル音声出力端子のある機器を接続します。
同軸デジタル入力端子 : 1(DVR/DVD)
光デジタル入力端子　 : 2(DBS)、3(VTR)

❻ **デジタル出力端子(➡ *22* ページ)**
光デジタル音声入力端子のある機器を接続します。

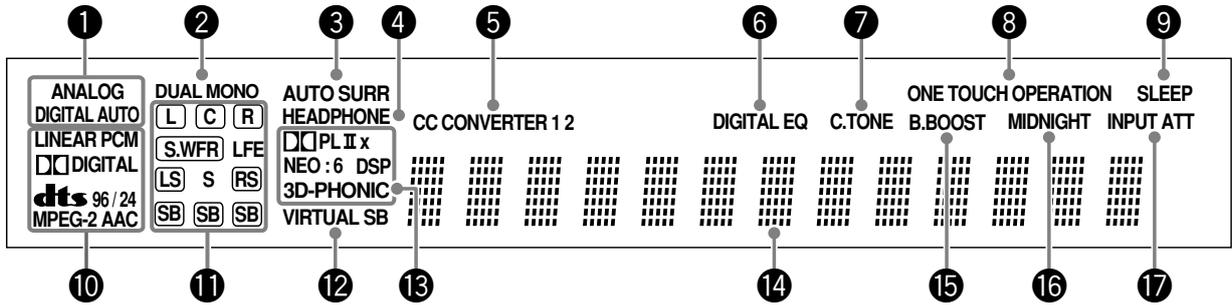
❼ **サブウーハー出力端子(➡ *13* ページ)**
アンプ内蔵サブウーハーを接続します。

❽ **映像/S映像入出力端子(➡ *15*、*18*、*19*、*21* ページ)**
入力端子: DBS入力、VTR入力(再生)、DVR/DVD入力(再生)
出力端子: VTR出力(録画)、DVR出力(録画)、モニター出力

❾ **音声入出力端子(➡ *14*、*16*、*17*、*19*、*20* ページ)**
入力端子: TV入力、DBS入力、VTR入力(再生)、
　　　　　DVR/DVD入力(再生)
出力端子: VTR出力(録音)、DVR出力(録音)

❿ **DVD MULTI(マルチ)入力(5.1チャンネルアナログ入力)端子(➡ *17* ページ)**
アナログ5.1チャンネル出力端子のあるDVDレコーダー/プレーヤーを接続します。フロントチャンネルはDVR/DVD入力(再生)端子(フロント端子)に接続します。

⓫ **スピーカー端子(➡ *13* ページ)**
スピーカーを接続します。

表示窓

❶ アナログ/デジタル音声表示(➡ ***25***、***30*** ページ)

❷ DUAL MONO表示(➡ ***40***、***53*** ページ)
デュアルモノ信号が入力すると点灯します。

❸ AUTO SURR表示(➡ ***56*** ページ)
オートサラウンドを使っているとき点灯します。

❹ HEADPHONE表示(➡ ***28***、***56*** ページ)
ヘッドホンを使っているとき点灯します。

❺ CC CONVERTER1 2表示(➡ ***30*** ページ)
CCコンバーターを使っているとき点灯します。

❻ DIGITAL EQ表示(➡ ***49***、***60*** ページ)

❼ C.TONE表示(➡ ***52***、***61*** ページ)

❽ ONE TOUCH OPERATION表示(➡ ***44*** ページ)
ワンタッチオペレーションを使っているとき点灯します。

❾ SLEEP表示(➡ ***29*** ページ)
おやすみタイマーを使っているとき点灯します。

❿ デジタル音声フォーマット表示(➡ ***25***、***30***、***53***、***54*** ページ)
入力しているデジタル音声フォーマットを表示します。

⓫ スピーカー表示/入力音声信号表示
入力している音声信号と、スピーカーの動作状態に合わせて点灯します。下記の「スピーカー表示/入力音声信号表示について」をご覧ください。

⓬ VIRTUAL SB表示(➡ ***58*** ページ)
バーチャルサラウンドバックが作動しているとき点灯します。

⓭ サラウンドモード表示(➡ ***28***、***54***、***55*** ページ)
選択しているサラウンドのモードに応じて点灯します。

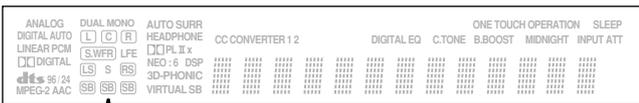
⓮ 文字表示部
サラウンドモード名やソース(音源)名などを表示します。

⓯ B.BOOST表示(➡ ***50***、***60*** ページ)
バスブーストを使っているとき点灯します。

⓰ MIDNIGHT表示(➡ ***42***、***61*** ページ)
ミッドナイトを使っているとき点灯します。

⓱ INPUT ATT表示(➡ ***50*** ページ)
インプットアッテネーターを使っているとき点灯します。

スピーカー表示/入力音声信号表示について

スピーカーと入力している音声信号を表示します。

スピーカー表示
音声が出力されているスピーカーのスピーカー表示が点灯します。
- サブウーハーの設定を「YES」に設定しているときは(➡ ***37*** ページ)、S.WFR表示が点灯します。
- サブウーハー以外のスピーカー表示は、スピーカー設定や選択中のサラウンドモードに有効な表示が点灯します。

入力音声信号表示
- L ： 左フロントスピーカー音声信号
- R ： 右フロントスピーカー音声信号
- C ： センタースピーカー音声信号
- LS ： 左サラウンドスピーカー音声信号
- RS ： 右サラウンドスピーカー音声信号
- S ： サラウンドスピーカー音声信号(モノラル)
- SB ： サラウンドバックスピーカー音声信号
- LFE ： LFE(Low Frequency Effect)信号

スピーカーを接続する

■接続するときのご注意

各コードまたは各プラグは確実に接続してください。不完全な接続は、雑音や音が出ないなどの原因になります。

■接続するスピーカーについて

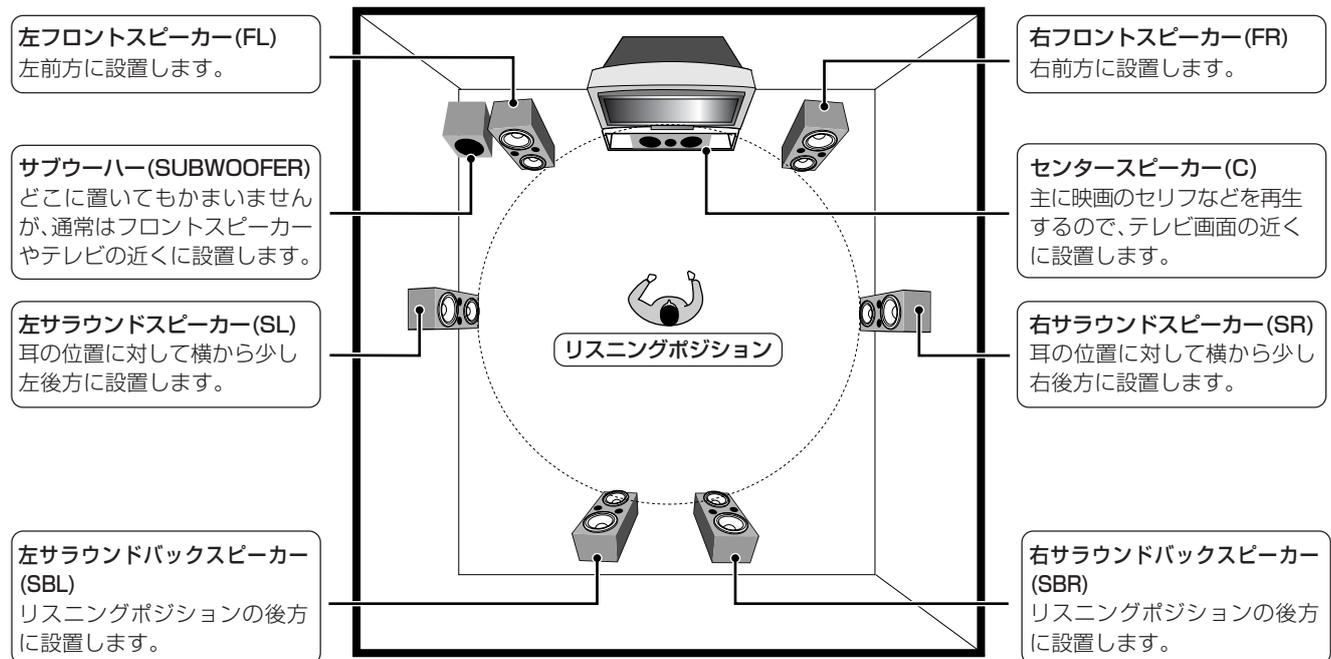
本機に接続できるスピーカーの公称インピーダンスは、6Ω～16Ωです。
Dolby DigitalやDTSのDVDソフトを楽しんだり、ホールやパビリオンなどの残響効果を楽しむにはスピーカーとの相性も重要になります。フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーは、特性の揃ったスピーカーを使うことが理想的です。

■スピーカーの接続について

サラウンドバックスピーカーを1本のみ接続するときは、L側の端子(サラウンドバック スピーカー 左·L端子)に接続し、サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定を「1SPK」にします。(➡ ***38*** ページ)

■スピーカーの設置について

下の設置例を参考に、実際にお聞きになりながら最適なサラウンド効果、残響効果が得られる向きや場所を探して設置してください。部屋の間取りなどで理想的な設置がむずかしいときでも、スピーカー設定を適切におこなうことで音場の調節をすることができます。

理想的なスピーカー配置例(7.1ch配置のとき)

設置のポイント

- リスニングポジションを中心とした同一円周上に各スピーカーを設置するようにします。
- スピーカーからの音には指向性*がある場合があるので、スピーカーはリスニングポジションに向けて設置します。
- サブウーハーからの音は、他のスピーカーからの音と比べて、指向性は強くありません。

* **指向性とは…**
スピーカーは、一般にその正面で音が最もよく聞こえ、正面からずれていくと聞こえにくくなる性質があります。この正面からの移動角度に対する出力音圧の変化を示したものが指向性です。指向性が強いスピーカーほど、効果的に音の聞こえる範囲が狭くなります。

■スピーカーの設置·接続のあとで

スピーカーの設置·接続のあとは、**スピーカーの設定**(➡ ***31*** ページ)や**出力レベルの調節**(➡ ***49*** ページ)をおこないます。
本機では、このような設定や調節を、**スマートサラウンドセットアップ**(➡ ***31***～***33*** ページ)を使っておこなうこともできます。

お知らせ

スマートサラウンドセットアップは、接続している機器によって発生するノイズのため適切に働かない場合があります。スマートサラウンドセットアップを使うときは、より正確な設定をするために以下の点にご留意ください。

- **本機の音量を「0」する。**
- **本機や、接続したスピーカーの近くにある機器(DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、BS/CSチューナー、テレビ、サブウーハーなど)の電源を切る。**

■フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの接続

フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを本体背面のスピーカー端子に接続します。スピーカーコードは、左右のスピーカーで同じくらいの長さになるようにします。
スピーカーの左右と極性(⊕と⊖)を間違えないように正しく接続してください。

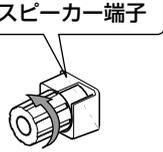
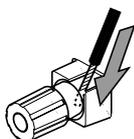
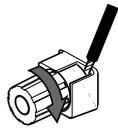
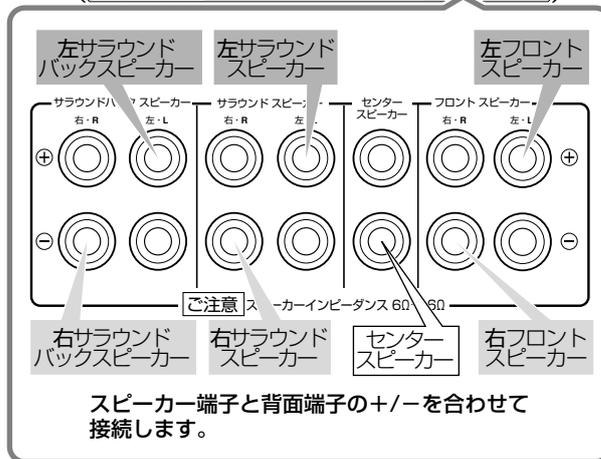
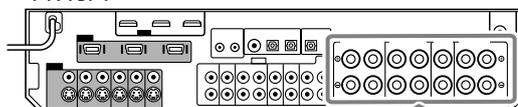
■サラウンドバックとバーチャルサラウンドバックについて

Dolby Digital Surround EX信号、DTS-ES信号など、6.1チャンネルの音声信号を再生するときには、サラウンドバックスピーカーが必要です。サラウンドバックスピーカーが接続されていないときは、他のスピーカーを使ってサラウンドバックスピーカー音声信号を再生できます。詳しくは「バーチャルサラウンドバックについて」(➡ ***58*** ページ)をご覧ください。

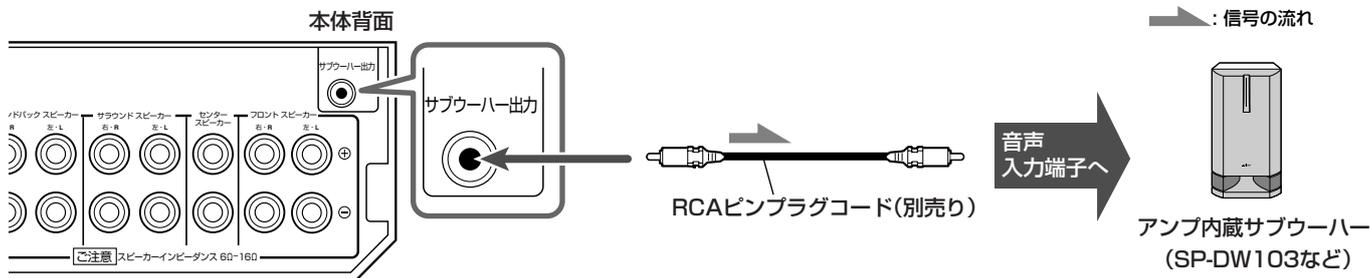
ご注意

- **一つのスピーカー端子に複数のスピーカーを接続しないでください。** 事故や故障の原因となります。
- テレビの近くに設置するセンタースピーカーやフロントスピーカーなどは、防磁形スピーカーをお使いください。
  万一、テレビの画面に色ムラが生じるときは、スピーカーとテレビを離して設置してください。

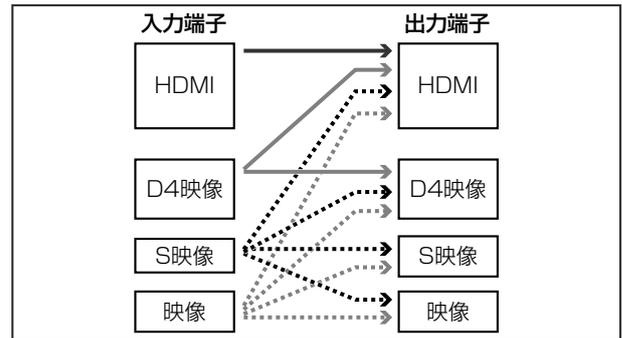
お知らせ

- スピーカーコードの極性(⊕、⊖)を間違えると、音質やステレオ感がそこなわれますのでご注意ください。
- 接続したあと、コードを軽く引いてしっかり接続されているか確認してください。
- 磁気カードなどをスピーカーのすぐそばに置かないでください。データが消えるなどの原因になることがあります。

■アンプ内蔵サブウーハーの接続

本機にアンプ内蔵サブウーハーを接続すると、より迫力のある重低音をお楽しみいただけます。
特に、Dolby Digital Surround EX、DTS-ESなどのマルチチャンネルソフトを再生すると、LFE(Low Frequency Effect：低域効果音)信号が再生され、映画館のような重低音が楽しめます。
アンプ内蔵サブウーハーを接続するときは、RCAピンプラグコード(別売り)でサブウーハー出力端子に接続します。
接続のあとで、サブウーハーの設定を「YES」に設定します(➡ ***37*** ページ)。

- 詳しくは、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

機器を接続する前に

ビデオコンバーターについて

本機にはビデオコンバート機能が搭載されています。
映像出力の設定と映像入力の設定で異なる端子を選んだ場合、本機に入力された映像信号は映像出力の設定に対応した信号に変換されて出力されます。映像入出力の設定は、接続のあとにおこないます。詳しくは「映像と音声の入出力を設定する」（➡ *24*、*25*ページ）をご覧ください。また、各信号の変換については右図をご覧ください。
- HDMI端子からの入力信号を、他の映像端子から出力することはできません。
- D4映像端子からの入力信号を、S映像端子または映像端子から出力することはできません。

お知らせ

- 本機の映像（録画）端子またはS映像（録画）端子に接続されている録画機器で録画をするときは、本機の映像（再生）端子またはS映像（再生）端子に再生機器を接続してください。
- HDMI信号に変換された信号は、再生ソフトを早送りや巻戻し、一時停止をしたときなどに画面が乱れることがあります。

HDMI接続について

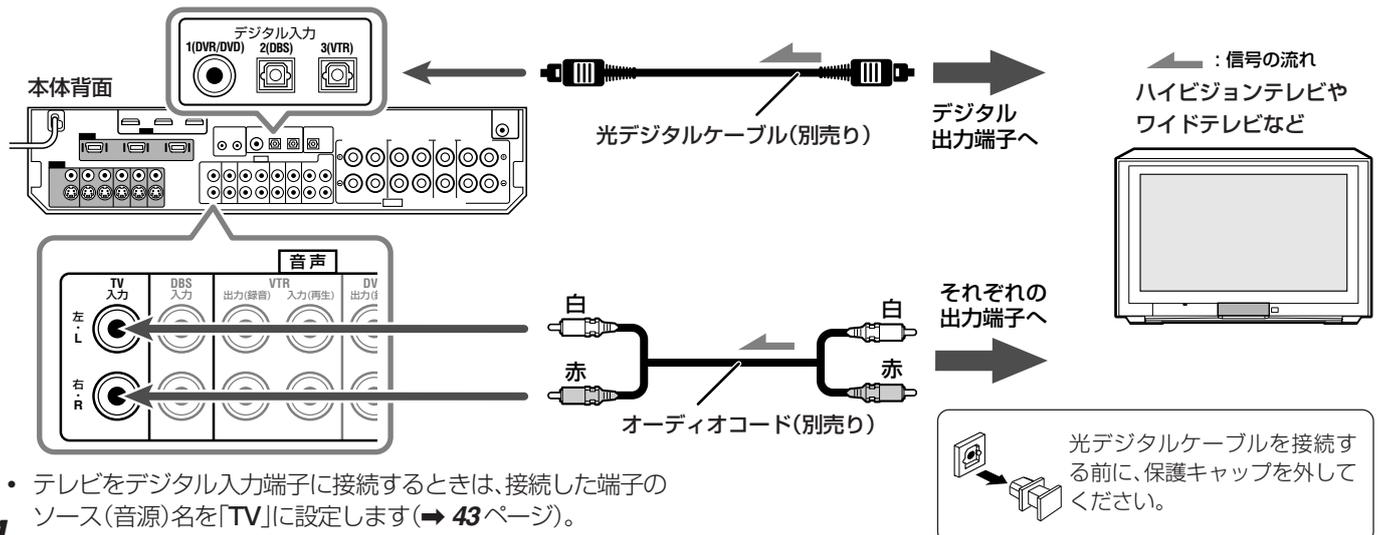
HDMI接続で映像や音声をお楽しみいただくときは、次のことにご留意ください。
- HDCP（➡ *2* ページ）によって保護されたデジタルコンテンツをお楽しみいただくときに、認証確認のために最初の数秒間、音や映像が出ないことがあります。
- HDMI接続で5.1チャンネルPCMのDVDオーディオソフトをお楽しみいただいているときは、いくつかの設定をすることができません。詳しくは「5.1チャンネルPCMのDVDオーディオを聞く」（➡ *17* ページ）をご覧ください。
- 本機は標準ビデオ信号に対応しています。非標準ビデオ信号が入力されたときは、映像が正しく表示されないことがあります。
- 再生機器のアスペクト設定と異なったアスペクト比で映像が表示されることがあります。
- 接続機器の電源を「**入**」⟷「**切**」するときや、映像や音声入力の設定を変更するときに、雑音が聞こえたり、映像が乱れることがあります。その場合は、本機の電源を一度「**切**」にし、もう一度「**入**」にしてください。

テレビを接続する

本機とテレビを接続します。テレビの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください（➡ 裏表紙）。

接続のあとで「映像と音声の入出力を設定する」（➡ *24*、*25* ページ）をご覧ください。

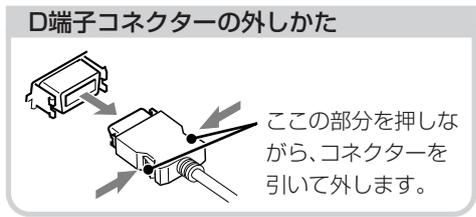
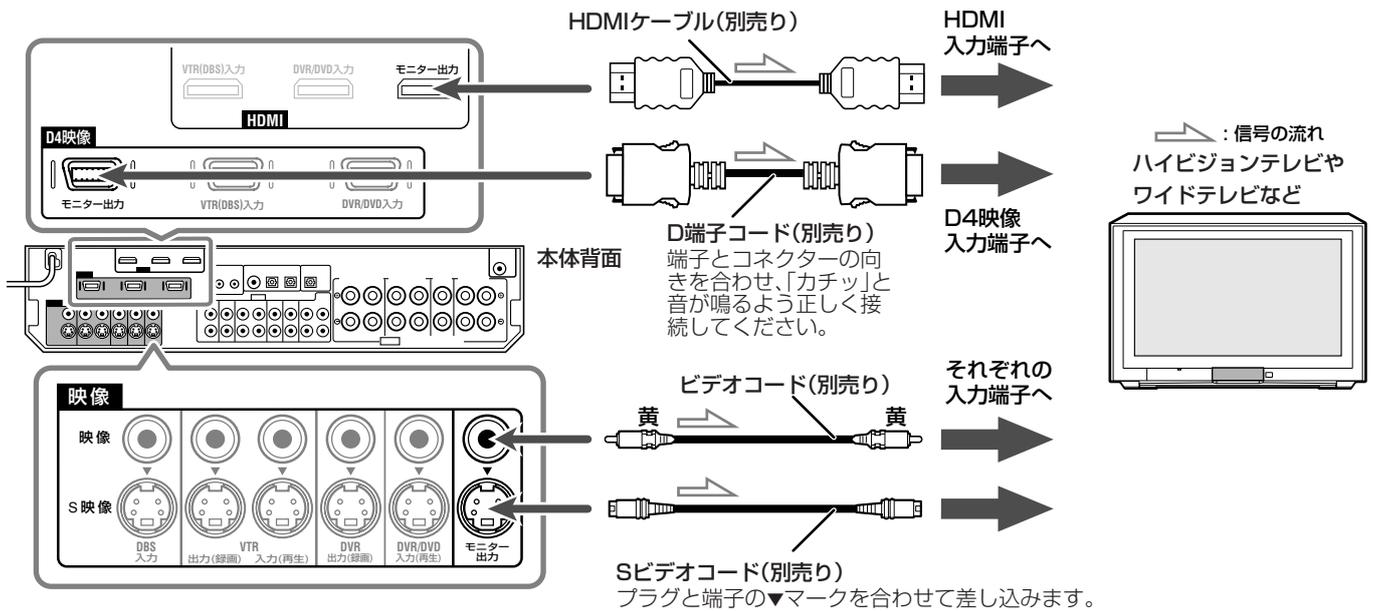
音声の接続

テレビの音声を本機に接続したスピーカーで聞くための接続です。
音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。AACサラウンドなど、より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。

- テレビをデジタル入力端子に接続するときは、接続した端子のソース（音源）名を「TV」に設定します（➡ *43*ページ）。

映像の接続

本機に接続したビデオ機器（DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、BS/CSチューナー、外部機器）の映像を、テレビで見るための接続です。
HDMIモニター出力端子、D4映像モニター出力端子、S映像モニター出力端子、映像モニター出力端子の4種の端子からいずれかを選んで接続します。
- コンポーネント映像端子付のテレビとの接続には、別売りのD端子コード（VX-DS210など）をお使いください。
- HDCP（➡ *2* ページ）によって保護されたデジタルコンテンツをお楽しみいただくときは、HDCPに対応したテレビを接続してください。
- DVI映像端子付のHDCP対応テレビとDVIで接続する際には、別売りのHDMI－DVI変換ケーブル（VX-HD215など）をお使いください。またその場合、音声入力の設定（➡ *25* ページ）を「HDMI」以外に設定してください。

接続のあとで、本機とテレビとの接続方法に合わせて映像出力の設定をおこないます（➡ *45* ページ）。

D端子コネクターの外しかた

映像接続について

本機にはHDMI端子、D4映像端子、S映像端子、映像端子の4種の端子があります。以下の順でより高品位の画質をお楽しみいただけます。
- **HDMI端子**：デジタルで映像信号を扱うため、信号の劣化を少なく高画質な映像を送れます。非圧縮のデジタルハイビジョン映像信号にも対応します（➡ *2* ページ）。
- **D4映像端子**：コンポーネント映像信号を扱い、信号フォーマットやアスペクト比などの情報も送ります。
- **S映像端子**：映像信号を輝度信号（Y）と色信号（C）に分離した信号を扱います。
- **映像端子**：輝度信号と色信号を複合した信号を扱います。

D4映像端子の種類について

本機のD4映像端子はD4信号まで対応します。本機には、D1～D4映像入力を持つDVDレコーダー/プレーヤーやテレビなどを接続できます。D4映像端子の種類と対応信号の関係は右表のようになっています。
数字の後のアルファベット「p」はプログレッシブ信号を、「i」はインターレース信号を意味します。

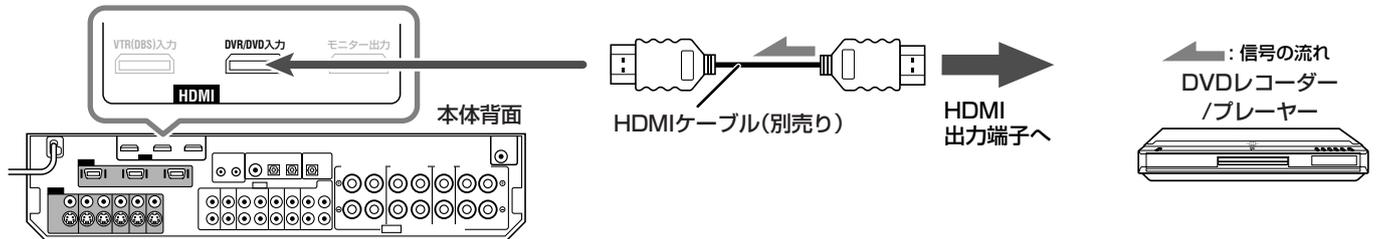
端子の種類	対応する映像信号フォーマット			
	1125i	750p	525p	525i
D4	○	○	○	○
D3	○	―	○	○
D2	―	―	○	○
D1	―	―	―	○

DVDレコーダー/プレーヤーを接続する

本機とDVDレコーダー/プレーヤーを接続します。DVDレコーダー/プレーヤーの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください(➡ 裏表紙)。

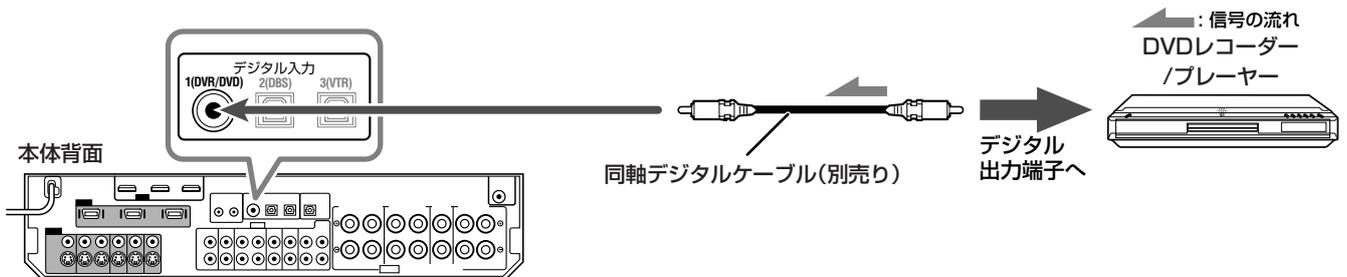
接続のあとで「映像と音声の入出力を設定する」(➡ *24*、*25* ページ)をご覧ください。

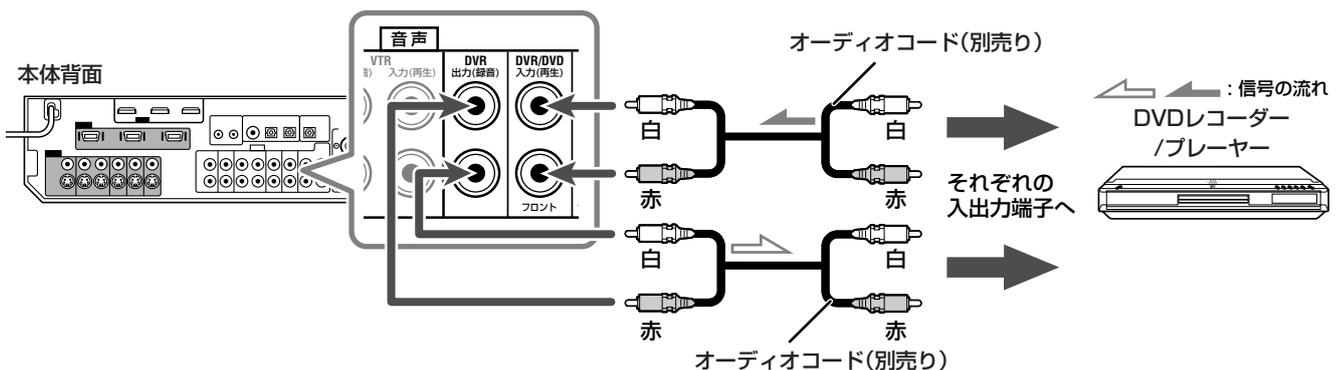
音声と映像を一本のケーブルで接続する(HDMI接続)

DVDレコーダー/プレーヤーをHDMI DVR/DVD入力端子と接続します。

音声と映像を別々のケーブルで接続する

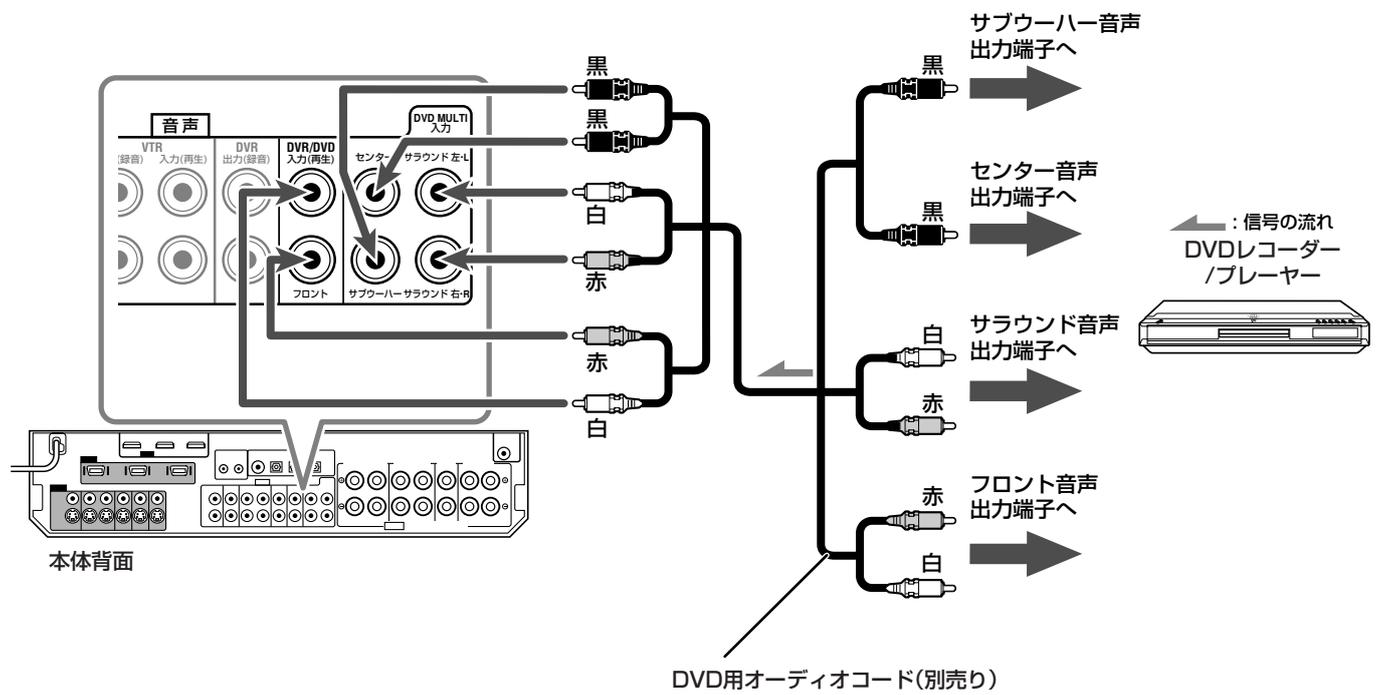
<音声の接続>

音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。
本機にアナログ入力された音声信号をデジタル出力することはできません。

■デジタル接続

- DVDレコーダー/プレーヤーを1(DVR/DVD)以外のデジタル端子に接続するときは、接続した端子のソース(音源)名を「DVR/DVD」に設定します(➡ ***43*** ページ)。

■アナログ接続
　<アナログ2チャンネル接続>

お知らせ

DVDプレーヤーと接続する場合は、DVR/DVD入力(再生)端子へのみ接続してください。

<アナログ5.1チャンネル接続>
ヘッドホンを使っているときは、入力信号のうち左右フロントチャンネル以外は出力されません。

5.1チャンネルPCMのDVDオーディオを聞く

本機では、5.1チャンネルPCMのDVDオーディオソフトを、従来のアナログ接続に加えてデジタル接続でもお楽しみいただけます。

- **アナログ接続で聞くときは**: アナログ5.1チャンネル接続をします。
- **デジタル接続で聞くときは**: HDMI接続をします。HDMI ver 1.1に対応したDVDレコーダー/プレーヤーを接続してください。

また、5.1チャンネルPCMのDVDオーディオソフトをお楽しみいただいているときは、以下の設定をすることはできません。

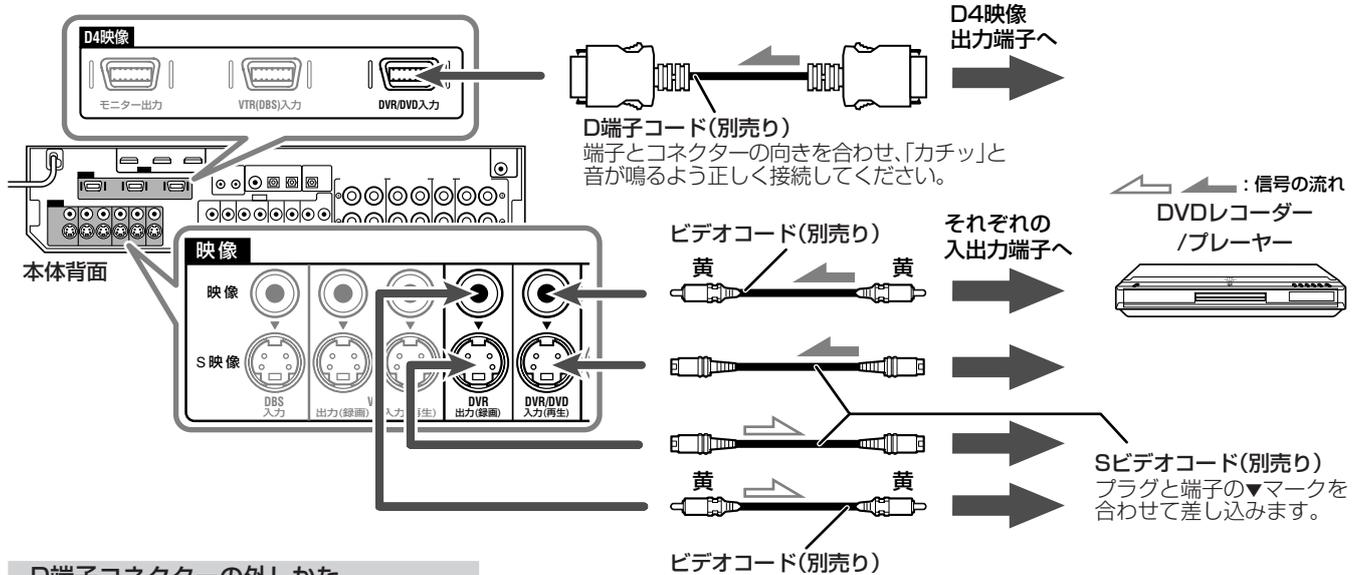
- デジタル入力信号フォーマットの切り換え(➡ ***30*** ページ)
- CCコンバーターの使用(➡ ***30*** ページ)
- セッティングメニュー(3)のすべての項目(➡ ***40***～***42*** ページ)
- セッティングメニュー(4)の音声の遅延設定(➡ ***43*** ページ)
- アジャストメニュー(1)のサラウンドバックスピーカーの出力レベルの調節(➡ ***49*** ページ)
- アジャストメニュー(2)、(3)、(4)のすべての項目(➡ ***49***～***52*** ページ)
- サラウンドの使用(➡ ***56*** ページ)

次ページに続く

DVDレコーダー/プレーヤーを接続する（つづき）

＜映像の接続＞

D4映像端子、S映像端子、映像端子の3種類の端子からいずれかを選んで接続します。

- コンポーネント映像端子付のDVDレコーダー/プレーヤーとの接続には、別売りのD端子コード（VX-DS210など）をお使いください。

お知らせ

DVDプレーヤーと接続する場合は、DVR/DVD入力（再生）端子へのみ接続してください。

ビデオデッキを接続する

本機とビデオデッキを接続します。ビデオデッキの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください（➡ 裏表紙）。

接続のあとで「映像と音声の入出力を設定する」（➡ *24*、*25* ページ）をご覧ください。

音声と映像を一本のケーブルで接続する（HDMI接続）

D-VHSビデオデッキをHDMI VTR(DBS)入力端子と接続します。
接続のあとで、HDMI VTR(DBS)入力端子のソース（音源）名を「**VTR**」に設定します（➡ ***44*** ページ）。

音声と映像を別々のケーブルで接続する

＜音声の接続＞

音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。本機にアナログ入力された音声信号をデジタル出力することはできません。

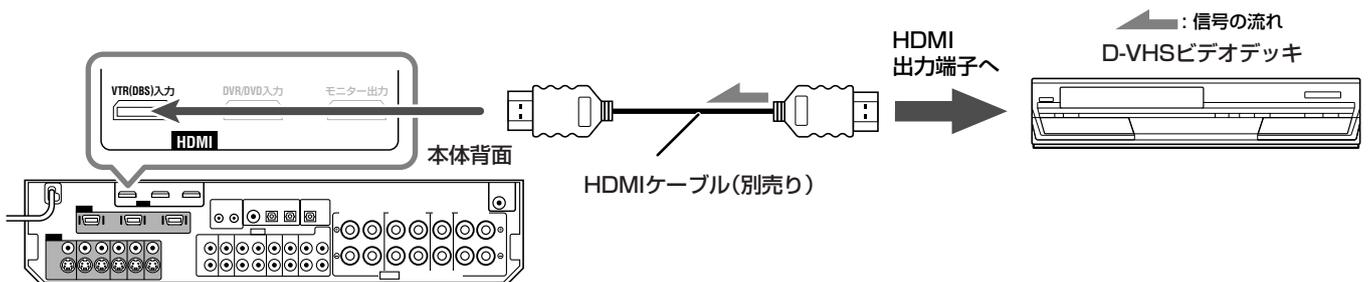
- ビデオデッキを3(VTR)以外のデジタル端子に接続するときは、接続した端子のソース(音源)名を「VTR」に設定します(➡ ***43*** ページ)。

＜映像の接続＞

D4映像端子、S映像端子、映像端子の3種類の端子からいずれかを選んで接続します。
D4映像端子に接続した場合、接続のあとで、CMPNT VTR(DBS)入力端子のソース(音源)名を「VTR」に設定します(➡ ***44*** ページ)。

- コンポーネント映像端子付のビデオデッキとの接続には、別売りのD端子コード(VX-DS210など)をお使いください。

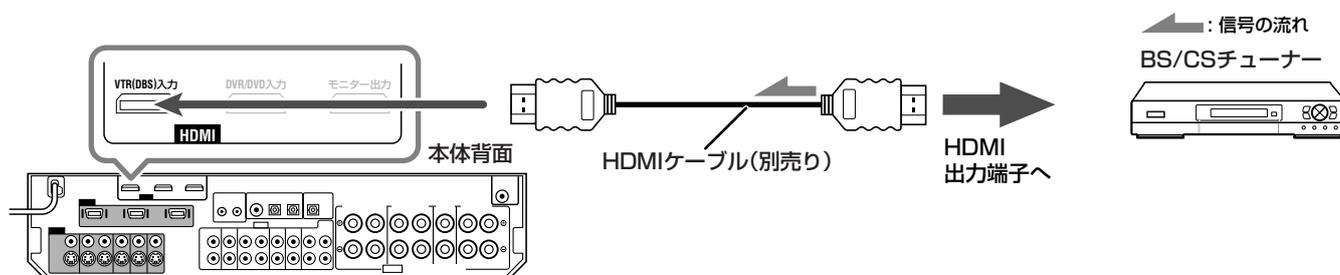
D端子コネクターの外しかた

ここの部分を押しながら、コネクターを引いて外します。

BS/CSチューナーを接続する

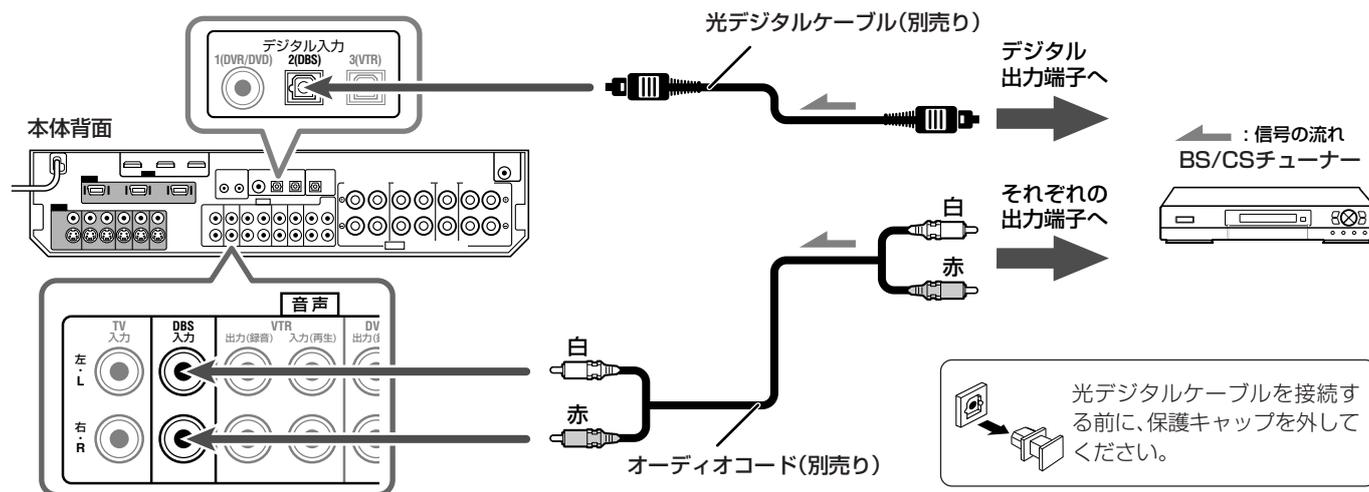
本機とBS/CSチューナーを接続します。BS/CSチューナーの取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください（➡ 裏表紙）。

接続のあとで「映像と音声の入出力を設定する」（➡ *24*、*25* ページ）をご覧ください。

音声と映像を一本のケーブルで接続する（HDMI接続）

ビデオデッキをHDMI VTR(DBS)入力端子と接続します。
接続のあとで、HDMI VTR(DBS)入力端子のソース（音源）名を「DBS」に設定します（➡ *44* ページ）。

音声と映像を別々のケーブルで接続する

<音声の接続>

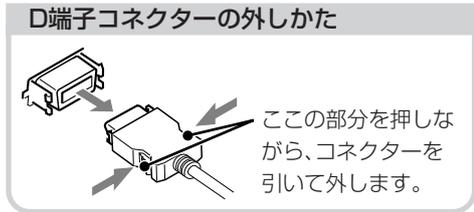
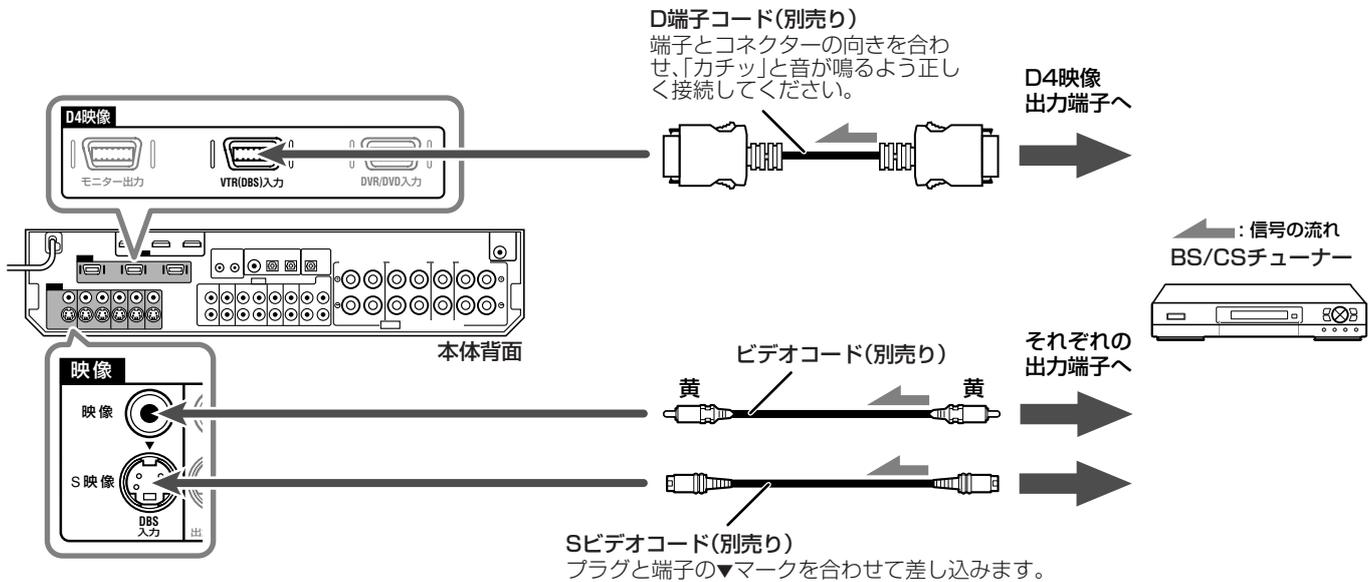
音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。
本機にアナログ入力された音声信号をデジタル出力することはできません。

• BS/CSチューナーを2（DBS）以外のデジタル端子に接続するときは、接続した端子のソース（音源）名を「DBS」に変更します（➡ *43* ページ）。

＜映像の接続＞

D4映像端子、S映像端子、映像端子の3種類の端子からいずれかを選んで接続します。

D4 映像端子に接続した場合、接続のあとで、CMPNT VTR(DBS)入力端子のソース（音源）名を「DBS」に設定します（➡ ***44*** ページ）。

- コンポーネント映像端子付のBS/CSチューナーとの接続には、別売りのD端子コード（VX-DS210など）をお使いください。

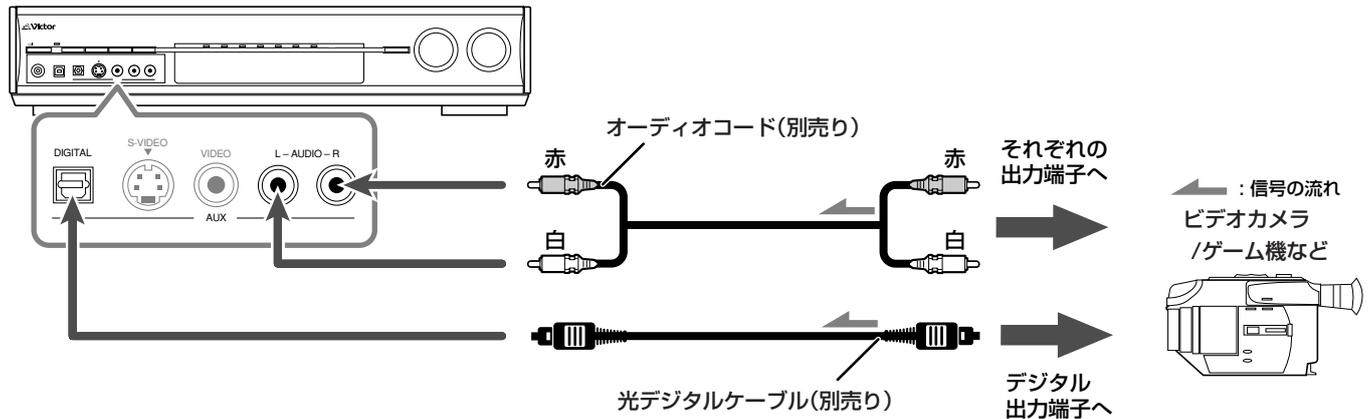
D端子コネクターの外しかた

その他の外部機器を接続する

本機とビデオカメラ、ゲーム機、ポータブルオーディオ機器などを接続します。接続機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
接続には、別売りのコードをお使いください（➡ 裏表紙）。

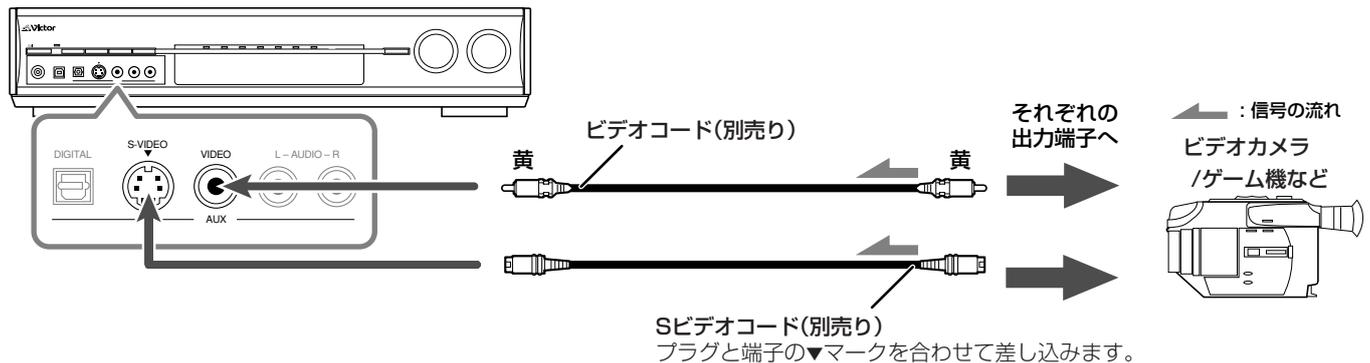
接続のあとで「映像と音声の入出力を設定する」（➡ *24*、*25* ページ）をご覧ください。

音声の接続

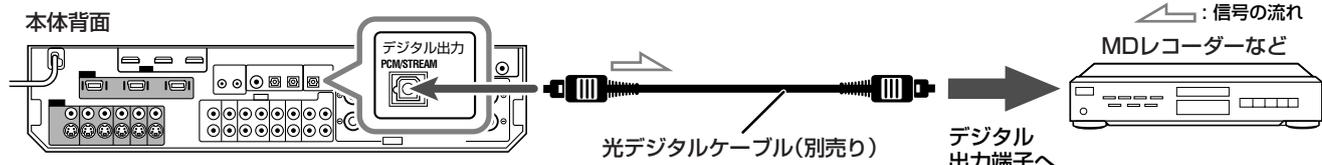
音声端子の接続にはアナログ接続とデジタル接続があります。より良い音質でお楽しみいただくには、デジタル接続をお勧めします。
本機にアナログ入力された音声信号をデジタル出力することはできません。

本体前面（前面扉を開けてください。➡ *9* ページ）

映像の接続

S映像端子または映像端子のどちらかを選んで接続します。

本体前面（前面扉を開けてください。➡ *9* ページ）

デジタル音声を出力する

録音/録画機器にデジタル音声を出力するには、デジタル出力端子に接続します。
本機に入力されたデジタル音声信号がそのまま出力されます。

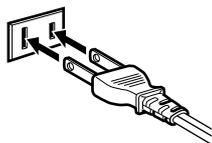
本体背面

お知らせ

以下の信号を出力することはできません。
- アナログ接続で入力された音声信号
- HDMI入力端子およびUSB入力端子に入力された音声信号

光デジタルケーブルを接続する前に、保護キャップを外してください。

電源コードを接続する

接続がすべて終わってから、電源コードを家庭用コンセントに差し込んでください。
電源コードを接続すると、本体のスタンバイランプが点灯します。

家庭用コンセント
AC100V、50Hz/60Hz

お知らせ

サラウンドなどの設定は、次のような場合に取り消されることがあります。このようなときは、もう一度設定し直してください。

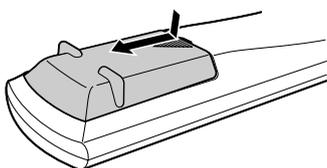
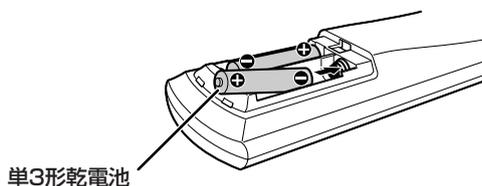
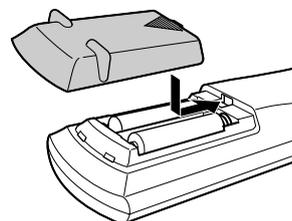
- 電源コードをコンセントから抜いたとき
- 停電が起こったとき

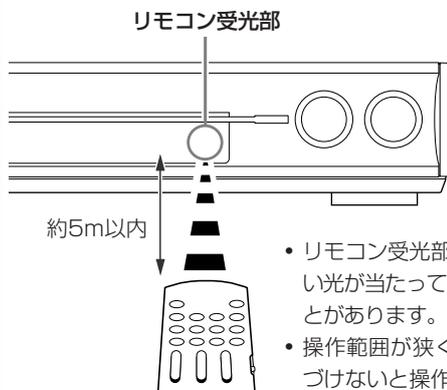
ご注意

- 電源コードはテレビやビデオデッキなどから離してください。接近していると雑音が発生したり、映像が乱れたりする場合があります。
- 濡れた手で電源コードを触らないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、必ずプラグの部分を持って抜いてください。

リモコンを準備する

単3形の乾電池を2本入れます。**電池の極性**(⊕、⊖)を間違えないように入れてください。

1. 裏ブタを外す
矢印の方向にスライドさせます。

2. 単3形乾電池を2本入れる
リモコン内部の表示に極性(⊕ ⊖)を合わせ、正しく入れてください。

3. 裏ブタをしめる
矢印の方向に戻します。

リモコンの操作範囲について

- リモコンの先端を本体前面のリモコン受光部に向けて操作します。操作可能な距離は、リモコン受光部より約5mですが、斜めから操作すると短くなります。

- リモコン受光部に直射日光などの強い光が当たっていると、動作しないことがあります。
- 操作範囲が狭くなったり、本体に近づけないと操作できなくなったときは、新しい電池と交換してください。

お知らせ

- リモコンの先端を本体のリモコン受光部に向けて操作します。斜めから使用したり、リモコン受光部との間に障害物等があると、リモコンで操作できない場合があります。
- 操作範囲が狭くなってきたり、本体に近づけないと操作できなくなってきたときは、乾電池が消耗しています。2本とも同じ種類の新しい単3形乾電池と交換してください。
- 付属の乾電池は動作確認用です。早目に新しい単3形乾電池と交換してください。
- 充電式電池などは使わないでください。
- 長い間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。

映像と音声の入出力を設定する

接続のあとに、次の設定をおこなってください。

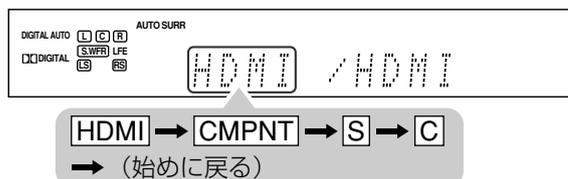
- **映像出力の設定をする**：本機とテレビの接続方法に合わせて設定します。設定方法は「映像出力の設定」（➡ ***45*** ページ）をご覧ください。

- **映像入力の設定をする**：本機と再生機器の接続方法に合わせてソース（音源）ごとに設定します。ソース（音源）や映像出力の設定によって選べる設定項目が異なります。詳しくは下図「選択できる映像入力の設定項目」をご覧ください。

リモコンのビデオ入力ボタンを押す

ビデオ入力ボタンを押すごとに、映像入力が次のように切り換わります。

DIGITAL AUTO　L C R　AUTO SURR
S.WFR LFE
DIGITAL　LS RS
HDMI /HDMI

HDMI ➡ CMPNT ➡ S ➡ C
➡（始めに戻る）

HDMI	：接続機器を本機のHDMI入力端子に接続しているときに選びます。 [ソース（音源）DVR/DVDとVTRのお買い上げ時の設定]
CMPNT（コンポーネント）	：接続機器を本機のD4映像入力端子に接続しているときに選びます。
S	：接続機器を本機のS映像入力端子に接続しているときに選びます。 [ソース（音源）DBSとAUXのお買い上げ時の設定]
C	：接続機器を本機の映像入力端子に接続しているときに選びます。

- この設定を「**HDMI**」にしたときは、テレビ画面上にメニュー画面は表示されません。
- この設定は、各ソース（音源）ごとに記憶されます。

選択できる映像入力の設定項目

■ ソース（音源）DVR/DVD、VTR、DBSの場合

映像出力設定＼映像入力設定	HDMI*1	CMPNT*1	S	C
HDMI	○	○	○	○
CMPNT	—	○	○	○
S	—	—	○	○
C	—	—	○	○

○：選択可/—：選択不可

■ ソース（音源）AUXの場合

映像出力設定＼映像入力設定	HDMI	CMPNT	S	C
HDMI	—	—	○	○
CMPNT	—	—	○	○
S	—	—	○	○
C	—	—	○	○

○：選択可/—：選択不可

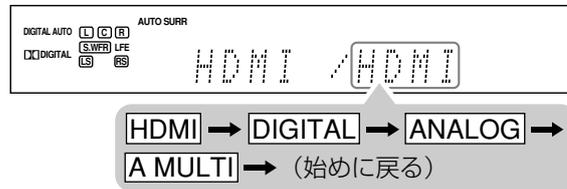
映像出力の設定と映像入力の設定で選択した端子が異なる場合、本機に入力された映像信号は映像出力の設定に対応した信号に変換されて出力されます。映像信号の変換については「ビデオコンバーターについて」（➡ ***14*** ページ）をご覧ください。

*1　ソース（音源）VTRとDBSは、HDMI入力端子とD4映像入力端子を共有しています。そのため、映像入力の設定は「HDMI VTR(DBS)入力端子とD4 VTR(DBS)入力端子のソース（音源）名の割り当て」（➡ ***44*** ページ）の設定より、「**HDMI**」または「**CMPNT**」のどちらかを選ぶことができます。

• 音声入力の設定をする：本機と接続機器の接続方法に合わせて、ソース（音源）ごとに設定します。ソース（音源）や映像入力の設定によって選べる設定項目が異なります。詳しくは下図「選択できる音声入力の設定項目」をご覧ください。

リモコンのオーディオ入力ボタンを押す

オーディオボタンを押すごとに、音声入力が次のように切り換わります。

HDMI → DIGITAL → ANALOG → A MULTI →（始めに戻る）

HDMI	HDMI音声を聞くときに選びます。デジタル信号を自動判別し、判別された信号フォーマット表示が表示窓に点灯します。［ソース（音源）DVR/DVDとVTRのお買い上げ時の設定］
DIGITAL（デジタル）	デジタル音声を聞くときに選びます。デジタル信号を自動判別し、判別された信号フォーマット表示が表示窓に点灯します。［ソース（音源）DBSとAUXのお買い上げ時の設定］
ANALOG（アナログ）	アナログ音声を聞くときに選びます。表示窓のANALOG表示が点灯します。［ソース（音源）TVのお買い上げ時の設定］
A MULTI	ソース（音源）に「DVR/DVD」を選び、アナログ5.1チャンネル音声を聞くときに選びます。表示窓のANALOG表示が点灯します。

• この設定は、各ソース（音源）ごとに記憶されます。

選択できる音声入力の設定項目

映像入力設定＼音声入力設定	HDMI*2	DIGITAL*3	ANALOG	A MULTI*4
HDMI	○	○	○	○
CMPNT	—	○	○	○
S	—	○	○	○
C	—	○	○	○

○：選択可/－：選択不可

• ソース（音源）USBは「DIGITAL」で固定されています。
• ソース（音源）TVに対しては「DIGITAL」または「ANALOG」のみ選ぶことができます。

*2 「HDMI」はソース（音源）DVR/DVD、VTR、DBSに対してのみ選ぶことができます。
*3 デジタル入力端子が割り当てられていないソース（音源）に対して選ぶことはできません（➡ *43* ページ）。
*4 「A MULTI」はソース（音源）DVR/DVDに対してのみ選ぶことができます。

デジタル信号について

本機で表示されるデジタル信号は次の5つです。デジタル音声が入力されると、対応するデジタル音声フォーマット表示が表示窓に点灯します。

LINEAR PCM：リニアPCMのとき点灯します。
DIGITAL：ドルビーデジタル対応信号のとき点灯します。
dts：DTSデジタルサラウンド対応信号のとき点灯します。
dts 96/24：DTS 96/24信号のとき点灯します。
MPEG-2 AAC：MPEG-2 AAC信号のとき点灯します。

パソコンを接続する(USB接続)

本機とパソコンをUSB接続します。パソコンからの音声を本機を通してお楽しみいただけます。

お知らせ

本機で音声を聞くことのできるパソコンは、CD-ROMドライブとUSB端子を装備し、以下のOSがインストールされたパソコンです。

- Windows®98 SE
- Windows®Me
- Windows®2000
- Windows®XP
  Windows®98 SE、Windows®Me、Windows®2000、Windows®XPは、米国Microsoft Corporationの商標または登録商標です。

1 パソコンの電源を入れる

既にパソコンの電源が入っていてアプリケーションが開いているときは、すべてのアプリケーションを終了させてください。

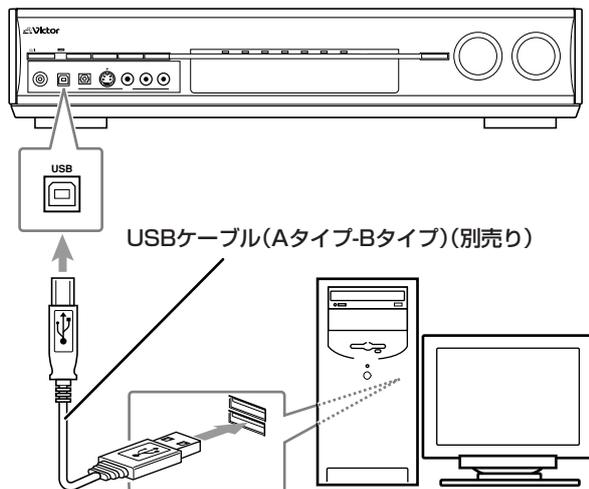
2 本機の電源を入れ、ソース(音源)に「USB」を選ぶ

- 本機の電源の入れ方やソース(音源)の選び方は、***27*** または***28*** ページをご覧ください。

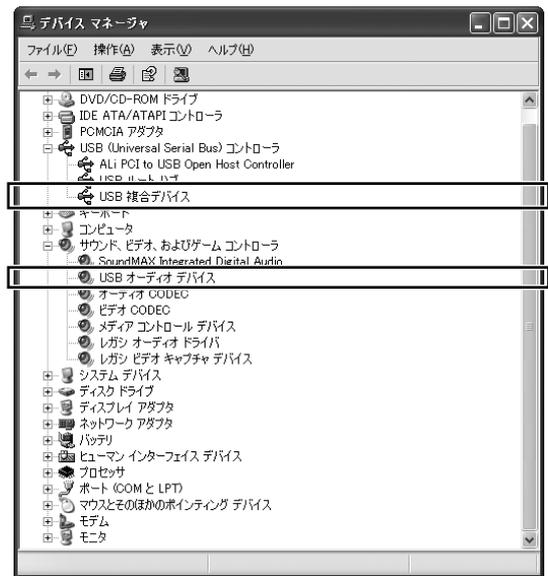
3 本機の音量を最小にする

- 本機の音量の調節方法は、***27***または***28*** ページをご覧ください。

4 本機とパソコンをUSBケーブルで接続する

USBドライバーがパソコンへ自動的にインストールされます。

5 パソコンにドライバーがインストールされているかを確認する

ここではWindows®XPで説明します。

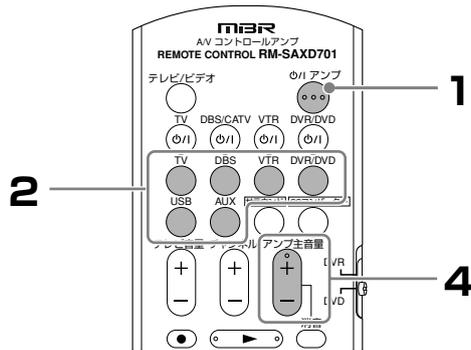
以下の手順でパソコンの画面を開きます。
[スタート]→[コントロール パネル]→[システム]→[ハードウェア]→[デバイス マネージャ]を開きます。
[サウンド、ビデオ、およびゲーム コントローラー]フォルダの中に「USB オーディオ デバイス」、[USB(Universal Serial Bus)コントローラー]フォルダの中に「USB 複合デバイス」があればインストールは完了しています。

- インストールされたUSBドライバーは、本機とパソコンがUSBケーブルで接続されているとき、「デバイス マネージャ」に現れます。

お知らせ

接続したパソコンの設定やスペックによっては、うまく再生されなかったり、音がとんだり、音質が落ちたりする場合があります。
もしパソコンが本機を認識しないときは、一度接続を外し、もう一度つないでください。それでも認識しないときは、パソコンを再起動してください。

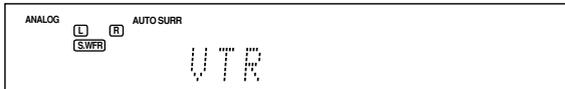
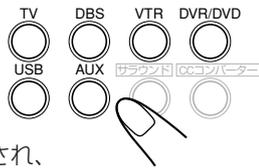
ご注意

- ドライバーをインストール中やパソコンが本機を認識している間は、本機の電源を「**切**」にしたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。
- USBケーブルはバージョン1.1以降のものをご利用ください。また、1.5メートル以下の長さのものをご利用することをお勧めします。
- パソコンからの音声を本機を通して聞かないときは、接続を外してください。
- 本機からパソコンへデータを送信することはできません。

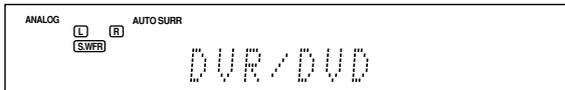
リモコンから

1 ⏻/I アンプボタンを押して本機の電源を「入」にする

本体のスタンバイランプが消灯します。
電源を「切」にする前に聞いていたソース(音源)が選ばれ、表示窓に表示されます。

例:最後に「VTR」を選んでいた場合

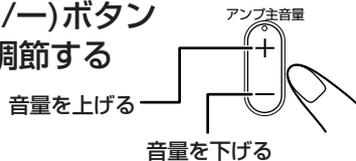
ANALOG L R S.WFR AUTO SURR
VTR

2 ソース(音源)機器選択ボタンを押して再生するソース(音源)を選ぶ

選んだソース(音源)名が表示され、
ソースランプが緑に点灯します。

例:「DVR/DVD」を選んだ場合

ANALOG L R S.WFR AUTO SURR
DVR/DVD

3 接続したAV機器を再生する

接続した機器を操作するときは、それぞれのAV機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

4 アンプ主音量(+/ー)ボタンを押して音量を調節する

DIGITAL AUTO L C R S.WFR LFE DIGITAL LS RS AUTO SURR
VOLUME 20

音量レベルは、0(最小)〜50(最大)までの範囲で調節できます。

電源を「切」にする

⏻/I アンプボタンを押します。
本体のスタンバイランプが点灯します。

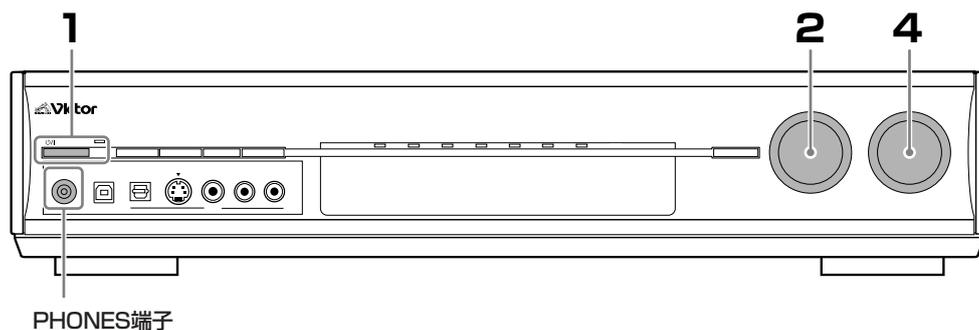
お知らせ

- ソース機器の電源を入れてから本機の電源を「入」にした場合、再生中に雑音が聞こえたり映像が乱れることがあります。その場合は、一度両方の機器の電源を切り、本機の電源を「入」にしてからソース機器の電源を入れてください。
- メニュー画面の表示設定を「ON」に設定していると、選択したソース(音源)名や調節した音量が、数秒間テレビ画面に表示されます(➡ *45* ページ)。

ご注意

次のような操作をする前には、必ず音量を最小にしてください。
音量を上げたまま操作すると、突然大きな音が出て聴力障害の原因となったり、スピーカーを破損したりする場合があります。
- 本機の電源を「入」⟺「切」するとき
- ヘッドホンをつけるときや、ヘッドホンのプラグを抜き差しするとき

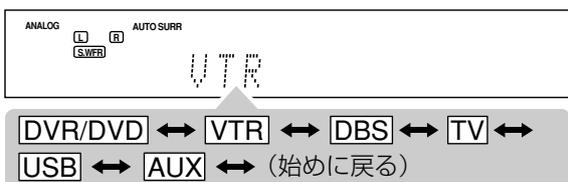
本体から操作するときも同様です。

本体から

1 ⏻/I STANDBY/ONボタンを押して本機の電源を入れる

スタンバイランプが消灯します。
電源を「切」にする前に聞いていたソース（音源）が選ばれ、本体表示窓に表示されます。

例：最後に「VTR」を選んでいた場合

2 SOURCE SELECTOR/MULTI JOGを回して再生するソース（音源）を選ぶ

回すごとにソース（音源）名が切り換わります。
ソース（音源）に合わせて、ソースランプが緑に点灯します。

3 接続したAV機器を再生する

接続した機器を操作するときは、それぞれのAV機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

4 MASTER VOLUMEを回して音量を調節する

音量レベルは、0（最小）〜50（最大）までの範囲で調節できます。

電源を「切」にする

⏻/I STANDBY/ONボタンを押します。
スタンバイランプが点灯します。

お知らせ

メニュー画面の表示設定を「ON」に設定していると、選択したソース（音源）名や調節した音量が、数秒間テレビ画面に表示されます（➡ *45* ページ）。

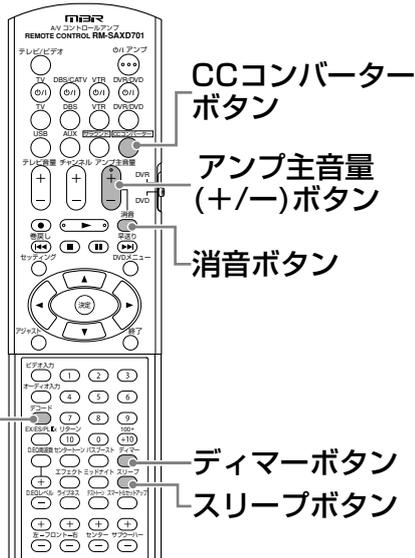
ヘッドホンで楽しむ

本体PHONES端子にヘッドホンを差し込むと自動的にヘッドホンモードになり、スピーカーからの音声は出なくなります。表示窓に「HEADPHONE」が表示されHEADPHONE表示が点灯します。ヘッドホンを使うときは、スピーカーの設定に関係なく次の信号が出力されます。

- マルチチャンネル信号が入力されたときは、各チャンネルの音声信号がダウンミックスされ、左右のヘッドホンに振り分けられて再生されます。HDMI接続で5.1チャンネルPCMのDVDオーディオを再生しているとき、またはアナログ5.1チャンネル接続でDVDを再生しているときは、左右フロントチャンネルの信号が再生されます。
- ヘッドホンでもサラウンドを楽しむことができます。サラウンドを使用しているときにヘッドホンを使用すると、表示窓に「3D HEADPHONE」と表示され、HEADPHONE表示、DSP表示が点灯します。

HEADPHONE表示　DSP表示

便利な機能

リモコンから

一時的に音を消す（消音）

電話がかかってきたときなど、音を一時的に消したいときに便利です。

消音ボタンを押す

本体表示窓に「MUTING（ミューティング）」と表示されます。
スピーカーとヘッドホンから音が出なくなります。

もとの音量に戻すには

アンプ主音量(＋/－)ボタンを押すか、もう一度**消音**ボタンを押します。本体のMASTER VOLUMEを回しても、もとの音量に戻ります。

照明の明るさを変える（ディマー）

映画ソフトなどをご覧になるときなど、本体表示窓および青のイルミネーションの明るさを変えたいときに使います。

ディマーボタンを押す

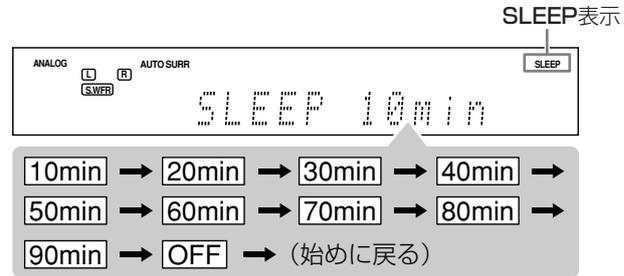
ディマーボタンを押すごとに、明るさが4段階に変化します。

おやすみタイマーを使う（スリープタイマー）

音楽を聞きながら眠りたいときなどに使います。
設定した時間が経過すると本機の電源が自動的に「**切**」になります。

スリープボタンを押す

スリープボタンを押すごとに、設定時間（分）が次のように切り換わります。

10min → 20min → 30min → 40min → 50min → 60min → 70min → 80min → 90min → OFF →（始めに戻る）

- おやすみタイマーの動作中は、表示窓のSLEEP表示が点灯します。

設定した時間が経過すると、自動的に電源が「**切**」になります。

電源が「切」になるまでの時間を確かめたり、設定時間を変える

おやすみタイマーを設定後に**スリープ**ボタンを1回押すと、電源が「**切**」になるまでの時間が表示されます。
設定時間を変更するときは、**スリープ**ボタンをくり返し押して希望の時間を選びます。

おやすみタイマーを解除する

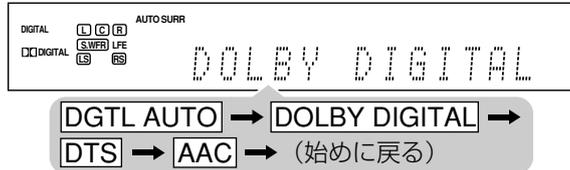
スリープボタンをくり返し押して「**OFF**」を表示させます。おやすみタイマーが解除されSLEEP表示は消灯します。
電源を「**切**」にしたときにも、おやすみタイマーは解除されます。

デジタル入力信号フォーマットを切り換える

音声入力の設定（➡ ***25*** ページ）で「HDMI」または「DIGITAL」に設定しているときに、無音状態やノイズによってデジタル信号が正しく判別できないことがあります。このような場合に、手動でデジタル入力信号フォーマットを切り換えることができます。

デコードボタンを押す

デコードボタンを押すごとに、デジタル入力信号フォーマットが次のように切り換わります。

DGTL AUTO ➡ DOLBY DIGITAL ➡ DTS ➡ AAC ➡（始めに戻る）

DGTL AUTO（オート）	：デジタル信号を自動判別します。表示窓の「DGTL AUTO」表示と判別された信号フォーマット表示が点灯します。
DOLBY DIGITAL（ドルビー）	：Dolby Digital対応信号を聞きたいときに選びます。Dolby Digital信号が入力されると、表示窓の「DIGITAL」表示とDD DIGITAL表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。
DTS	：DTSデジタルサラウンド対応信号を聞きたいときに選びます。DTS信号が入力されると、表示窓の「DIGITAL」表示とdts表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。 • DTS 96/24信号が入力されたときは**96/24**表示も点灯します。
AAC	：MPEG-2 AAC対応信号を聞きたいときに選びます。MPEG-2 AAC対応信号が入力されると、表示窓の「DIGITAL」表示と**MPEG-2 AAC**表示が点灯し、それ以外の信号が入力されると点滅します。

- 本機の電源を「切」にしたり、ソース（音源）選択ボタンで別のソース（音源）を選んだときは、「DGTL AUTO」に戻ります。

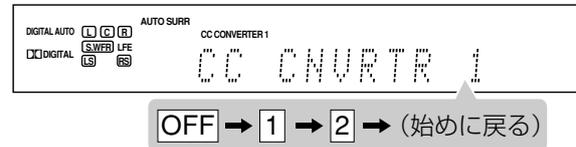
デジタル入力端子に割り当てられているソース（音源）名が接続機器名と合っていない場合は、デジタル入力に切り換えることができません。それぞれのデジタル入力端子に、接続した機器名と同じソース（音源）名を正しく設定してください。詳しくは「デジタル入力端子のソース（音源）名の割り当て」（➡ ***43*** ページ）をご覧ください。

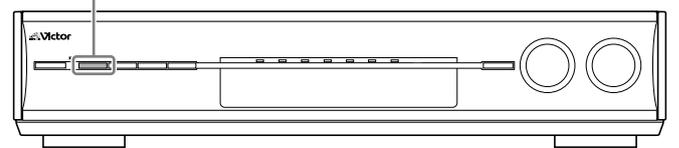
CCコンバーターを使う

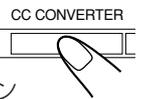
CCコンバーターは、ハイビット（24bit）/ハイサンプリング（128 kHz、176.4 kHzまたは192 kHz）処理によって入力信号を作り直し、本来記録されているべき信号を補完した自然な音声再生を可能にします。

CCコンバーターボタンを押す

CCコンバーターボタンを押すごとに、表示が次のように切り換わります。

OFF ➡ 1 ➡ 2 ➡（始めに戻る）

- 本体でも同じ設定をすることができます。

CC CONVERTERボタン

CC CONVERTERボタンを押す

CC CONVERTERボタンを押すごとに、リモコンでの設定時と同じように表示が切り換わります。

CC CNVRTR 1（コンバーター）	：アナログ音声やリニアPCMなどの圧縮されていないデジタル音声信号を聞くときに選びます。表示窓の「CC CONVERTER1」が点灯します。
CC CNVRTR 2	：DTSやDolby Digitalなどの圧縮されたデジタル音声信号を聞くときに選びます。表示窓の「CC CONVERTER 2」が点灯します。
CC CNVRTR OFF	：CC コンバーターを使用しません。［お買い上げ時の設定］

- この設定は、各ソース（音源）ごとに記憶されます。

その他の機能について

本機は、次のような操作をしたとき、自動的にソース（音源）ごとの設定を記憶します。
- 本機の電源を「切」にしたとき
- 本機のソース（音源）を切り換えたとき

また、ソース（音源）ごとの設定は、最後に操作した状態を常に記憶し、再び同じソース（音源）を選んだときにその設定が呼び出されます。ソース（音源）ごとに次の内容が記憶されます。
- 音声入力の設定
- 映像入力の設定
- スピーカーの出力レベル
- バスブーストの設定
- インプットアッテネーターの設定
- サラウンドモードの設定
- イコライザー調節
- ミッドナイトモードの設定
- ワンタッチオペレーションの設定が「ON」のときに設定された主音量

スピーカーの設定をする

スピーカーの設定について

■スピーカーの設定項目について

接続したスピーカーの情報（有無、サイズ、設置数など）を本機に設定することで、Dolby DigitalやDTSの7.1チャンネルサラウンド（➡ ***53***、***54*** ページ）などの再生に最適な音場を再現することができます。
スピーカーの設定には次の3項目があります。( )内はテレビ画面上のメインメニュー画面に表示される設定項目名です。

サブウーハーの設定（SUBWOOFER）	サブウーハーを使用するかどうかを設定します。
スピーカーのサイズ設定（FRONT SPK、CENTER SPK、SURR SPK、S BACK SPK）	フロントスピーカー（FRONT SPK）、センタースピーカー（CENTER SPK）、サラウンドスピーカー（SURR SPK）、サラウンドバックスピーカー（S BACK SPK）について、使用するかどうか、またはユニットのサイズを設定します。
サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定（S BACK OUT）	サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数を設定します。
スピーカーの距離設定（FL SPK DIST.、FR SPK DIST.、C SPK DIST.、SL SPK DIST.、SR SPK DIST.、SBL SPK DIST.、SBR SPK DIST.）	各スピーカーをリスニングポジションから等距離に配置できないときに使う設定です。理想的配置に近づけるために出力タイミングの遅れを調節します。

■スマートサラウンドセットアップについて

スマートサラウンドセットアップ機能を使うと、拍手ひとつで各スピーカーの距離設定*[1]と出力レベル調節*[2]を簡単におこなうことができます。
・ サブウーハーの設定やスピーカーのサイズ設定など項目ごとの設定を変更したり、より詳細な設定をしたい場合は、「詳細なスピーカー設定」（➡ ***37***～***39*** ページ）でおこなってください。

*[1]**距離設定とは…**

各スピーカーからの音声がリスニングポジションに同時に到達するためには、各スピーカーを等距離に設置することが必要です。本機では、スピーカーを等距離に設置できないときでも、音声が同時に到達できるようにスピーカーからの音声出力のタイミングを遅らせることができます。

*[2]**スピーカーの出力レベル調節とは…**

サラウンドなど複数のスピーカーを使用するときは、各スピーカーからの音声をリスニングポジションで聞いたときに、同じ音量になることが理想的です。
本機では、各スピーカーごとに出力レベルを調節し、スピーカーからの音量を同じ大きさに揃えることができます。
詳しくは、「スピーカー出力レベルの調節」（➡ ***49*** ページ）をご覧ください。

スマートサラウンドセットアップ

ふだん視聴する場所（リスニングポジション）で一回手を叩きます。本機では、接続されたスピーカーをマイクのように使ってその音を拾い、スピーカーの距離設定*[1]と出力レベル調節*[2]をおこないます。

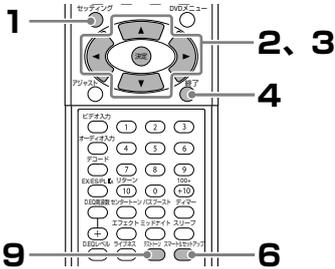
- **より正確な設定をするために以下の点にご留意ください。**
  - **本機の音量を「0」する。**
  - **本機や、接続したスピーカーの近くにある機器（DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、BS/CSチューナー、テレビ、サブウーハーなど）の電源を切る。**
- 設定は、全てのスピーカー（左右のフロントスピーカー、センタースピーカー、左右のサラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー）を接続した状態で行ってください。センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを接続しない場合や、設定内容を変更したいときは「詳細なスピーカー設定」（➡ ***37***～***39*** ページ）をおこなってください。詳細なスピーカー設定でスピーカーの距離設定を行った場合は、スマートサラウンドセットアップによる設定は無効になります。
- 設定の前に各スピーカーの接続（➡ ***13*** ページ）をご確認ください。
- メニュー操作をテレビ画面*または本体表示窓で確認しながらおこなうことができます。本体表示窓で確認するときは、ディマーを解除していること（➡ ***28*** ページ）をご確認ください。

* 映像入力の設定（➡ ***24*** ページ）が「HDMI」のときは表示されません。

次ページに続く

スマートサラウンドセットアップ(つづき)

ここではリモコンとテレビ画面表示を使っての操作を説明します。
- スマートサラウンドセットアップ設定はリモコンでのみ設定ができます。
- スピーカーのサイズやサブウーハー使用の有無の設定は、本体とリモコンの両方で設定ができます。

リモコンのみ

1 **セッティングボタンを押す**

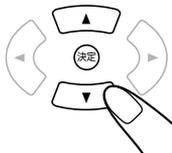
セッティング

メインニュー画面が表示されます。
前回設定したセッティング項目が反転表示されます。

例:前回「SUBWOOFER」を設定していた場合

```
SETTING MENU (1)
▲
SUBWOOFER        :     NO
FRONT     SPK    :  LARGE
CENTER    SPK    :  SMALL
SURR      SPK    :  SMALL
S BACK    SPK    :  SMALL
S BACK    OUT    :    2SPK
▼
(SET):ENTER     (EXIT):EXIT
```

以下の項目を設定します。
- サブウーハー使用の有無(SUBWOOFER)
- スピーカーのサイズ(FRONT SPK、CENTER SPK、SURR SPK、S BACK SPK)
- サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数(S BACK OUT)
- 各設定項目についてはそれぞれの説明をご覧ください(➡ ***37***、***38*** ページ)。

2 **▲または▼ボタンを押して設定する項目を反転表示させ、決定ボタンを押す**

サブメニュー画面が表示されます。

例:「SUBWOOFER」を選んだ場合

```
SUBWOOFER

SUBWOOFER        :◄  NO   ►
```

3 **◄または►ボタンを押して設定する値を表示させ、決定ボタンを押す**

設定が記憶され、メインメニュー画面に戻ります。

例:「SUBWOOFER」を設定する場合

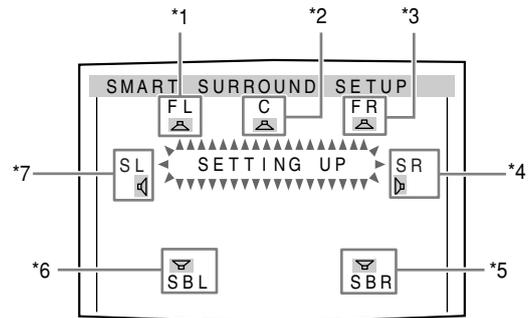
```
SUBWOOFER

SUBWOOFER        :◄  NO   ►
```

YES ⟷ NO

4 **全ての設定が終わったら、終了ボタンを押す**

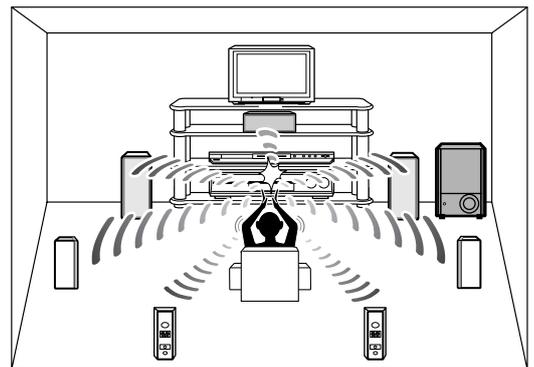
5 **ふだん視聴する場所(リスニングポジション)に座る**

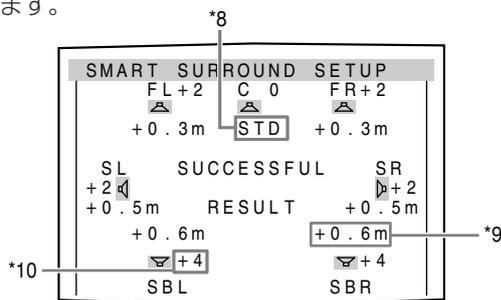
6 **テレビ画面に「SETTING UP」が点滅し始めるまでリモコンのスマートS.セットアップボタンを押し続ける**

しばらく点滅すると点灯に変わります。

- それまでの距離設定と出力レベル設定は無効になります。

*1 FL : 左フロントスピーカー
*2 C : センタースピーカー
*3 FR : 右フロントスピーカー
*4 SR : 右サラウンドスピーカー
*5 SBR : 右サラウンドバックスピーカー
*6 SBL : 左サラウンドバックスピーカー
*7 SL : 左サラウンドスピーカー

7 **「CLAP YOUR HANDS」が表示されたら、リスニングポジションから一回手を叩く**

音が体で妨げられないように頭上で叩きます。

8 メッセージを確認する

手を叩いた後に、設定された値とメッセージが表示されます。

*8 ： STD
標準チャンネル（もっとも近くにあるスピーカー）
基準になるスピーカーを表示します。このスピーカーまでの距離は0mに設定されます。他のスピーカーはこの距離を基準に設定されます。

*9 ： 標準チャンネルとの距離の差
各スピーカーに設定された距離が、標準チャンネルとの差として表示されます。

*10： 出力レベル
各スピーカーの出力レベルが表示されます。

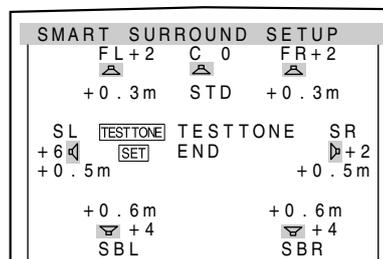
SUCCESSFUL ：各スピーカーに拍手の音が届き、設定に成功しました。自動設定された値が表示されます。

SILENT ：フロントスピーカーのみが検出されたとき、あるいはセンタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーのうち、いずれかが検出されたとき。

SILENT-ALL ：すべてのスピーカーに拍手の音が10秒間届いていません。

AGAIN ：フロントスピーカーの左右どちらかに拍手の音が届いていません。または設定に失敗しました。

- 「SILENT」、「SILENT-ALL」または「AGAIN」が表示された場合は、再度テレビ画面に「SETTING UP」と表示されます。このときは手順7をもう一度おこなってください。
- 3回続けて「SILENT-ALL」または「AGAIN」だった場合は「MANUAL」と表示されます。このときは詳細なスピーカー設定（➡ *37*～*39* ページ）をおこなってください。
- 次の場合、検出できなかったスピーカーの距離は「9m」に設定されます。
  - ・2回続けて「SILENT」だった場合
  - ・「SILENT-ALL」または「AGAIN」のいずれかが2回表示されたあと、3度目が「SILENT」だった場合

9 スマートサラウンドセットアップに続いて、テストトーンによるスピーカー出力レベルの設定をするかを選ぶ画面が表示されます。

- テストトーンをおこなう場合は、**テストトーン**ボタンを押します（➡ *59* ページ）。
- スマートサラウンドセットアップ設定を終了する場合は、**決定**ボタンを押します。
- 10秒間なにも操作をしないとスマートサラウンドセットアップは終了します。

スマートサラウンドセットアップをやめるには

「SETTING UP」が点滅中にリモコンの**終了**ボタンを押します。
- 「SETTING UP」が点滅から点灯に変わったあとは、他の操作はできません。スマートサラウンドセットアップの操作を完了してください。

スマートサラウンドセットアップの内容を確認するには

リモコンの**スマートS.セットアップ**ボタンを押します。
「RESULT」と表示され、設定されている内容を確認することができます。
- スマートサラウンドセットアップの後にスピーカーサイズの設定や距離の設定を変更しているときは、「MANUAL」と表示されます。
- スマートサラウンドセットアップが設定されていないときは、「NO. S.S.S.」と表示されます。

- リスニングルームの状況、スピーカーの種類、または拍手の強さによっては正しく設定できないことがあります。

ご注意

- サブウーハーを「NO」に設定しているときは、フロントスピーカーのサイズは「LARGE」に設定されます。
- フロントスピーカーのサイズを「SMALL」に設定しているときは、その他のスピーカーを「LARGE」に設定することはできません。
- サラウンドスピーカーを「SMALL」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーを「LARGE」に設定することはできません。
- サラウンドスピーカーを「NO」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーは「NO」に設定されます。
- スピーカーサイズの設定で「NO」に設定しているスピーカーのアイコンは、テレビ画面に表示されません。
- ヘッドホンを使用しているときは、手順8でメッセージが表示された後、スマートサラウンドセットアップは終了します。

スピーカー/映像/音声の詳細な設定をする

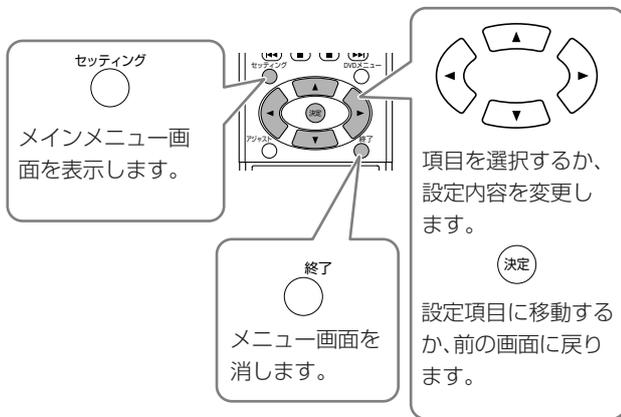
次の項目について設定します。
- 詳細なスピーカー設定
- 7.1チャンネルのサラウンドの設定(「EX/ES/PLIIx」)
- デュアルモノの設定(「DUAL MONO」)
- サブウーハーの出力設定(「SUBWOOFER OUT」)
- クロスオーバー周波数の設定(「CROSSOVER」)
- 低音域のレベル設定(「LFE ATT」)
- ミッドナイトモードの設定(「MIDNIGHT MODE」)
- デジタル入力端子のソース(音源)名の割り当て(「DIGITAL IN」)
- 音声の遅延設定(「AUDIO DELAY」)
- 主音量の記憶設定(「ONE TOUCH OP」)
- HDMI VTR(DBS)入力端子とD4 VTR(DBS)入力端子のソース(音源)名の割り当て(「HDMI SELECT」「CMPNT SELECT」)
- 映像出力の設定(「VIDEO OUTPUT」)
- メニュー画面の表示設定(「SUPERIMPOSE」)

上記の設定の操作を、テレビ画面*または本機表示窓を見ながらおこなうことができます。これらの表示は、リモコンまたは本体のどちらの操作でも表示されます。ここでは主に、リモコンとテレビ画面表示を使っての操作を説明します。

* 映像入力の設定(➡ ***24*** ページ)が「HDMI」ときは表示されません。

操作の手順

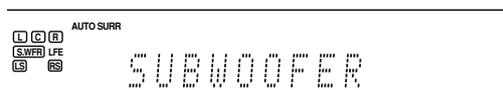
設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、通常画面に戻ります。
途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

リモコンから

1 **セッティングボタンを押す**

- テレビ画面に前回設定した項目が反転して表示されます。
- 表示窓に前回設定した項目が表示されます。

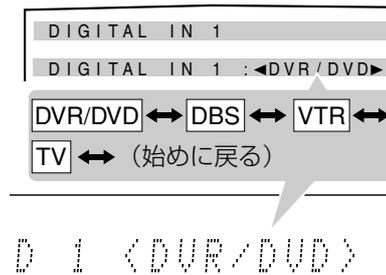
例:前回「SUBWOOFER」を設定していた場合

<テレビ画面>

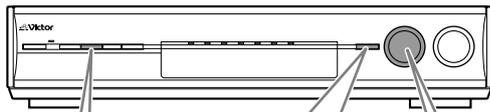
<本体表示窓>

2 **▲または▼ボタンを押して設定する項目を選び、決定ボタンを押す**

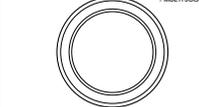
- テレビ画面にサブメニュー画面が表示されます。
- 表示窓に現在の設定内容が表示されます。

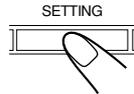
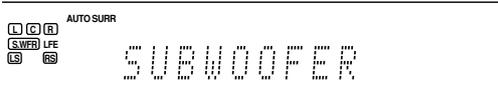
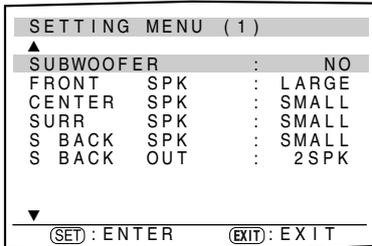
例:「DIGITAL IN 1」を選んだ場合

3 **◄または►ボタンを押して設定する値を表示させ、決定ボタンを押す**

設定が記憶され、メインメニュー画面に戻ります。

例:「DIGITAL IN 1」を設定する場合

- 各設定項目についてはそれぞれの説明をご覧ください(➡ ***37〜45*** ページ)。

4 **他の項目を設定する時には、手順2〜3をくり返し、終了ボタンを押す**

本体から

1 SETTINGボタンを押す

• テレビ画面に前回設定した項目が反転して表示されます。
• 表示窓に前回設定した項目が表示されます。

例：前回「SUBWOOFER」を設定していた場合

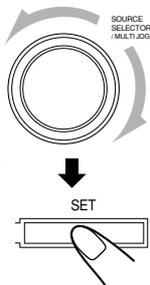
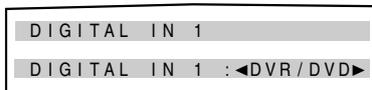
SETTING MENU (1)
▲
SUBWOOFER : NO
FRONT SPK : LARGE
CENTER SPK : SMALL
SURR SPK : SMALL
S BACK SPK : SMALL
S BACK OUT : 2SPK
▼
SET : ENTER EXIT : EXIT

2 MULTI JOGを回して設定する項目を選び、SETボタンを押す

• テレビ画面にサブメニュー画面が表示されます。
• 表示窓に現在の設定内容が表示されます。

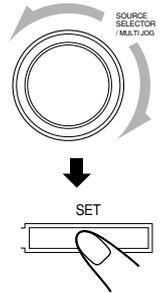
例：「DIGITAL IN 1」を選んだ場合

DIGITAL IN 1
DIGITAL IN 1 :◀DVR/DVD▶

3 MULTI JOGを回して設定する値を表示させ、SETボタンを押す

設定が記憶され、メインメニュー画面に戻ります。

例：「DIGITAL IN 1」を設定する場合

DIGITAL IN 1
DIGITAL IN 1 :◀DVR/DVD▶

• 各設定項目についてはそれぞれの説明をご覧ください（➡ ***37〜45*** ページ）。

4 他の項目を設定する時には、手順2〜3をくり返し、すべての設定が終了したらSETTINGボタンを押す

SETTING

調節・設定する

セットアップメニューの構成

お知らせ

- 画面の項目の設定内容は、工場出荷時のものです。メニューや設定項目のなかには、現在の設定内容により、設定を変更したり表示したりできないものがあります(詳しくは、それぞれの説明をご覧ください)。
- メインメニュー画面一番上または一番下の項目が反転表示された状態で、リモコンの▲または▼ボタンを押すと、前または後の画面に移動します。

詳細なスピーカー設定

接続した各スピーカーについて次の設定をします。
詳細なスピーカーの設定は、セッティングメニュー画面(1)と(2)でおこないます。

- サブウーハーの設定（「SUBWOOFER」）
- スピーカーサイズの設定（「FRONT SPK」「CENTER SPK」「SURR SPK」「S BACK SPK」）
- サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定（「S BACK OUT」）
- スピーカーの距離設定（「DISTANCE UNIT」「FL SPK DIST.」「FR SPK DIST.」「C SPK DIST.」「SL SPK DIST.」「SR SPK DIST.」「SBL SPK DIST.」「SBR SPK DIST.」）

サブウーハーの設定

サブウーハーを使用するかどうかを設定します。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

YES ：サブウーハーを使用するときに選びます。表示窓の S.WFR 表示が点灯します。サブウーハーの出力レベルが調節できるようになります。

NO ：サブウーハーを使用しないときに選びます。

スピーカーサイズの設定

お使いのスピーカー(フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー)について、使用するかどうか、また使用する場合、スピーカーユニットのサイズを設定します。

- はじめに、設定するスピーカーを選びます。

例:「CENTER SPK」を選んだ場合

FRONT SPK ：フロントスピーカーの設定をします。

CENTER SPK：センタースピーカーの設定をします

SURR SPK ：サラウンドスピーカーの設定をします。

S BACK SPK ：サラウンドバックスピーカーの設定をします。

- 次に、スピーカーのサイズを選びます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

お使いのスピーカーに内蔵されているユニットの口径に合わせてサイズを選びます。

例:「CENTER SPEAKER」を設定する場合

LARGE（ラージ）：スピーカーユニットの口径が12cm以上のときに選びます。
［「FRONT SPK」のお買い上げ時の設定］

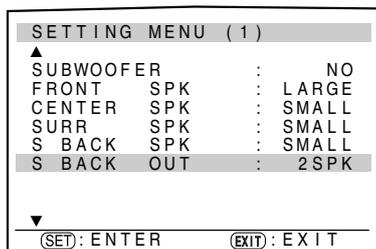
SMALL（スモール）：スピーカーユニットの口径が12cm未満のときに選びます。
［「FRONT SPK」以外のお買い上げ時の設定］

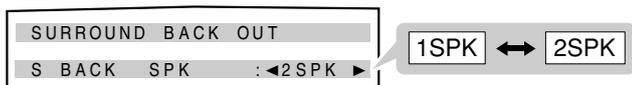
NO ：スピーカーを接続していないときに選びます（「FRONT SPK」では選べません）。

ご注意

- サブウーハーを「NO」に設定しているときは、フロントスピーカーのサイズは「LARGE」に設定されます。
- フロントスピーカーのサイズを「SMALL」に設定したときは、その他のスピーカーを「LARGE」に設定することはできません。
- サラウンドスピーカーを「SMALL」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーを「LARGE」に設定することはできません。
- サラウンドスピーカーを「NO」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーは「NO」に設定されます。

詳細なスピーカー設定(つづき)

サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定

サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数を設定します。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

1SPK：サラウンドバックスピーカーを1本使うときに選びます。

2SPK：サラウンドバックスピーカーを2本使うときに選びます。 [お買い上げ時の設定]

ご注意

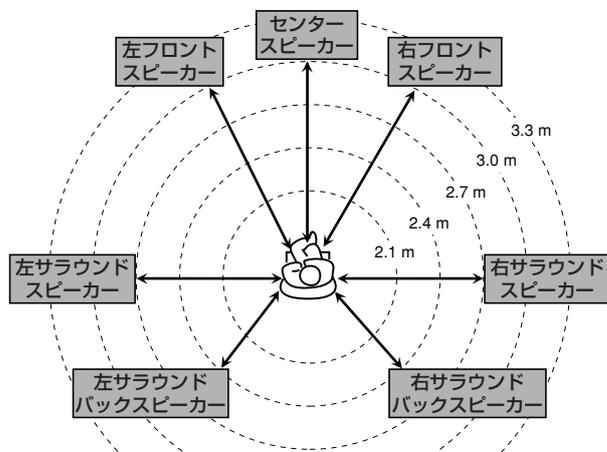
- サラウンドスピーカーを「NO」に設定しているときは(➡ *37* ページ)、サラウンドバックスピーカーの設定をすることはできません。
- サラウンドバックスピーカーの設定を「1SPK」に設定すると、サラウンドバックスピーカー左・L端子に接続したスピーカーから音声が出力され、サラウンドバックスピーカー右・R端子に接続したスピーカーからは音声が出力されません。

スピーカーの距離設定

Dolby Digital、DTSデジタルサラウンドで効果的な音場を構成するには、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離が同じであることが理想的です。
本機では、リスニングポジションから各スピーカーまでの距離にばらつきがある場合に、各スピーカーとリスニングポジションの距離を設定することができます。

- 音の到達時間は、**約30cmの差で約0.001秒**変わります。
- 設定できる距離の単位は、**メートル**(meter)と**フィート**(feet)から選べます。
- 設定できる距離は、「**0.3m**(1フィート)」から「**9.0m**(30フィート)」までで、単位は**0.3m**(1フィート)きざみです。
- スピーカーサイズ設定で「**NO**」に設定されているスピーカーの設定をすることはできません。
- あらかじめスマートサラウンドセットアップ(➡ ***31〜33*** ページ)をおこなっている場合は、ここで設定する距離設定にスマートサラウンドセットアップの内容が置き換えられます。

例：下図のようにスピーカーを配置したときは、左右のフロントスピーカーとセンタースピーカーを「3.0m」に、左右のサラウンドスピーカーを「2.7m」に、左右のサラウンドバックスピーカーを「2.4m」に設定します。テレビ画面上のメニュー表示は、次のように表示されます。

左フロントスピーカー	：「FL SPK DIST. : 3.0m」
右フロントスピーカー	：「FR SPK DIST. : 3.0m」
センタースピーカー	：「C SPK DIST. : 3.0m」
左サラウンドスピーカー	：「SL SPK DIST. : 2.7m」
右サラウンドスピーカー	：「SR SPK DIST. : 2.7m」
左サラウンドバックスピーカー	：「SBL SPK DIST. : 2.4m」
右サラウンドバックスピーカー	：「SBR SPK DIST. : 2.4m」

距離設定の単位を決める

距離設定の単位を設定します。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

meter	表示する距離をメートル単位で表します。[お買い上げ時の設定]
feet	表示する距離をフィート単位で表します。

リスニングポジションと各スピーカー間の距離を設定する

各スピーカーの距離を「**0.3m**」から「**9.0m**」の間で設定します。 [お買い上げ時の設定:3.0m]

例:「**C SPK DIST.**」を設定する場合

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

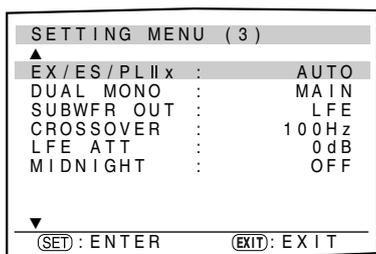
FL SPK DIST.	左フロントスピーカーの距離を設定します。
FR SPK DIST.	右フロントスピーカーの距離を設定します。
C SPK DIST.	センタースピーカーの距離を設定します。
SL SPK DIST.	左サラウンドスピーカーの距離を設定します。
SR SPK DIST.	右サラウンドスピーカーの距離を設定します。
SBL SPK DIST.	左サラウンドバックスピーカーの距離を設定します。
SBR SPK DIST.	右サラウンドバックスピーカーの距離を設定します。

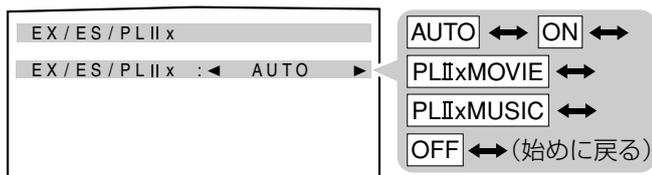
ご注意

- スピーカーサイズの設定で「**NO**」に設定しているスピーカーは(➡ ***37*** ページ)、距離の設定をすることはできません。
- サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定が「**1SPK**」に設定されているとき、「**SBL SPK DIST.**」と「**SBR SPK DIST.**」は表示されず、「**SB SPK DIST.**」と表示されます。

スピーカー/映像/音声の詳細な設定をする(つづき)

7.1チャンネルサラウンドの設定

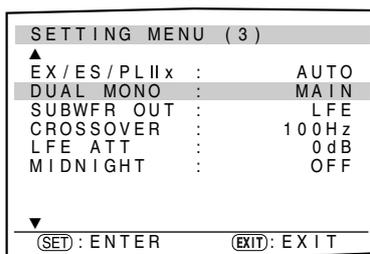
```
SETTING MENU (3)
▲
EX/ES/PLⅡx   :    AUTO
DUAL MONO    :    MAIN
SUBWFR OUT   :     LFE
CROSSOVER    :   100Hz
LFE ATT      :     0dB
MIDNIGHT     :     OFF
▼
SET:ENTER      EXIT:EXIT
```

7.1チャンネルサラウンドモードの動作を設定します。

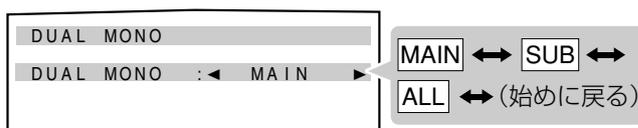
決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

AUTO(オート)	:Dolby Digital Surround EX信号またはDTS-ES信号が入力されたときのみ、7.1チャンネルサラウンドで再生します。4チャンネル以上の音声信号が入力されたときは、5.1チャンネルで再生します。[お買い上げ時の設定]
ON	:4チャンネル以上の音声が入力されたとき、7.1チャンネルサラウンドで再生します。
PLIIxMOVIE(ムービー)	:デジタル4チャンネル以上の音声信号に、PLIIx MOVIEの7.1チャンネルサラウンドの効果を加えます。
PLIIxMUSIC(ミュージック)	:デジタル4チャンネル以上の音声信号に、PLIIx MUSICの7.1チャンネルサラウンドの効果を加えます。
OFF	:7.1チャンネルサラウンドで再生しません。サラウンドバックスピーカーを使わない5.1チャンネルサラウンドまでの再生になります。

- スピーカーサイズの設定でサラウンドスピーカーが「NO」のときは(➡ ***37*** ページ)、表示窓に「NO SURR SPK」と表示され、この設定をすることはできません。
- サラウンドを使用しているときにこの設定を切り換えると、サラウンドモードが切り換わることがあります。
- 設定を「**AUTO**」にしている場合でも、ソフトによってはDolby Digital Surround EX信号が記録されていても7.1チャンネルサラウンド再生ができないことがあります。このような場合は「**ON**」に設定してください。
- リモコンの**EX/ES/PLIIx**ボタンを押して直接切り換えることもできます(➡ ***61*** ページ)。

バーチャルサラウンドバックについて

本機では、サラウンドバックスピーカーのスピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定している場合でも、サラウンドスピーカーを使ってサラウンドバックスピーカー音声信号を再生できます(バーチャルサラウンドバック)。詳しくは***58*** ページをご覧ください。

デュアルモノの設定

デュアルモノ(DUAL MONO)信号は、左右に異なる音声を持ったデジタル2チャンネル信号です。各チャンネルの再生方法を設定します。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

MAIN(メイン)	:メインチャンネル(ch1)を選びます。スピーカー表示の「**L**」が点灯します。[お買い上げ時の設定]
SUB(サブ)	:サブチャンネル(ch2)を選びます。スピーカー表示の「**R**」が点灯します。
ALL(オール)	:両方のチャンネルを選びます。スピーカー表示の「**L**」と「**R**」が点灯します。

デュアルモノ音声は通常、左右フロントスピーカー、センタースピーカーから聞こえます。サラウンド設定によって、聞こえるスピーカーが違います。

デュアルモノ設定	サラウンド解除中		サラウンド再生中				
			センタースピーカー設定				
			LARGE/SMALL			NO	
	L	R	L	C	R	L	R
MAIN	ch1	ch1	—	ch1	—	ch1	ch1
SUB	ch2	ch2	—	ch2	—	ch2	ch2
ALL	ch1	ch2	—	ch1+ch2	—	ch1+ch2	ch1+ch2

サブウーハーの出力設定

サブウーハーから、LFE(Low Frequency Effect:低域効果音)信号に加えてフロントスピーカーの低音域の信号を出力するかどうかを設定します。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

LFE	:LFE信号と、スピーカー設定で「SMALL」に設定されたスピーカーの低音域の信号を出力します。 [お買い上げ時の設定]
LFE+MAIN	:上に加えてフロントスピーカーの低音域の信号を常に出力します。

- サブウーハーの設定を「NO」にしているときは、この設定をすることはできません(➡ ***37*** ページ)。

クロスオーバー周波数の設定

小型スピーカーでは低音を効果的に再生できない場合があります。本機では、フロントスピーカー、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーのいずれかに小型のスピーカーが使われているとき、その低音域の信号を他の大型スピーカーへ自動的に振り分けます。
この機能を正しく動作させるために、小型スピーカーのサイズに応じて、クロスオーバー周波数を設定します。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

クロスオーバー周波数を大きく設定すると、スピーカーの口径が小さい場合でも、低音域の信号は損なわれにくくなります。下記の表を参考に設定してください。

80Hz	:スピーカーの口径が12cm以上のとき選びます。
100Hz	:スピーカーの口径が10cm程度のとき選びます。 [お買い上げ時の設定]
120Hz	:スピーカーの口径が8cm程度のとき選びます。

- スピーカーサイズの設定(➡ ***37*** ページ)で、すべてのスピーカーを「LARGE」に設定しているときは、表示窓に「OFF」と表示され、この機能は働きません。
- ヘッドホンを使用しているときは、この機能は働きません。

スピーカー/映像/音声の詳細な設定をする(つづき)

低音域のレベル設定

Dolby Digital、DTS音声を再生中に、低音がひずむとき設定します。

- この機能はサブウーハーの設定で「YES」を設定し(➡ ***37*** ページ)、LFE信号が入力されているときに働きます。

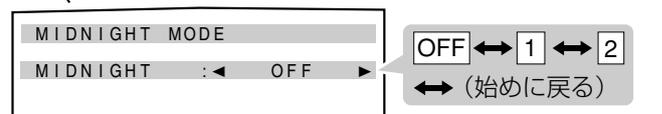
決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

0dB	:通常はこちらを選びます。 [お買い上げ時の設定]
−10dB	:低音域がひずむときに選びます。

ミッドナイトモードの設定

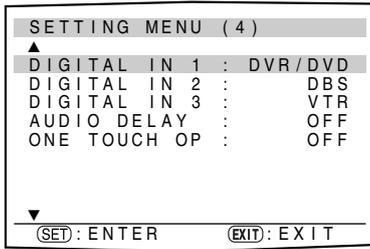
ダイナミックレンジ(最大音声と最小音声の差)を2段階に調節することができます。音量が小さいときでもバランスよくサラウンドを楽しめます。

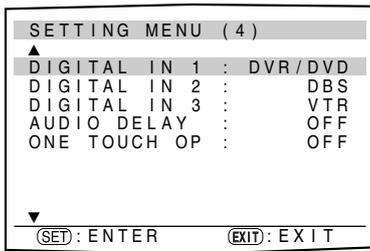
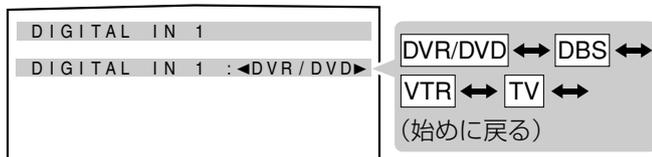
- 再生するソース(音源)によって、効果の大きさは異なります。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

OFF	:ダイナミックレンジはそのままで、サラウンドを楽しみたいときに選びます。 [お買い上げ時の設定]
1	:ダイナミックレンジを少し抑えたいときに選びます。
2	:ダイナミックレンジを十分に抑えたいときに選びます(夜間など周囲に迷惑をかけたくないときに選びます)。

- ミッドナイトモードを使用しているとき、表示窓のMIDNIGHT表示が点灯します。
- リモコンの**ミッドナイト**ボタンを押して直接設定することもできます(➡ ***61*** ページ)。

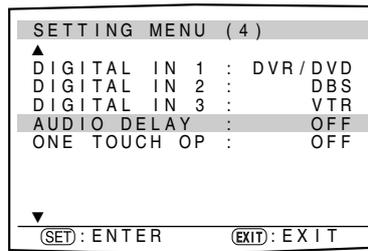
デジタル入力端子のソース(音源)名の割り当て

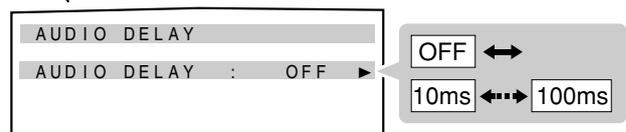
```
SETTING MENU (4)
▲
DIGITAL IN 1 : DVR/DVD
DIGITAL IN 2 :     DBS
DIGITAL IN 3 :     VTR
AUDIO DELAY  :     OFF
ONE TOUCH OP :     OFF

▼
SET : ENTER     EXIT : EXIT
```

デジタル入力端子に割り当てるソース(音源)名を設定します。

例:「DIGITAL IN 1」を設定する場合

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

DVR/DVD	:ソース(音源)DVR/DVDを割り当てるときに選びます。 「DIGITAL IN 1のお買い上げ時の設定」
DBS	:ソース(音源)DBSを割り当てるときに選びます。 「DIGITAL IN 2のお買い上げ時の設定」
VTR	:ソース(音源)VTRを割り当てるときに選びます。 「DIGITAL IN 3のお買い上げ時の設定」
TV	:ソース(音源)TVを割り当てるときに選びます。

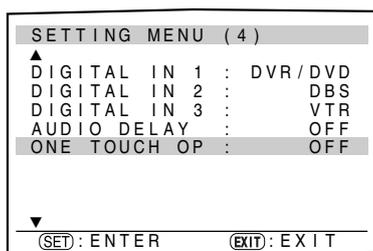
お知らせ

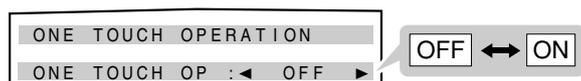
「DIGITAL IN 1」で設定したソース(音源)名を「DIGITAL IN 2」および「DIGITAL IN 3」で設定することはできません。また、「DIGITAL IN 1」および「DIGITAL IN 2」で設定したソース(音源)名を「DIGITAL IN 3」で設定することはできません。

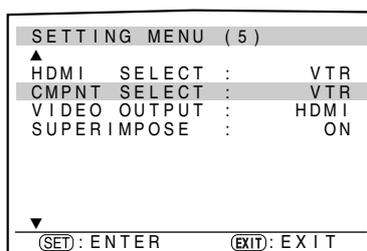
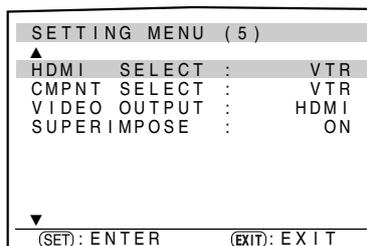
音声の遅延設定

プロジェクターで映像処理をおこなった場合など、映像と音声に若干のズレが生じることがあります。この設定で、映像と音声のズレを補正します。

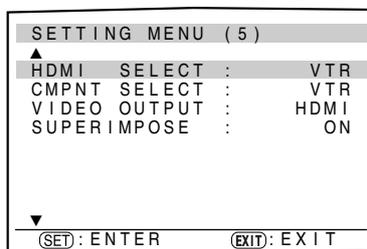
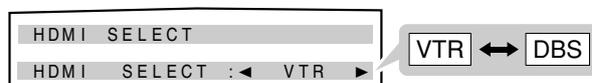
決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- 「10ms(ミリセカンド)」から「100ms」の範囲で10ms単位で調節できます。
- 音声出力のタイミングを「10ms」から「100ms」の範囲で遅らせます。この機能を使用しないときは、「OFF」に設定します。

[お買い上げ時の設定:OFF]

主音量の記憶設定

ソース(音源)ごとに、主音量を記憶させるかどうかを設定します。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

ON	:主音量をソース(音源)ごとに記憶します。本体表示窓のONE TOUCH OPERATION表示が点灯します。
OFF	:主音量を記憶しません。 [お買い上げ時の設定]

HDMI VTR(DBS)入力端子とD4 VTR(DBS)入力端子のソース(音源)名の割り当て

HDMI VTR(DBS)入力端子とD4 VTR(DBS)入力端子に割り当てるソース(音源)名を設定します。

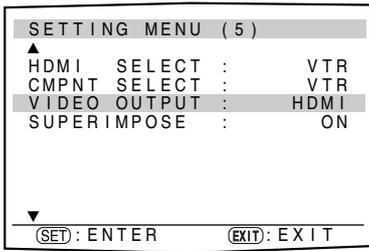
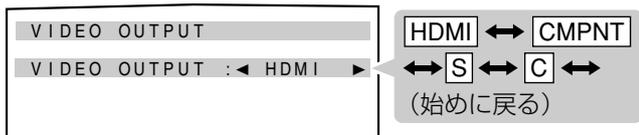
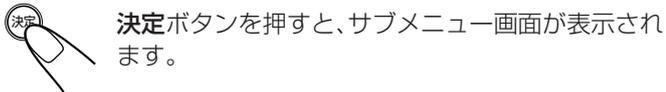
例:「HDMI SELECT」を設定する場合

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

- **HDMI SELECT(HDMI VTR(DBS)入力端子)**

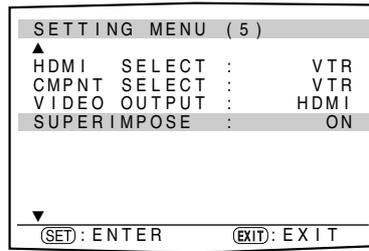
VTR	:ソース(音源)VTRを割り当てるときに選びます。 [お買い上げ時の設定]
DBS	:ソース(音源)DBSを割り当てるときに選びます。

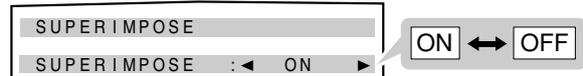
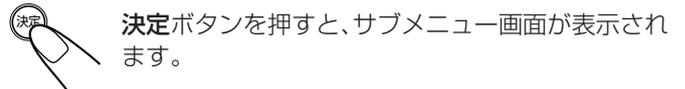
- **CMPNT SELECT(D4 VTR(DBS)入力端子)**

VTR	:ソース(音源)VTRを割り当てるときに選びます。 [お買い上げ時の設定]
DBS	:ソース(音源)DBSを割り当てるときに選びます。

映像出力の設定

本機とテレビとの接続方法に合わせて設定します。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

HDMI	：テレビをHDMI モニター出力端子に接続したときに選びます。　[お買い上げ時の設定]
CMPNT	：テレビをD4映像 モニター出力端子に接続したときに選びます。
S	：テレビをS映像 モニター出力端子に接続したときに選びます。
C	：テレビを映像 モニター出力端子に接続したときに選びます。

メニュー画面の表示設定

本機のメニュー画面をテレビ画面上に表示させたとき、どのように表示するかを設定します。
- この機能は、映像入力の設定(➡ ***24*** ページ)が「**S**」または「**C**」のときに働きます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

ON	：再生映像に重ねて、メニューを表示します。　[お買い上げ時の設定]
OFF	：再生映像を消して、メニュー表示だけの画面を表示します。

- この設定を「**ON**」にしていると、以下の設定をおこなったときに、その設定内容がテレビ画面に一時的に表示されます。
  - ・ソース（音源）の切り換え
  - ・音量の調節
  - ・サラウンドモードの切り換え

お知らせ

映像入力の設定(➡ ***24*** ページ)が「**HDMI**」のときは、テレビ画面上にメニュー画面は表示されません。

音量/音質の調節をする

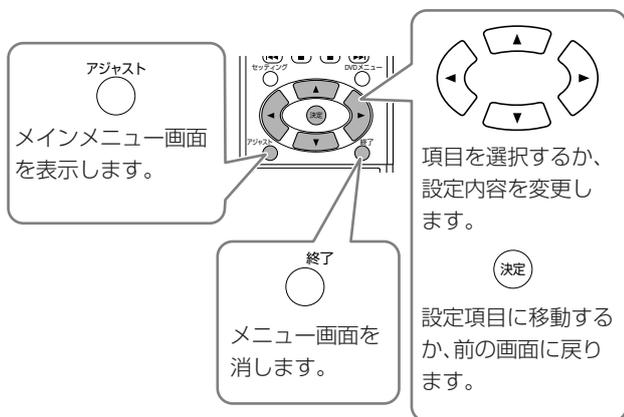
次の項目について設定します。
- スピーカー出力レベルの調節(「SUBWOOFER LEVEL」「FRONT L LEVEL」「FRONT R LEVEL」「CENTER LEVEL」「SURR L LEVEL」「SURR R LEVEL」「S BACK L LEVEL」「S BACK R LEVEL」)
- イコライザーの調節(「DIGITAL EQ」)
- 低音の強調(「BASS BOOST」)
- インプットアッテネーター(「INPUT ATT」)
- エフェクトの調節(「EFFECT」)
- 反射音の遅延調節(「ROOM SIZE」)
- 反射音の減衰調節(「LIVENESS」)
- パノラマ機能(「PANORAMA」)
- センターチャンネルの広がり調節(「CENTER WIDTH」)
- 音声の定位調節(「DIMENSION」)
- センターチャンネルの定位調節(「CENTER GAIN」)
- センタートーンの調節(「CENTER TONE」)
- センターチャンネルの定位補正(「CNTR ALIGNMENT」)

上記の設定の操作を、テレビ画面*または本機表示窓を見ながらおこなうことができます。これらの表示は、リモコンまたは本体のどちらの操作でも表示されます。ここでは主に、リモコンとテレビ画面表示を使っての操作を説明します。

* 映像入力の設定(➡ ***24*** ページ)が「HDMI」ときは表示されません。

操作の手順

設定の途中でしばらく何も操作しないでいると通常画面に戻ります。
途中で設定操作ができなくなったときは、手順**1**からやり直してください。

リモコンから

1 アジャストボタンを押す

- テレビ画面に前回設定した項目が反転して表示されます。
- 表示窓に前回設定した項目が表示されます。

例：前回「SUBWOOFER LEVEL」を設定していた場合

<テレビ画面>

<本体表示窓>

2 ▲または▼ボタンを押して設定する項目を選び、決定ボタンを押す

- テレビ画面にサブメニュー画面が表示されます。
- 表示窓に現在の設定内容が表示されます。

例：「PANORAMA」を選んだ場合

3 ◄または►ボタンを押して設定する値を表示させ、決定ボタンを押す

設定が記憶され、メインメニュー画面に戻ります。

例：「PANORAMA」を設定する場合

- 各設定項目についてはそれぞれの説明をご覧ください(➡ ***49〜52*** ページ)。

4 他の項目を設定する時には、手順2〜3をくり返し、終了ボタンを押す

本体から

1 ADJUSTボタンを押す

• テレビ画面に前回設定した項目が反転して表示されます。
• 表示窓に前回設定した項目が表示されます。

例：前回「SUBWOOFER LEVEL」を設定していた場合

ADJUST MENU (1)

SUBWOOFER	LEVEL	:	0
FRONT L	LEVEL	:	0
FRONT R	LEVEL	:	0
CENTER	LEVEL	:	0
SURR L	LEVEL	:	0
SURR R	LEVEL	:	0
S BACK L	LEVEL	:	0
S BACK R	LEVEL	:	0

SET : ENTER　EXIT : EXIT

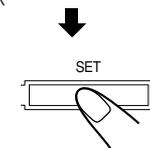
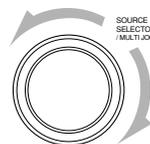
2 MULTI JOGを回して設定する項目を選び、SETボタンを押す

• テレビ画面にサブメニュー画面が表示されます。
• 表示窓に現在の設定内容が表示されます。

例：「PANORAMA」を選んだ場合

ADJUST MENU (4)

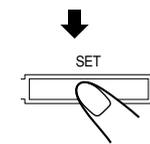
PANORAMA	:	OFF
CENTER WIDTH	:	3
DIMENSION	:	4
CENTER GAIN	:	0.3
CENTER TONE	:	3
CNTR ALIGNMENT	:	OFF

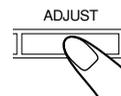
SET : ENTER　EXIT : EXIT

3 MULTI JOGを回して設定する値を表示させ、SETボタンを押す

設定が記憶され、メインメニュー画面に戻ります。

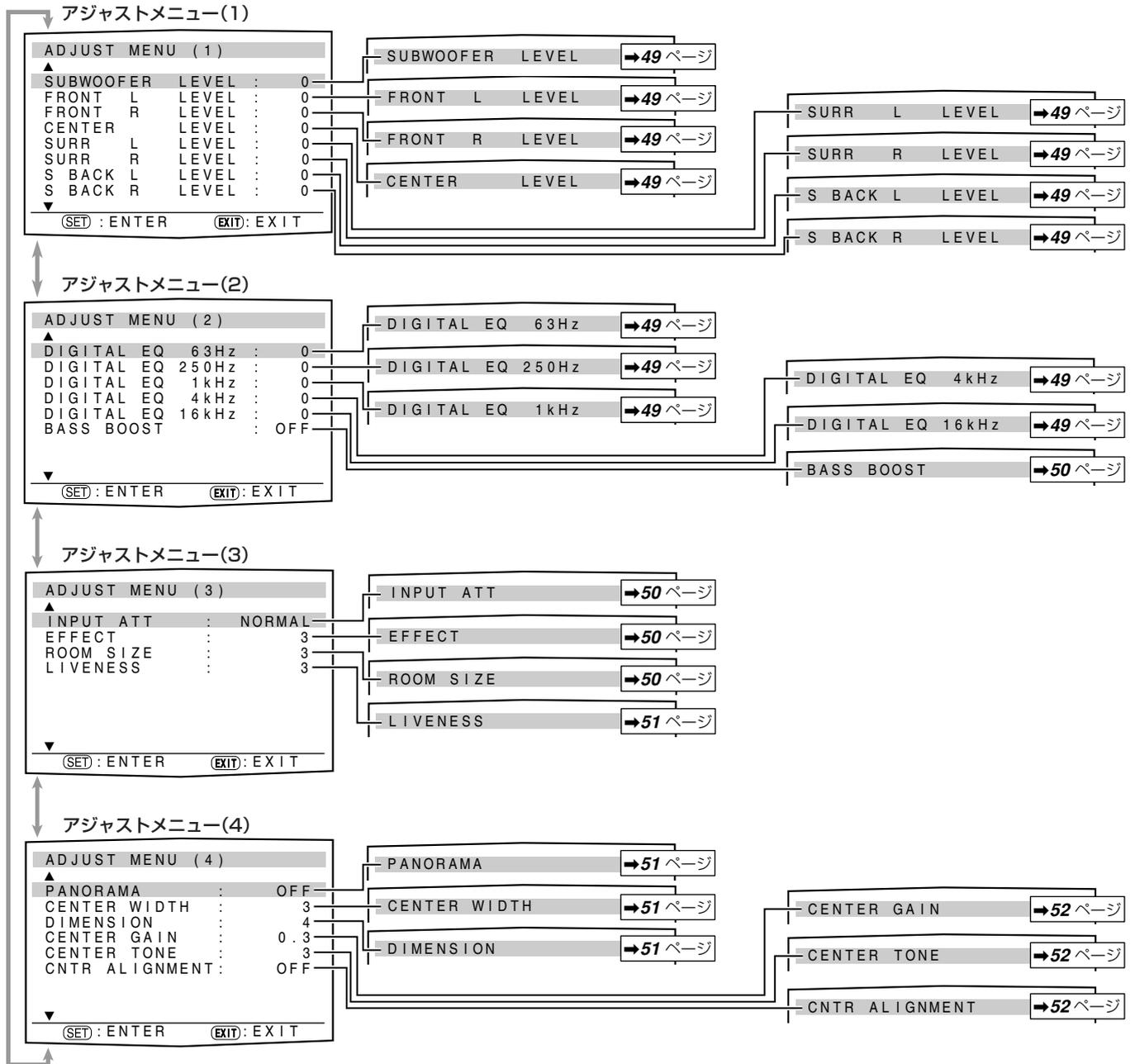
例：「PANORAMA」を設定する場合

PANORAMA

PANORAMA :◄ OFF ►

OFF ⟷ ON

• 各設定項目についてはそれぞれの説明をご覧ください（➡ ***49〜52*** ページ）。

4 他の項目を設定する時には、手順**2**〜**3**をくり返し、すべての設定が終了したらADJUSTボタンを押す

調節・設定する

アジャストメニューの構成

お知らせ

- 画面の項目の設定内容は、工場出荷時のものです。メニューや設定項目のなかには、現在の設定内容により、設定を変更したり表示したりできないものがあります。(詳しくは、それぞれの説明をご覧ください)
- メインメニュー画面一番上または一番下の項目が反転表示された状態でリモコンの▲または▼ボタンを押すと、前または後の画面に移動します。

スピーカー出力レベルの調節

接続した各スピーカーの出力レベルを調節します。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

例:「SUBWOOFER LEVEL」を設定する場合

SUBWOOFER LEVEL
SUBWOOFER LEVEL :◄ 0►

−10 ◄···► +10

SUBWOOFER LEVEL (レベル)	: サブウーハーの出力レベルを調節します。
FRONT L LEVEL	: 左フロントスピーカーの出力レベルを調節します。
FRONT R LEVEL	: 右フロントスピーカーの出力レベルを調節します。
CENTER LEVEL	: センタースピーカーの出力レベルを調節します。
SURR L LEVEL	: 左サラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。
SURR R LEVEL	: 右サラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。
S BACK L LEVEL	: 左サラウンドバックスピーカーの出力レベルを調節します。
S BACK R LEVEL	: 右サラウンドバックスピーカーの出力レベルを調節します。

[お買い上げ時の設定: 0(dB)]

- 「−10」から「+10」の範囲で1dB単位で調節できます。
- リスニングポジションで各スピーカーの音を聞きながら、どのスピーカーからも同じ程度の音量で聞こえるように調節します。
  テストトーンを聞きながら、リモコンで直接調節することもできます(➡ ***59*** ページ)。
- スピーカーサイズの設定で「NO」にしているスピーカーは、調節できません(➡ ***37*** ページ)。
- サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定が「1SPK」に設定されているときは、「S BACK L LEVEL」と「S BACK R LEVEL」は表示されず、「S BACK LEVEL」が表示されます(➡ ***38*** ページ)。
- ヘッドホンを使用しているときは、左右フロントスピーカーのみを調節できます。
- HDMI接続で5.1チャンネルPCMのDVDオーディオを再生しているとき、またはアナログ5.1チャンネル接続でDVDを再生しているときは、「S BACK LEVEL」、「S BACK L LEVEL」、「S BACK R LEVEL」は調節できません。
- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。

イコライザーの調節

中心となる周波数帯域のレベルを調節して、よりよい音質でお楽しみいただけます。

- 調節できる周波数:63Hz、250Hz、1kHz、4kHz、16kHz

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

例:「DIGITAL EQ 63Hz」を設定する場合

[お買い上げ時の設定: 0]

- 「−8」から「+8」の範囲で2dB単位で調節できます。
- 「0」以外の値に調節すると、表示窓のDIGITAL EQ表示が点灯します。
- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。
- リモコンの**D.EQ周波数**ボタンを押して直接調節することもできます(➡ ***60*** ページ)。

音量/音質の調節をする(つづき)

低音の強調(バスブースト)

フロントスピーカーの低音を強調することができます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

OFF：通常の設定値で再生します。 [お買い上げ時の設定]

ON：低音を4dB増強します。表示窓の**B.BOOST**表示が点灯します。

- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。
- リモコンの**バスブースト**ボタンを押して直接設定することもできます(➡ ***60*** ページ)。

インプットアッテネーター

アナログ入力時にソース(音源)の信号が大きく、音がひずんでしまうときに使います。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

NORMAL：通常はこの状態で使用します。アナログ入力信号を調節しません。 [お買い上げ時の設定]

ON：入力信号を調節して音のひずみを軽減します。表示窓の**INPUT ATT**表示が点灯します。

- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。

エフェクトの調節

DAPモード(HALL1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER1/2)、MONO FILM(➡ ***54***、***55*** ページ)が動作中に、その効果の度合い(エフェクトレベル)を調節することができます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 3]

- 「1」から「5」の範囲で1単位で調節できます。
- 数字が大きくなると各DAPモードの効果が大きくなります。
- 設定された内容はDAPモードごとに記憶されます。
- リモコンの**エフェクト**ボタンを押して直接調節することもできます(➡ ***60*** ページ)。

反射音の遅延調節

DAPモード(HALL1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER1/2)、MONO FILM(➡ ***54***、***55*** ページ)が動作中に、仮想空間の大きさを調節することができます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 3]

- 「1」から「5」の範囲で1単位で調節できます。
- 数字が大きくなると反射音の到達時間が遅くなり、より大きな空間での音響効果を演出します。
- サラウンドスピーカーのサイズの設定が「NO」に設定されているときは、調節できません(➡ ***37*** ページ)。
- 設定された内容はDAPモードごとに記憶されます。

反射音の減衰調節

DAPモード(HALL1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER1/2)、MONO FILM(➡ ***54***、***55*** ページ)が動作中に、仮想空間の反響率を調節することができます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 3]

- 「**1**」から「**5**」の範囲で1単位で調節できます。
- 数字が大きくなると反射音の減衰が抑えられ、より響きの大きな音響効果を演出します。
- サラウンドスピーカーのサイズの設定が「**NO**」に設定されているときは、調節できません(➡ ***37*** ページ)。
- 設定された内容はDAPモードごとに記憶されます。
- リモコンの**ライブネス**ボタンを押して直接調節することもできます(➡ ***60*** ページ)。

パノラマ機能

2チャンネルの音声をPLIIx MusicまたはPLII Music(➡ ***54*** ページ)を作動させて再生しているときに、音声が回り込んでくるような効果を調節することができます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

OFF	: 通常の音声で再生します。 [お買い上げ時の設定]
ON	: 音声が回り込んでくるような効果を強調します。

- 設定された内容は次に変更するまで記憶されます。

センターチャンネルの広がり調節

2チャンネルの音声をPLIIx MusicまたはPLII Music(➡ ***54*** ページ)を作動させて再生しているときに、センタースピーカー音声の広がりの度合いを調節することができます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 3]

- 「**1**」から「**7**」の範囲で1単位で調節できます。
- 「**OFF**」または数字が小さいほど、中央にまとまって聞こえます。
- センタースピーカーのサイズの設定が「**NO**」に設定されているときは、調節できません(➡ ***37*** ページ)。
- 設定された内容は次に変更するまで記憶されます。

音声の定位調節

2チャンネルの音声をPLIIx MusicまたはPLII Music(➡ ***54*** ページ)を作動させて再生しているときに、音声の定位を前後に調節することができます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 4]

- 「**1**」から「**7**」の範囲で1単位で調節できます。
- 数字が大きくなると、より前方に定位します。
- 設定された内容は次に変更するまで記憶されます。

センターチャンネルの定位調節

DTS Neo:6 Music(➡ ***54*** ページ)が動作中に、センタースピーカー音声の定位を調節することができます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 0.3]

- 「**0**」から「**1.0**」の範囲で0.1単位で調節できます。
- 数値が大きくなると、センタースピーカーの音がより中央にまとまって聞こえます。
- センタースピーカーのサイズ設定が「**NO**」に設定されているときは、調節できません(➡ ***37*** ページ)。
- 設定された内容は次に変更するまで記憶されます。

センタートーンの調節

サラウンドモードおよびDAPモードが動作中に、センタースピーカーの音質を調節することができます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

[お買い上げ時の設定: 3]

- 「**1**」から「**5**」の範囲で1単位で調節できます。
- 数字が大きくなるとセンタースピーカーの音がよりはっきり聞こえます。
- センタースピーカーのサイズ設定が「**NO**」に設定されているときは、調節できません(➡ ***37*** ページ)。
- 設定された内容は、サラウンドモードではすべてのモードで共通に、DAPモードでは各モードごとに記憶されます。
- リモコンの**センタートーン**ボタンを押して直接調節することもできます(➡ ***61*** ページ)。

センターチャンネルの定位補正

PLIIx Music、PLII Music、DTS Neo:6 Music、ALL CH STEREO以外のサラウンドモードおよびDAPモード(➡ ***54***、***55*** ページ)が動作中に、センターチャンネルの上下の定位を補正することができます。

決定ボタンを押すと、サブメニュー画面が表示されます。

OFF: 通常はこの状態で使用します。 [お買い上げ時の設定]

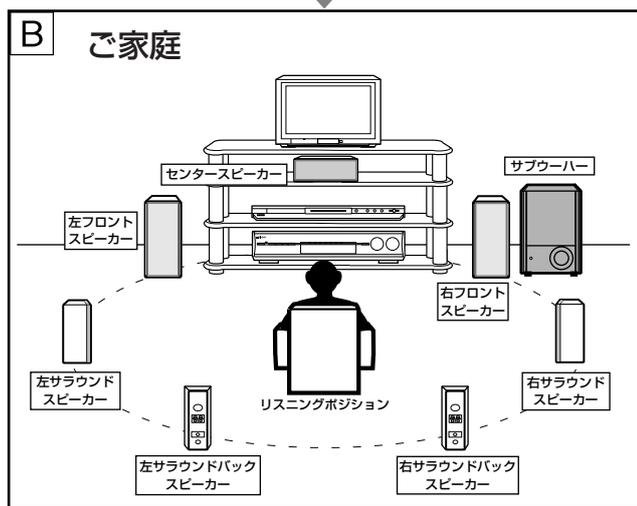
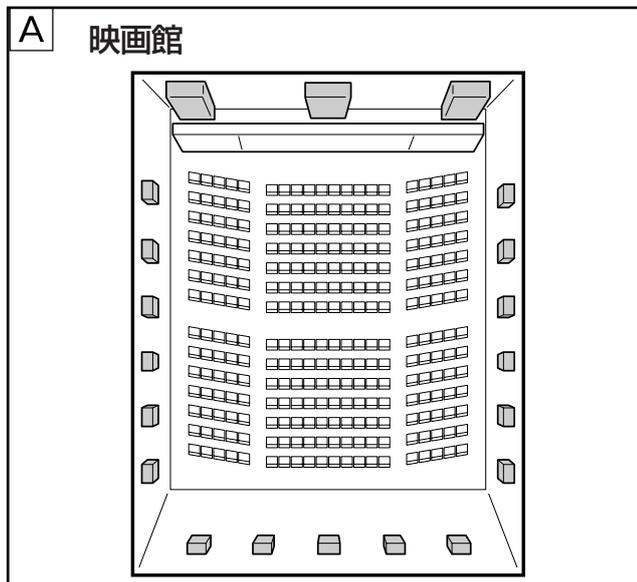
ON : センターチャンネル音声の上下の定位を補正するときに選びます。

- センタースピーカーのサイズ設定が「**NO**」に設定されているときは、調節できません(➡ ***37*** ページ)。
- 設定された内容はサラウンドモードおよびDAPモードごとに記憶されます。

サラウンドを使う

サラウンドとは

映画館は、計算された効果音で臨場感を再現するために、壁に多くのスピーカーを配置し、あらゆる方向から音声が聞こえてくるように設計されています。**(図A)**
客席を包みこむように多くのスピーカーを配置することによって、音の定位感と躍動感を飛躍的に高めています。

本機は、7つのスピーカーとサブウーハーを使うことで、映画館そのままの臨場感をご家庭で再現することを可能にしました。**(図B)**

音声信号の種類

本機搭載のDSP(デジタル・シグナル・プロセッサー)により、次の各種音声信号でお楽しみいただけます。

本機では、次の入力信号に対してサラウンドを使うことができます。

● アナログ音声信号
本機とアナログ接続したソース(音源)機器からの信号です。

- 2ch　：本機とアナログ接続したソース(音源)機器からの信号です。
- 5.1ch　：本体背面DVR/DVD入力(再生)、フロント、DVD MULTI入力端子からの入力信号です。この音声を聞くときは、ソース(音源)に「DVR/DVD」を選び、音声入力の設定(➡ ***25*** ページ)で「A MULTI」を選びます。この信号にはサラウンドモードは働きません。

● デジタル音声信号
本機とデジタル接続したソース(音源)機器からの信号です。

- リニアPCM　：アナログ音声信号を圧縮せずにデジタル化した音声です。DVDビデオやCDなどで使われている2chの信号と、DVDオーディオで使われているマルチチャンネルの信号があります。表示窓のLINEAR PCM表示が点灯します。また、マルチチャンネル信号を検知したときは一時的に「MULTH CH PCM」と表示されます。
- Dolby Digital ソフト
　：表示窓のDD DIGITAL表示が点灯します。
  - Dolby Digital 信号
    最も普及したマルチチャンネル信号のひとつで、1chから5.1chまで対応します。
  - Dolby Digital Surround EX 信号
    5.1chにサラウンドバックチャンネルを加えた6.1ch対応の信号です。
- DTS ソフト　：表示窓のdts表示が点灯します。
  - DTS 信号
    DVD、CD、LD など多様なメディアで使用されているマルチチャンネル信号です。1chから5.1chまで対応します。Dolbyよりも圧縮率が低く、高音質が特長です。
  - DTS 96/24 信号
    サンプリングレート96kHz/量子化ビット数24bitの高音質5.1chの音声信号です。表示窓の96/24表示も点灯します。
  - DTS-ES Matrix/Discrete 信号
    5.1chにサラウンドバックチャンネルを加えた6.1ch対応の信号です。マトリクス処理をしたMatrix信号と、マトリクス処理なしのDiscrete信号があります。
- MPEG-2 AAC　：衛星デジタル放送で使われている5.1chまでの音声信号です。表示窓のMPEG-2 AAC表示が点灯します。
- Dual Mono　：左右に異なる音声を持った2ch信号です。表示窓のDUAL MONO表示が点灯します。

次ページに続く

サラウンドを使う（つづき）

サラウンドモード

● Dolby Digital*1ソフトのサラウンドモード

- Dolby Digital EX ：Dolby Digital Surround EX信号または4ch以上のDolby Digital信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。
- Dolby Digital ：2ch以外のDolby Digital信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。
- Dolby Pro Logic IIx Movie/Dolby Pro Logic IIx Music/Dolby Pro Logic IIx Game
  ：映画ソフトや音楽ソフト、ゲームソフトに適したモードです。7.1chサラウンド再生が可能です。表示窓のDD PL IIx表示が点灯します。
- Dolby Pro Logic II Movie/Dolby Pro Logic II Music/Dolby Pro Logic II Game
  ：映画ソフトや音楽ソフト、ゲームソフトに適した2ch音声信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。表示窓のDD PL II表示が点灯します。

● DTS*2ソフトのサラウンドモード

- DTS-ES Discrete ：DTS-ES Discrete信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。
- DTS-ES Matrix ：DTS-ES Matrix信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。
- DTS Surround ：2ch以外のDTSソフト向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です。
- DTS Neo:6 Cinema/Music
  ：2chおよびデジタル4ch以上の信号向けのモードです。6.1chサラウンド再生が可能です。映画ソフトや音楽ソフトに適しています。表示窓のNEO:6表示が点灯します。

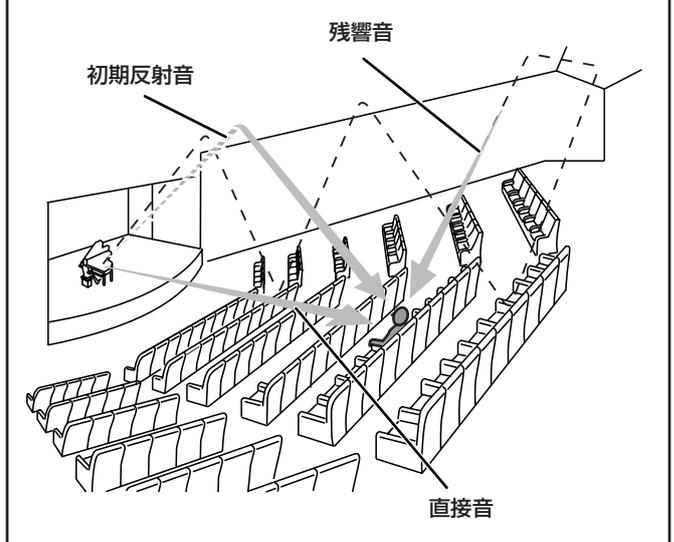
● MPEG-2 AAC*3のサラウンドモード

- AAC ：AAC信号向けのモードです。5.1chサラウンド再生が可能です（地上デジタルや衛星デジタル放送など）。表示窓のMPEG-2 AAC表示が点灯します。

● DAP（デジタルアコースティックプロセッサー）モード

コンサートホールやライブハウスなどで聞く音は、音源から直接耳に届く音（**直接音**）と天井や壁などに反射してから耳に届く音（**初期反射音**）、そして、何回も反射を繰り返してから耳に届く音（**残響音**）によって構成されています。これらの反射音/残響音は、リスナーと天井、壁の距離によって様々な遅延時間をもった音となり、コンサートなどでは、直接音とこれらの反射音/残響音によって、音場が作り出されています。
本機に搭載されているDAPモードは、これらの反射音や残響音をデジタル信号処理により創り出しコンサートホールやライブハウスなどの臨場感を再現します。表示窓のDSP表示が点灯します。

- DAPモードをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続、設定する必要があります。
- DAPモードが動作中は、音響効果の度合い（エフェクトレベル）、反射音の遅延調節、反射音の減衰調節が調節できます（➡ ***50***、***51*** ページ）。

音場の構成

本機では次のDAPモードをお楽しみいただけます。

- HALL1/2：クラシック音楽用コンサートホールの音響効果を再現します。ホールの形状による音質の違いで「1」と「2」があります。
- LIVE CLUB：小規模のコンサート会場の音響効果を再現します。
- DANCE CLUB：天井の低いダンス会場の音響効果を再現します。
- PAVILION：パビリオンなど広い空間の音響効果を再現します。
- THEATER1/2：映画館の音響効果を再現します。大きさによる音質の違いで「1」と「2」があります。2ch音声で選んだときは、Dolby Pro Logic IIが動作し、表示窓のDD PL II表示が点灯します。

● Mono Film

アナログ、Dual Mono、2chデジタル信号向けのサラウンドモードです。左右の音声を選択して聞くことができます。表示窓のDSP表示が点灯します。

● オールチャンネルステレオ（ALL CH STEREO）

接続・設定されたすべてのスピーカーを使って、より広い範囲でステレオ音声をお楽しみいただけます。センタースピーカーまたはサラウンドバックスピーカーが使えるときは、左右フロントスピーカーの音声をダウンミックスして、モノラル音声にします。表示窓のDSP表示が点灯します。

- オールチャンネルステレオはアナログ2ch音声や2chのリニアPCMデジタル音声信号を再生するときに使うと効果的です。
- オールチャンネルステレオをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続、設定する必要があります。

3D PHONICについて

本機では、スピーカー設置数が少ないとき(フロントスピーカーは必要です)でも、設置数に合わせたサラウンドをお楽しみいただけます。本機内蔵の3D PHONIC回路が、フロントスピーカーだけの構成でもサラウンドに近い効果をつくりだします。

- オールチャンネルステレオのときは、3D PHONIC回路は働きません。

3D PHONIC回路は次の場合に働きます。

- サラウンドスピーカーを使わない設定を選んだ場合
- フロントスピーカーのみを使う設定のときに、Dolby Digital、DTS、MPEG-2 AAC信号向けのサラウンドモードを選んだ場合

3D PHONIC回路が動作中は、表示窓の3D-PHONIC表示が点灯します。

お知らせ

サラウンドをお使いになるときは、以下の項目をあらかじめ正しく設定しておいてください。

- サブウーハーの設定（➡ ***37*** ページ）
- スピーカーサイズ設定（➡ ***37*** ページ）
- スピーカーの距離（➡ ***38***、***39*** ページ）

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

*2 DTS、DTS-ES、Neo:6、DTS 96/24およびDTS Digital Surroundは、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

*3 米国パテントナンバー

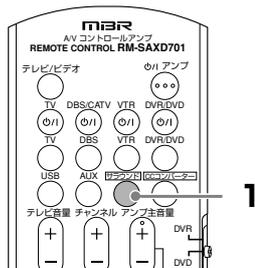
5,848,391	5,291,557	5,451,954	5 400 433
5,222,189	5,357,594	5 752 225	5,394,473
5,583,962	5,274,740	5,633,981	5 297 236
4,914,701	5,235,671	07/640,550	5,579,430
08/678,666	98/03037	97/02875	97/02874
98/03036	5,227,788	5,285,498	5,481,614
5,592,584	5,781,888	08/039,478	08/211,547
5,703,999	08/557,046	08/894,844	5,299,238
5,299,239	5,299,240	5,197,087	5,490,170
5,264,846	5,268,685	5,375,189	5,581,654
5,548,574	5,717,821		

サラウンドを使う（つづき）

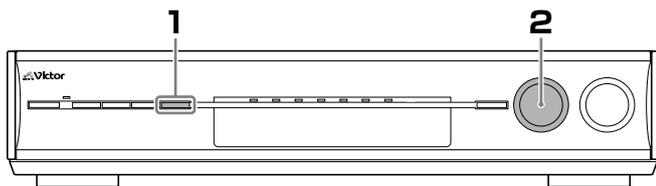
サラウンドの使いかた

接続しているスピーカーの数や入力音声信号、スピーカー設定によって選べるサラウンドモードは異なります。
- サラウンドをお楽しみいただくには、フロントスピーカーの他にサラウンドスピーカーを接続、設定する必要があります。
- HDMI接続で5.1チャンネルPCMのDVDオーディオを再生しているとき、またはアナログ5.1チャンネル接続でDVDを再生しているときは、サラウンドをお使いいただけません。
- マルチチャンネルサラウンドについては、スピーカーの配置数（3ch以上）に関係なく選べますが、すべてのスピーカーを適切に接続、設定しないと、十分な効果を得ることができません。
- お買い上げ時の設定は「AUTO SURROUND」です。詳しくは下記の「オートサラウンドについて」をご覧ください。
- サラウンドモードを選んだあとの音量/音質の調節については、***59***〜***61*** ページをご覧ください。
- この設定は、各ソース（音源）ごとに記憶されます。

サラウンドモードを選ぶ

リモコンから

1 サラウンドボタンをくり返し押して、サラウンドモードを選ぶ

ボタンを押すごとにサラウンドモードが切り換わります。
- 入力音声信号に対応したサラウンドを選ぶことができます。詳しくは、「選択できるサラウンドモード」（➡ ***57***、***58*** ページ）をご覧ください。
- サラウンド使用時にヘッドホンをお使いになると、「3D HEADPHONE」モードになります。表示窓のDSP表示とHEADPHONE表示が点灯し、一時的に「3D HEADPHONE」と表示されます。

本体から

1 SURROUNDボタンを押す

MULTI JOGがサラウンドモード設定用に働くようになります。

2 MULTI JOGを回してサラウンドモードを選ぶ

MULTI JOGを回すごとにサラウンドモードが切り換わります。
- 入力音声信号に対応したサラウンドを選ぶことができます。詳しくは、「選択できるサラウンドモード」（➡ ***57***、***58*** ページ）をご覧ください。
- サラウンド使用時にヘッドホンをお使いになると、「3D HEADPHONE」モードになります。表示窓のDSP表示とHEADPHONE表示が点灯し、一時的に「3D HEADPHONE」と表示されます。
- 手順**1**のあとしばらく何も操作しないでいると、通常画面に戻ります。そのときは、手順**1**からやり直してください。

オートサラウンドについて

本機は、サラウンドモードで「AUTO SURROUND」を選んだ状態でデジタル音声信号を識別すると、適切なサラウンドモードを自動的に選びます。表示窓のAUTO SURR表示が点灯します。
- 3チャンネル以上のデジタル信号が入力されたときは、その音声信号に対応するサラウンドモードが選ばれます。
- マトリクス処理された2チャンネルのDolby Digital音声信号が入力されたときは、「PLIIx MOVIE」または「PLII MOVIE」が選ばれます。
- 2チャンネルのドルビーデジタル信号とリニアPCM信号が入力されたときは、「SURROUND OFF」が選ばれ、ステレオになります。

アナログ音声が入力されているときと、手動でデジタル入力信号フォーマット（「DOLBY DIGITAL」、「DTS」、「AAC」）を選んでいるとき（➡ ***30***ページ）は、オートサラウンドは働きません。

各種の設定をする

各サラウンドモードについて音質を調節することができます。選んだサラウンドモードにより調節できる設定が異なります。設定方法は***46***、***47*** ページ、設定項目については***49***〜***52*** ページをご覧ください。
また、以下の項目はリモコンから直接調節することもできます。
- テストトーンによるスピーカー出力レベルの調節（➡ ***59*** ページ）
- イコライザーの調節（➡ ***60*** ページ）
- エフェクトの調節（➡ ***60*** ページ）
- 反射音の減衰調節（➡ ***60*** ページ）
- センタートーンの調節（➡ ***61*** ページ）
- 7.1チャンネルサラウンドの設定（➡ ***61*** ページ）
- ミッドナイトモードの設定（➡ ***61*** ページ）

選択できるサラウンドモード

EX/ES/PLIIx設定、入力音声信号、スピーカー設定などによって選べるサラウンドモードは異なります。詳しくは「サラウンドモード対応表」(➡ ***57***、***58*** ページ)をご覧ください。

- DAPモード(➡ ***54***、***55*** ページ)はどの音声信号が入力されても選べます。(スピーカーサイズ設定(➡ ***37*** ページ)でサラウンドスピーカーを「NO」に設定していると、「ALL CH STEREO」は選べません。)
- HDMI接続で5.1チャンネルPCMのDVDオーディオを再生しているとき、またはアナログ5.1チャンネル接続でDVDを再生しているときは、サラウンドモードを設定できません。

サラウンドモード対応表

- 各表のモード名は本体表示窓に表示されるモード名です。メニュー画面表示の設定を「ON」にしていると、設定したモード名が一時的にテレビ画面にも表示されます(➡ ***45*** ページ)。
- モード名の横の数値は各音声フォーマットの信号を表しています。
  ・3/2 = L/R/C/SL/SR ・2/2 = L/R/SL/SR ・3/1 = L/R/C/S ・2/1 = L/R/S ・3/0 = L/R/C ・1/0 = C ・2/0 = L/R

サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定が「2SPK」のとき

<table>
<tr><th>EX/ES/PLIIx 設定
入力信号フォーマット</th><th>AUTO</th><th>ON</th><th>PLIIx MOVIE</th><th>PLIIx MUSIC</th><th>OFF</th></tr>
<tr><td>Dolby Digital Surround EX</td><td>DOLBY D EX*²</td><td>DOLBY D EX</td><td>DDD+PLIIxMOVIE</td><td>DDD+PLIIxMUSIC</td><td>DOLBY DIGITAL</td></tr>
<tr><td>Dolby Digital (3/2、2/2)</td><td>DOLBY DIGITAL</td><td>DOLBY D EX</td><td>DDD+PLIIxMOVIE</td><td>DDD+PLIIxMUSIC</td><td>DOLBY DIGITAL</td></tr>
<tr><td>Dolby Digital (3/1、2/1、3/0、1/0)</td><td colspan="5">DOLBY DIGITAL</td></tr>
<tr><td>Dolby Digital (Dual Mono)</td><td colspan="5">DUAL MONO</td></tr>
<tr><td>DTS-ES Discrete*¹</td><td>DTS-ES DISCRT</td><td>DTS-ES DISCRT</td><td>DTS+PLIIxMOVIE</td><td>DTS+PLIIxMUSIC</td><td>DTS SURROUND</td></tr>
<tr><td>DTS-ES Matrix*¹</td><td>DTS-ES MATRIX</td><td>DTS-ES MATRIX</td><td>DTS+PLIIxMOVIE</td><td>DTS+PLIIxMUSIC</td><td>DTS SURROUND</td></tr>
<tr><td>DTS (3/2、2/2)*¹</td><td>DTS SURROUND</td><td>DTS+NEO:6</td><td>DTS+PLIIxMOVIE</td><td>DTS+PLIIxMUSIC</td><td>DTS SURROUND</td></tr>
<tr><td>DTS (3/1、2/1、3/0、1/0)</td><td colspan="5">DTS SURROUND</td></tr>
<tr><td>DTS (Dual Mono)</td><td colspan="5">DUAL MONO</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC (3/2、2/2)</td><td>AAC SURROUND</td><td>AAC+DD EX</td><td>AAC+PLIIxMOVIE</td><td>AAC+PLIIxMUSIC</td><td>AAC SURROUND</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC (3/1、2/1、3/0、1/0)</td><td colspan="5">AAC SURROUND</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC (Dual Mono)</td><td colspan="5">DUAL MONO</td></tr>
<tr><td>Dolby Digital (2/0)
MPEG-2 AAC (2/0)
リニアPCM (2/0)
アナログ</td><td colspan="4">PLIIx MOVIE、PLIIx MUSIC、PLIIx GAME、
NEO:6 CINEMA、NEO:6 MUSIC</td><td>PLII MOVIE、
PLII MUSIC、
PLII GAME、
NEO:6 CINEMA、
NEO:6 MUSIC</td></tr>
</table>

サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数の設定が「1SPK」のとき

<table>
<tr><th>EX/ES/PLIIx 設定
入力信号フォーマット</th><th>AUTO</th><th>ON</th><th>PLIIx MOVIE</th><th>PLIIx MUSIC</th><th>OFF</th></tr>
<tr><td>Dolby Digital Surround EX</td><td>DOLBY D EX*²</td><td>DOLBY D EX</td><td>DOLBY D EX</td><td>DDD+PLIIxMUSIC</td><td>DOLBY DIGITAL</td></tr>
<tr><td>Dolby Digital (3/2、2/2)</td><td>DOLBY DIGITAL</td><td>DOLBY D EX</td><td>DOLBY D EX</td><td>DDD+PLIIxMUSIC</td><td>DOLBY DIGITAL</td></tr>
<tr><td>Dolby Digital (3/1、2/1、3/0、1/0)</td><td colspan="5">DOLBY DIGITAL</td></tr>
<tr><td>Dolby Digital (Dual Mono)</td><td colspan="5">DUAL MONO</td></tr>
<tr><td>DTS-ES Discrete*¹</td><td>DTS-ES DISCRT</td><td>DTS-ES DISCRT</td><td>DTS+DD EX</td><td>DTS+PLIIxMUSIC</td><td>DTS SURROUND</td></tr>
<tr><td>DTS-ES Matrix*¹</td><td>DTS-ES MATRIX</td><td>DTS-ES MATRIX</td><td>DTS+DD EX</td><td>DTS+PLIIxMUSIC</td><td>DTS SURROUND</td></tr>
<tr><td>DTS (3/2、2/2)*¹</td><td>DTS SURROUND</td><td>DTS+NEO:6</td><td>DTS+DD EX</td><td>DTS+PLIIxMUSIC</td><td>DTS SURROUND</td></tr>
<tr><td>DTS (3/1、2/1、3/0、1/0)</td><td colspan="5">DTS SURROUND</td></tr>
<tr><td>DTS (Dual Mono)</td><td colspan="5">DUAL MONO</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC (3/2、2/2)</td><td>AAC SURROUND</td><td>AAC+DD EX</td><td>AAC+DD EX</td><td>AAC+PLIIxMUSIC</td><td>AAC SURROUND</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC (3/1、2/1、3/0、1/0)</td><td colspan="5">AAC SURROUND</td></tr>
<tr><td>MPEG-2 AAC (Dual Mono)</td><td colspan="5">DUAL MONO</td></tr>
<tr><td>Dolby Digital (2/0)
MPEG-2 AAC (2/0)
リニアPCM (2/0)
アナログ</td><td colspan="4">PLIIx MOVIE、PLIIx MUSIC、PLIIx GAME、
NEO:6 CINEMA、NEO:6 MUSIC</td><td>PLII MOVIE、
PLII MUSIC、
PLII GAME、
NEO:6 CINEMA、
NEO:6 MUSIC</td></tr>
</table>

*¹ DTS 96/24ソフトで96/24音声を聞くときは、EX/ES/PLIIx設定を「OFF」に設定してください。

*² EX/ES/PLIIx設定を「AUTO」にしている場合でも、ソフトによってはサラウンドモードが「DOLBY DIGITAL」になることがあります。その場合は、EX/ES/PLIIxの設定を「ON」に設定してください。

サラウンド

次ページに続く

サラウンドを使う（つづき）

選択できるサラウンドモード(つづき)

サラウンドバックスピーカーのサイズ設定が「NO」のとき

入力信号フォーマット ＼ EX/ES/PLIIx 設定	AUTO	ON	PLIIx MOVIE	PLIIx MUSIC	OFF
Dolby Digital Surround EX	DOLBY D EX*2 (バーチャルサラウンドバック)	DOLBY D EX (バーチャルサラウンドバック)	DD D+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	DD D+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	DOLBY DIGITAL
Dolby Digital (3/2、2/2)	DOLBY DIGITAL	DOLBY D EX (バーチャルサラウンドバック)	DD D+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	DD D+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	DOLBY DIGITAL
Dolby Digital (3/1、2/1、3/0、1/0)	DOLBY DIGITAL				
Dolby Digital (Dual Mono)	DUAL MONO				
DTS-ES Discrete*1	DTS-ES DISCRT (バーチャルサラウンドバック)	DTS-ES DISCRT (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	DTS SURROUND
DTS-ES Matrix*1	DTS-ES MATRIX (バーチャルサラウンドバック)	DTS-ES MATRIX (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	DTS SURROUND
DTS (3/2、2/2)*1	DTS SURROUND	DTS+NEO:6 (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	DTS+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	DTS SURROUND
DTS (3/1、2/1、3/0、1/0)	DTS SURROUND				
DTS (Dual Mono)	DUAL MONO				
MPEG-2 AAC (3/2、2/2)	AAC SURROUND	AAC+DD EX (バーチャルサラウンドバック)	AAC+PLIIxMOVIE (バーチャルサラウンドバック)	AAC+PLIIxMUSIC (バーチャルサラウンドバック)	AAC SURROUND
MPEG-2 AAC (3/1、2/1、3/0、1/0)	AAC SURROUND				
MPEG-2 AAC (Dual Mono)	DUAL MONO				
Dolby Digital (2/0) MPEG-2 AAC (2/0) リニアPCM (2/0) アナログ	PLII MOVIE、PLII MUSIC、PLII GAME、NEO:6 CINEMA、NEO:6 MUSIC				

*1 DTS 96/24ソフトで96/24音声を聞くときは、EX/ES/PLIIx設定を「**OFF**」に設定してください。
*2 EX/ES/PLIIx設定を「**AUTO**」にしている場合でも、ソフトによってはサラウンドモードが「**DOLBY DIGITAL**」になることがあります。その場合は、EX/ES/PLIIxの設定を「**ON**」に設定してください。

バーチャルサラウンドバックについて

本機では、サラウンドバックスピーカーのスピーカーサイズ設定を「**NO**」に設定している場合でも、サラウンドスピーカーを使って以下の信号のサラウンドバックスピーカー音声信号を再生できます（バーチャルサラウンドバック）。

- Dolby Digital Surround EX信号
- DTS-ES信号
- MPEG-2 AAC信号
- 4チャンネル以上のDolby Digital SurroundまたはDTS信号

表示窓の**VIRTUAL SB**表示が点灯します。

音量/音質を調節する

サラウンドモードを選んだあと、音量や音質を調節することができます。ここでは、リモコンで直接調節できる設定について説明します。
本体やリモコンとテレビ画面表示を使っての操作方法は、「音量/音質の調節をする」(➡ ***46***、***47*** ページ)をご覧ください。
設定の途中でしばらく何も操作しないでいると、設定前のソース(音源)表示に戻ります。そのときは最初から操作をやり直してください。

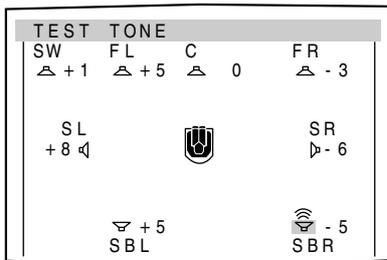
テストトーンによるスピーカー出力レベルの調節

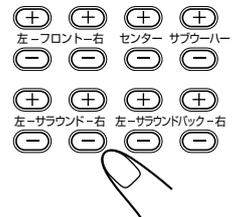
接続した各スピーカーの出力レベルを調節します。

1 お好みのソース(音源)を再生してサラウンドを選ぶ

2 テストトーンボタンを押す

テレビ画面が表示され、スピーカーサイズ設定で、「LARGE」または「SMALL」に設定されているスピーカーから順番に2秒間ずつテストトーンが出力されます。
出力されているスピーカーのアイコンが反転表示され、》表示が表示されます。

- 本体表示窓に、出力されているスピーカー名が表示されます。

- テストトーンが出力される順序
  左フロントスピーカー ➡センタースピーカー ➡右フロントスピーカー ➡右サラウンドスピーカー ➡右サラウンドバックスピーカー ➡左サラウンドバックスピーカー ➡左サラウンドスピーカー ➡サブウーハー ➡始めに戻る

3 調節するスピーカーの＋/－ボタンを押す

- ＋を押すと出力レベルが大きくなります。
- －を押すと出力レベルが小さくなります。
- 「－10」から「＋10」の範囲で1dB単位で調節できます。
- 設定された内容はソース(音源)ごとに記憶されます。

[お買い上げ時の設定: 0dB]

フロント･左/右(＋/－)
：左右のフロントスピーカーの出力レベルを調節します。

センター(＋/－)
：センタースピーカーの出力レベルを調節します。

サブウーハー(＋/－)
：サブウーハーの出力レベルを調節します。

サラウンド･左/右(＋/－)
：左右のサラウンドスピーカーの出力レベルを調節します。

サラウンドバック･左/右(＋/－)
：左右のサラウンドバックスピーカーの出力レベルを調節します。

- **テストトーン**ボタンをもう一度押すとテストトーンが停止し、もとのソース(音源)表示に戻ります。
- サラウンドバックスピーカーの出力チャンネル数を「1SPK」に設定しているときは(➡ ***38*** ページ)、**サラウンドバック･左(＋/－)**ボタンで調節してください。
- ヘッドホンを使用しているときはテストトーンは出力されません。
- 本体のボタンやテレビ画面表示を使っても調節をすることができます。詳しくは「スピーカー出力レベルの調節」(➡ ***49*** ページ)をご覧ください。

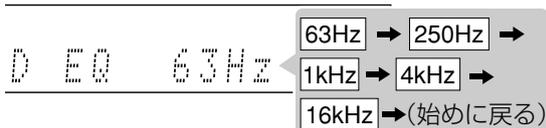
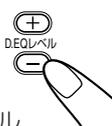
音量/音質を調節する（つづき）

イコライザーの調節

中心となる周波数帯域のレベルを調節して、よりよい音質でお楽しみいただけます。

• 調節できる周波数：63Hz、250Hz、1kHz、4kHz、16kHz

1 D.EQ周波数ボタンを押して調節したい周波数を表示させる

D.EQ周波数ボタンを押すごとに、表示が次のように変わります。

2 D.EQレベル＋または－ボタンを押す

+を押すとレベルが大きく、－を押すとレベルが小さくなります。

• 音質を調節すると、「0」以外の値のときに表示窓のDIGITAL EQ表示が点灯します。
• 「−8」から「+8」の範囲で2dB単位で調節できます。

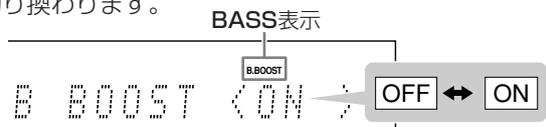
• 設定された内容はソース（音源）ごとに記憶されます。

低音の強調（バスブースト）

フロントスピーカーの低音を強調することができます。

1 お好みのソース（音源）を再生してサラウンドを選ぶ

2 バスブーストボタンを押して調節する

バスブーストボタンを押すごとに、表示が次のように切り換わります。

ON ：低音を4dB増強します。表示窓のBASS表示が点灯します。

OFF：通常の設定値で再生します。[お買い上げ時の設定]

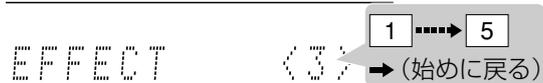
• 設定された内容はソース（音源）ごとに記憶されます。

エフェクトの調節

DAPモード（HALL1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER1/2）、MONO FILM（➡ ***54***、***55*** ページ）が動作中に、その効果の度合い（エフェクトレベル）を調節することができます。

1 お好みのソース（音源）を再生してサラウンドを選ぶ

2 エフェクトボタンを押して調節する

エフェクトボタンを押すごとに数字が大きくなります。

[お買い上げ時の設定: 3]

• 数字が大きくなると各DAPモードの効果が大きくなります。

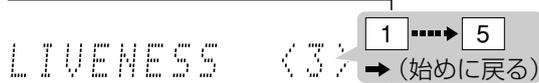
• 設定された内容はDAPモードごとに記憶されます。

反射音の減衰調節

DAPモード（HALL1/2、LIVE CLUB、DANCE CLUB、PAVILION、THEATER1/2）、MONO FILM（➡ ***54***、***55*** ページ）が動作中に、仮想空間の反響率を調節することができます。

1 お好みのソース（音源）を再生してサラウンドを選ぶ

2 ライブネスボタンを押して調節する

ライブネスボタンを押すごとに数字が大きくなります。

[お買い上げ時の設定: 3]

• 数字が大きくなると反射音の減衰が抑えられ、より響きの大きな音響効果を演出します。

• サラウンドスピーカーのサイズの設定が「NO」に設定されているときは、調節できません（➡ ***31*** ページ）。
• 設定された内容はDAPモードごとに記憶されます。

センタートーンの調節

サラウンドモードの動作中に、センタースピーカーの音質を調節することができます。

1 お好みのソース（音源）を再生してサラウンドを選ぶ

2 センタートーンボタンを押す

センタートーン

センタートーンボタンを押すごとに数字が大きくなります。

C. TONE表示

[お買い上げ時の設定: 3]

- 数字が大きくなるとセンタースピーカーの音がよりはっきり聞こえます。

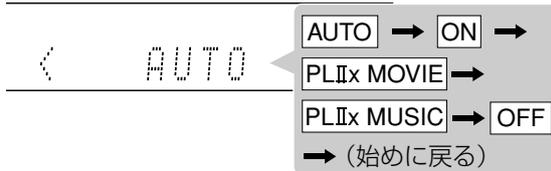
- センタートーンが「3」以外の値のときに表示窓の**C.TONE**表示が点灯します。
- センタースピーカーのサイズ設定が「NO」に設定されているときは調節できません（➡ ***37*** ページ）。

7.1チャンネルサラウンドの設定

7.1チャンネルサラウンドモードの動作を設定します。

1 お好みのソース（音源）を再生してサラウンドを選ぶ

2 EX/ES/PLIIxボタンを押す

EX/ES/PLIIxボタンを押すごとに、表示が次のように変わります。

AUTO	：Dolby Digital Surround EX信号またはDTS-ES信号が入力されたときのみ、7.1チャンネルサラウンドで再生します。 4チャンネル以上の音声信号が入力されたときは、5.1チャンネルで再生します。 [お買い上げ時の設定]
ON	：4チャンネル以上の音声が入力されるとき、7.1チャンネルサラウンドで再生します。
PLIIx MOVIE	：デジタル4チャンネル以上の音声信号に、PLIIx MOVIEの7.1チャンネルサラウンドの効果を加えます。
PLIIx MUSIC	：デジタル4チャンネル以上の音声信号に、PLIIx MUSICの7.1チャンネルサラウンドの効果を加えます。
OFF	：7.1チャンネルサラウンドで再生しません。サラウンドバックスピーカーを使わない5.1チャンネルサラウンドまでの再生になります。

- サラウンドを使用しているときにこの設定を切り換えると、サラウンドモードが切り換わることがあります。
- 設定を「AUTO」にしている場合でも、ソフトによってはDolby Digital Surround EX信号が記録されていても7.1チャンネルサラウンド再生ができないことがあります。このような場合は「ON」に設定してください。
- スピーカーサイズ設定でサラウンドスピーカーが「NO」のときは「NO SURR SPK」と表示され、この設定をすることはできません。

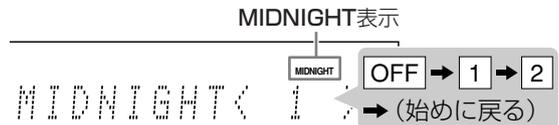
ミッドナイトモードの設定

ダイナミックレンジ（最大音声と最小音声の差）を2段階に調節することができます。音量が小さいときでもバランスよくサラウンドを楽しめます。

- 再生するソース（音源）によって、効果の大きさは異なります。

1 お好みのソース（音源）を再生してサラウンドを選ぶ

2 ミッドナイトモードボタンを押す

ミッドナイトボタンを押すごとに、表示が次のように変わります。

MIDNIGHT表示

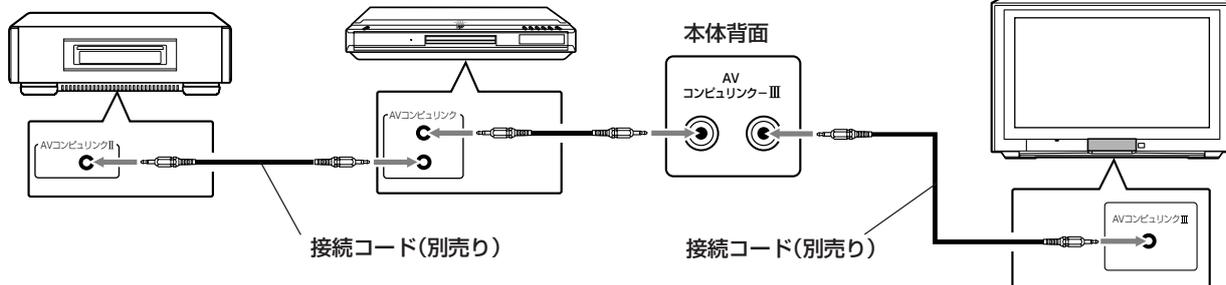
MIDNIGHT
MIDNIGHT< 1 >
OFF → 1 → 2
→（始めに戻る）

OFF	：ダイナミックレンジはそのままで、サラウンドを楽しみたいときに選びます。 [お買い上げ時の設定]
1	：ダイナミックレンジを少し抑えたいときに選びます。
2	：ダイナミックレンジを十分に抑えたいときに選びます（夜間など周囲に迷惑をかけたくないときに選びます）。

- ミッドナイトモードを使用しているとき、表示窓のMIDNIGHT表示が点灯します。
- 設定された内容はソース（音源）ごとに記憶されます。

AVコンピュリンク・リモートコントロールシステム

接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
ビクター製の各機器を別売りの接続コード(CN-120Aなど)を使って、各ビデオ機器のAVコンピュリンク端子どうしを接続します。すべての機器を橋渡しするように接続します。順番に決まりはありません。接続したビデオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

AVコンピュリンクの接続

ご注意

AVコンピュリンクでは、DBS入力端子に接続しているBS/CSチューナーを操作することはできません。

お知らせ

- ビデオデッキのリモコンコードは「A」に設定してください。
- DVDレコーダーのリモコンモードは、お買い上げ時の設定にしてください。
- 操作するビデオ機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

DVDレコーダー/プレーヤーの自動再生

DVDレコーダー/プレーヤーを再生するだけで、本機の電源が自動的に「**入**」になり、ソース（音源）として「**DVR/DVD**」が選ばれます。

- テレビの電源も自動的に「**入**」になり、テレビの入力が適切なビデオ入力に切り換わります。

テレビの自動入力切り換え

- 本機のソース（音源）を「**DVR/DVD**」、「**VTR**」、「**DBS**」、「**AUX**」にすると、映像出力の設定（➡ ***45*** ページ）によって、テレビの入力が自動的に以下のように切り換わります。
  - 映像出力の設定が「**S**」のときは「**ビデオ1**」に切り換わります。
  - 映像出力の設定が「**C**」のときは「**ビデオ2**」に切り換わります。(ただし、「**ビデオ2**」にBSチューナー入力が接続されているときは「**ビデオ3**」に切り換わります。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。)
  - 映像出力の設定が「**CMPNT**」のときは「**ビデオ3**」に切り換わります(テレビ側が対応している場合)。

  ＊映像出力の設定が「**HDMI**」のときは、この機能は働きません。
- 本機のソース（音源）を「**TV**」にすると、自動的にテレビ放送に切り換わります。
- ソース（音源）「**USB**」のときは、この機能は働きません。

自動電源「入」⟺「切」

モニター出力端子やVTR入力端子に接続されているテレビやビデオデッキの電源が、本機の電源と連動して「**入**」⟺「**切**」します。

本機の電源を「入」にすると：

- 前回選択していたソース（音源）が「**DVR/DVD**」のときは、DVD入力端子に接続されているDVDレコーダー/プレーヤーとテレビの電源も自動的に「**入**」になります。
- 前回選択していたソース（音源）が「**VTR**」のときは、ビデオデッキとテレビの電源も自動的に「**入**」になります。
- 前回選択していたソース（音源）が「**DBS**」または「**TV**」のときは、テレビの電源のみが自動的に「**入**」になります。

本機の電源を「切」にすると：

DVDレコーダー/プレーヤー、ビデオデッキ、テレビの電源が自動的に「**切**」になります。

ご注意

- ビデオデッキで録画中に本機の電源を「**切**」にしても、ビデオデッキの電源は「**切**」にならず録画し続けます。
- AVコンピュリンクを正しく動作させるためには、本機の映像出力と各機器の映像入力の設定をおこなう必要があります。本機とテレビの接続に合わせて、正しく設定してください。
- AVコンピュリンクⅢ対応以前の製品をお使いの場合、正しく動作しない場合があります。

リモコンでビクター製の機器を操作する

本機のリモコンでビクター製のテレビやビデオ機器を操作することができます。

リモコンで操作する前に･･･
- ビクター製のビデオデッキには、「A」、「B」2種類のリモコンコードがあります。本機のリモコンを使ってお手持ちのビクター製ビデオデッキを操作する場合は、VTR入力(再生)端子に接続したビデオデッキのリモコンコードを「A」にしておく必要があります。
- ビクター製のDVDレコーダーには、「1」から「4」の4種類のリモコンコードがあります。本機のリモコンを使ってお手持ちのビクター製DVDレコーダーを操作する場合は、その機器に対応したリモコンモードを設定してください。設定方法は下記の「DVDレコーダー/プレーヤー」をご覧ください。
- 接続した機器の操作については、機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。
- リモコンは、お使いになる機器のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のSOURCE SELECTOR/MULTI JOGでソース(音源)を選んだときは、リモコンで操作できないことがあります。必ずリモコンのソース(音源)機器選択ボタンを使って選んでください。

DVDレコーダー/プレーヤー

リモコンのモード切換スイッチを、DVDレコーダーを操作するときは「**DVR**」に、DVDプレーヤーを操作するときは「**DVD**」に合わせます。

ビクター製DVDレコーダーのリモコンコードの設定方法

リモコンのモード切換スイッチを「**DVR**」に合わせます。

1. **DVR/DVD ⏻/Iボタンを押したまま･･･**
   DVR/DVDボタンを押したあと、数字ボタン(1〜4、0)を使ってDVRコード番号を入力する(コード番号の前に「0」を押します)
   例：お使いのDVDレコーダーのリモコンコードが「2」のとき
   DVR/DVD ➡ 0 ➡ 2と押す
2. **DVR/DVD ⏻/Iボタンを離す**
   DVDレコーダーの電源を「**入**」⟺「**切**」できたら正しく設定されています。

- お買い上げ時は「**3**」に設定されています。

DVR/DVD ⏻/I：DVDレコーダー/プレーヤーの電源を「**入**」⟺「**切**」します。

DVR/DVDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

▶：再生を始めます。
■：再生を停止します。
⏸：再生を一時停止します。
もう一度再生を始めるときは▶ボタンを押します。
⏮：前または選択中のチャプターの頭へスキップします。
⏭：次のチャプターの頭へスキップします。
カーソル(▲、▼、▶、◀)、決定
：メニュー操作をします。
DVDメニュー：DVDソフトのメニューを表示させます。

- **DVDプレーヤー操作用ボタン**
  1〜9、10、0、+10
  ：チャプターまたはトラックを選びます。
- **DVDレコーダー操作用ボタン**
  チャンネル(＋/－)
  ：チャンネルを変更します。
  ●と▶：同時に押すと録画を始めます。
  ●と⏸：同時に押すと録画を一時停止します。
  再び録画を始めるときは、▶ボタンを押します。
  1〜9、0：チャプターまたはトラックを選びます。

DVDレコーダー/プレーヤーによってはこれらの機能がお使いになれない場合があります。その場合にはDVDレコーダー/プレーヤーに付属のリモコンをお使いください。

テレビ

TV ⏻/I：テレビの電源を「**入**」⟺「**切**」します。
テレビ音量(＋/－)：音量を調節します。
テレビ/ビデオ：テレビの入力を切り換えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。

チャンネル(＋/－)：チャンネルを変更します。
1〜9、0、+10(100+)
：受信チャンネルを選びます。

- デジタルテレビは本機のリモコンで操作できません。

ビデオデッキ

VTR ⏻/I：ビデオデッキの電源を「**入**」⟺「**切**」します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

▶：再生を始めます。
■：再生を停止します。
⏸：再生を一時停止します。
もう一度再生を始めるときは、▶ボタンを押します。
巻戻し：テープを巻き戻します。
早送り：テープを早送りします。
チャンネル(＋/－)：ビデオデッキのチャンネルを変更します。
1〜9、0：ビデオデッキのチューナーの受信チャンネルを選びます。
●と▶：同時に押すと録画を始めます。
●と⏸：同時に押すと録画を一時停止します。
再び録画を始めるときは、▶ボタンを押します。

リモコンで他メーカーの機器を操作する

本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオ機器を操作することができます。
本機のリモコンで他メーカーのテレビやビデオ機器を操作するときは、それぞれのメーカーに対応したコードを設定する必要があります。

- 接続した機器の操作については、お使いの機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

ご注意

リモコンの乾電池を交換したときは、もう一度メーカーコードを設定してください。

テレビ

1. TV ⏻/I ボタンを押したまま・・・
TVボタンを押したあと、数字ボタン(1〜9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する
各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧(テレビ)」をご覧ください。
例: お使いのテレビが松下製(23)のとき

TV ➡ 2 ➡ 3と押す

2. TV ⏻/I ボタンを離す

3. TV ⏻/I ボタンを押して設定を確認する
テレビの電源を「**入**」⟺「**切**」できたら正しく設定されています。正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

- デジタルテレビは、本機のリモコンで操作できません。

テレビを操作するボタン

TV ⏻/I : テレビの電源を「**入**」⟺「**切**」します。
テレビ音量(+/−) : テレビの音量を調節します。
テレビ/ビデオ : テレビの入力を切り換えます。

TVボタンを押したあとで、次の操作ができます。

チャンネル(+/−) : テレビの受信チャンネルを変更します。
1〜9、0、10、+10(100+) : テレビの受信チャンネルを選びます。
リターン(10) : 前のメニュー画面に戻ります。

<メーカーコード番号一覧(テレビ)>

メーカー名	メーカーコード番号
ビクター	01、02、03
アイワ	28、29
NEC	15
コルティナ	31、32、33、34
サンヨー	04、05、06
シャープ	07、08
ソニー	11、12、13
東芝	14
パイオニア	16
日立	17、18
フィリップス	30
富士通ゼネラル	09、10
フナイ	19、20、21、22
松下	23、24、25、26
三菱	27

[お買い上げ時の設定:01]

ビデオデッキ

1. VTR ⏻/I ボタンを押したまま・・・
VTRボタンを押したあと、数字ボタン(1〜9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する
各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧(ビデオデッキ)」をご覧ください。
例: お使いのビデオデッキが松下製(24)のとき

VTR ➡ 2 ➡ 4と押す

2. VTR ⏻/I ボタンを離す

3. VTR ⏻/I ボタンを押して設定を確認する
ビデオデッキの電源を「**入**」⟺「**切**」できたら正しく設定されています。
正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

ビデオデッキを操作するボタン

VTR ⏻/I : ビデオデッキの電源を「**入**」⟺「**切**」します。

VTRボタンを押したあとで、次の操作ができます。

► : 再生を始めます。
■ : 再生を停止します。
❙❙ : 再生を一時停止します。もう一度再生を始めるときは►ボタンを押します。
巻戻し : テープを巻き戻します。
早送り : テープを早送りします。
●と► : 同時に押すと録画を始めます。
チャンネル(+/−) : チャンネルを変更します。

<メーカーコード番号一覧(ビデオデッキ)>

メーカー名	メーカーコード番号
ビクター	01、02、03
アイワ	30、31、32、33、34
NEC	16、17、18、19
コルティナ	36
サンヨー	04、05、06、07
シャープ	08、09
ソニー	11、12、13
東芝	14、15
パイオニア	20
日立	21、22
フィリップス	35
富士通ゼネラル	10
フナイ	23
松下	24、25、26、27
三菱	28、29

[お買い上げ時の設定:01]

DVDプレーヤー

リモコンのモード切換スイッチを「DVD」に合わせます。

1. **DVR/DVD ⏻/Iボタンを押したまま･･･ DVR/DVDボタンを押したあと、数字ボタン(1～9、0)を使ってメーカーコード番号(2ケタ)を入力する**
   各メーカーのコード番号は下記の「メーカーコード番号一覧(DVDプレーヤー)」をご覧ください。
   例: お使いのDVDプレーヤーが松下製(06)のとき
   DVR/DVD ➡ 0 ➡ 6と押す
2. **DVR/DVD ⏻/Iボタンを離す**
3. **DVR/DVD ⏻/Iボタンを押して設定を確認する**
   DVDプレーヤーの電源を「入」⟺「切」できたら正しく設定されています。
   正しく動かない場合は、同じメーカーの別のコード番号を使ってもう一度設定します。

DVDプレーヤーを操作するボタン

DVR/DVD ⏻/I
：DVDプレーヤーの電源を「入」⟺「切」します。

DVR/DVDボタンを押したあとで、次の操作ができます。

▶ ：再生を始めます。
■ ：再生を停止します。
❚❚ ：再生を一時停止します。
もう一度再生を始めるときは▶ボタンを押します。
⏮◀ ：前または選択中のチャプターの頭へスキップします。
▶⏭ ：次のチャプターの頭へスキップします。
DVDメニュー：DVDソフトのメニューを表示させます。
カーソル(▲、▼、▶、◀)、決定
：メニュー操作をします。
1～9、0、+10：チャプターまたはトラックを選びます。

＜メーカーコード番号一覧(DVDプレーヤー)＞

メーカー名	メーカーコード番号
ビクター	01
オンキョー	10、11
ケンウッド	08
サムスン	12
ソニー	02
東芝	03
パイオニア	04
日立	14
フィリップス	15
松下	06
三菱	09
ヤマハ	13

[お買い上げ時の設定:01]

故障かな?と思う前に

故障かな？と思うまえに、修理に出す前に以下の点検をしてください。下記の項目に当てはまらないときは、本機以外の原因も考えられます。接続している機器なども併せてお調べください。なお、下記の項目をチェックしても直らないときは、「保証とアフターサービス」(➡ ***68*** ページ)をお読みの上、修理を依頼してください。

電源について

症　状	原　因	処　置
電源が入らない。	電源コードがコンセントから抜けている。	電源プラグをしっかりと差し込む。
再生中に電源が「**切**」になる。	おやすみタイマーが設定されている。	おやすみタイマーを解除する。(➡ ***29*** ページ)
電源「**入**」時にスタンバイランプが点灯し、すぐ電源が「**切**」になる。	大音量のために本機に過負荷がかかっている。	1.再生中のソース(音源)機器を止める。 2.本機の電源を入れて音量を調節する。
	スピーカーコードがショート(短絡)したために本機に過負荷がかかっている。	電源コードを抜き、スピーカーの接続を確認する。スピーカーコードがショート(短絡)していないときは販売店に問い合わせる。
	本機に異常な電圧がかかっている。	操作する前に電源コードを抜いて販売店に問い合わせる。

リモコン操作について

症　状	原　因	処　置
リモコンが正しく操作できない。	リモコンが正しく設定されていない。	ソース(音源)機器選択ボタンを押す。
リモコンが働かない。	本機から離れすぎているか、本機のほうに向けていない。障害物がある。	リモコン受光部に向けて約5m以内で障害物を避けて送信する。(➡ ***23*** ページ)
	電池が消耗している。	電池を交換する。(➡ ***23*** ページ)
	電池の極性(⊕、⊖)が違う。	電池を正しく入れ直す。(➡ ***23*** ページ)
	リモコン受光部に直射日光が当たっている。	直射日光をさえぎる。
機器が操作できない。	モード切換スイッチの位置を操作する機器に合わせていない。	モード切換スイッチを正しい位置に合わせる。
	入力したコード番号が間違っている。	正しいコード番号を入力する。 (➡ ***63***～***65*** ページ)
	ソース(音源)機器選択ボタンを押していない。	操作したい機器のソース(音源)機器選択ボタンを押してから、操作する。

映像について

症　状	原　因	処　置
映像が出ない。	ビデオコードを正しく接続していない。	正しく接続する。（➡ ***14***～***22*** ページ）
	間違ったソース（音源）が選ばれている。	正しいソース（音源）を選ぶ。
	映像出力の設定または映像入力の設定が間違っている。	正しい設定を選ぶ。
	テレビの入力選択が間違っている。	正しい入力を選ぶ。
	ソース（音源）機器の映像接続とテレビの映像接続の端子が違う。	ソース（音源）機器とテレビの映像接続の端子を合わせせる。
	本機またはテレビに対応していない映像または音声信号を入力している。	入力している信号が本機またはテレビに対応しているか確認する。
ソース（音源）がVTRまたはDBSのとき。	接続機器名の設定で、ソース（音源）に合った設定になっていない。	ソース（音源）に合わせた設定にする。
ソース（音源）がHDMIのとき。	HDCPに未対応のテレビと接続している。	HDCP対応のテレビと接続する。
	HDMI信号の検知に失敗した。	ケーブルを取り外し、再度つなぐ。
	5メートル以上の長さのHDMIケーブルを使用している。	5メートル以内の長さのケーブルを使用する。

音声について

症　状	原　因	処　置
音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	電源プラグを抜いてから正しく接続する。（➡ ***23*** ページ）
	オーディオコードを正しく接続していない。	電源プラグを抜いてから正しく接続する。（➡ ***23*** ページ）
	間違ったソース（音源）が選ばれている。	正しいソース（音源）を選ぶ。
	消音機能が働いている。	消音ボタンを押して消音機能を解除する。（➡ ***29*** ページ）
	音声入力が正しく選ばれていない。	正しい設定を選ぶ。（➡ ***25*** ページ）
ソース（音源）がUSBのとき。	USBケーブルを正しく接続していない。	正しく接続をする。（➡ ***26*** ページ）
	パソコンが本機を認識していない。	接続を確認する。（➡ ***26*** ページ）
	再生ソフトが本機に対応していない。	本機に対応したソフトに交換する。
	パソコンの「規定のデバイス」の項目が「USBオーディオ デバイス」に設定されていない。	[スタート]➡[コントロール パネル]➡[サウンドとオーディオ デバイス]➡[オーディオ]を開き、「音の再生」の「規定のデバイス」の項目を「USBオーディオ デバイス」に設定する。
サラウンドモードを選ぶことができない。	音声入力の設定で「A MULTI」に設定されている。	音声入力の設定を「A MULTI」以外に切り換える。（➡ ***25*** ページ）
	5.1チャンネルPCMのDVDオーディオを再生している。	5.1チャンネルPCM以外の音声を再生する。
片方のスピーカーからしか音が出ない。	スピーカーコードを正しく接続していない。	接続を確認する。（➡ ***13*** ページ）

保証とアフターサービス

保証書(別添)

保証書は、お買い上げの販売店よりお受け取りください。「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、記載内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間

お買い上げの日から 1 年間

補修用性能部品の最低保有期間

この機器の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後 8 年です。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご相談やご不明な点は

修理に関するご相談やご不明な点は、**お買い上げの販売店**にご相談ください。

修理を依頼されるときは　出張修理

66、***67*** ページの「故障かな？と思う前に」に従ってお調べください。それでもなお異常のあるときは、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。このとき不具合の発生したディスクも一緒にご用意ください。

保　証　期　間　中　は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

ご連絡していただきたい内容

品　　名	AUDIO/VIDEO コントロールアンプ
型　　名	AX-D701
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も併せてお知らせください
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

便利メモ	お買い上げ店名	☎ (　　)　　-

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により有料で修理させていただきます。

修　理　料　金　の　仕　組　み

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、測定機器等設備費、故障診断、修理および部品交換、調整、点検にかかる費用です。

＋

部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

＋

出張料	製品のある場所へ技術者を派遣するための費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

■ この製品の製造時期は本体の背面に表示されております。

お願い

- 本機の故障または不具合等によりディスクの再生などにおいて、利用の機会を逸したため発生した損害等の補償については、ご容赦ください。

お客様の個人情報のお取り扱いについて

ご相談窓口におけるお客様の個人情報につきましては、日本ビクター株式会社およびビクターグループ関係会社(以下、当社)にて、下記のとおり、お取り扱いいたします。

- お客様の個人情報は、お問い合わせへの対応、修理およびその確認連絡に利用させていただきます。
- お客様の個人情報は、適切に管理し、当社が必要と判断する期間保管させていただきます。
- 次の場合を除き、お客様の同意なく個人情報を第三者に提供または開示することはありません。
  ① 上記利用目的のために、協力会社に業務委託する場合。当該協力会社に対しては、適切な管理と利用目的外の使用をさせない措置をとります。
  ② 法令に基づいて、司法、行政またはこれに類する機関から情報開示の要請を受けた場合。
- お客様の個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきましたご相談窓口にご連絡ください。

ビクターサービス窓口案内（ビクターサービスエンジニアリング株式会社）

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご相談ください

ご転居等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
	北海道		
北海道	札幌 S.C.	(011) 898-1180	札幌市厚別区厚別東五条1-2-29
	旭川 S.C.	(0166) 61-3659	旭川市神居二条3-2-15
	北見 S.S.	(0157) 25-8557	北見市山下町4-7-19
	釧路 S.S.	(0154) 24-0797	釧路市松浦町3番3号
	帯広 S.S.	(0155) 24-4493	帯広市東6条南12-11
	函館 S.S.	(0138) 52-5324	函館市五稜郭町4-16函館五稜郭MFビル1F
	東北		
青森	青森 S.C.	(017) 723-2261	青森市桂木4-6-17
	八戸 S.S.	(0178) 44-4521	八戸市諏訪2-2-36
	弘前 S.S.	(0172) 28-0165	弘前市高田1-13-1
岩手	盛岡 S.C.	(019) 637-0121	盛岡市津志田西2-3-20
	水沢 S.S.	(0197) 22-2773	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋田 S.C.	(018) 824-3189	秋田市山王中園町4-1
	大館 S.S.	(0186) 43-0980	大館市美園町5-6
	横手 S.S.	(0182) 32-8873	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙台 S.C.	(022) 287-0151	仙台市若林区六丁の目西町7-13
山形	山形 S.C.	(023) 642-0279	山形市松山3-12-18
	酒田 S.S.	(0234) 26-7145	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡山 S.C.	(024) 952-6331	郡山市堤1-3
	いわき S.S.	(0246) 27-7991	いわき市内郷御台境町鶴巻6-1
	関東・甲信越		
群馬	前橋 S.C.	(027) 255-5921	前橋市大渡町1-10-1 日本ビクター（株）前橋工場第二棟1F
栃木	宇都宮 S.C.	(028) 638-1639	宇都宮市東宿郷3-5-22
茨城	水戸 S.C.	(029) 246-1560	水戸市元吉田町1030 日本ビクター（株）水戸工場技術棟1F
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	千葉 S.C.	(043) 202-0263	千葉市中央区中央3-9-16 三井生命千葉中央ビル1F
	柏 S.C.	(04) 7175-4322	柏市豊四季512-10-67
	浦安 S.S.	(047) 353-6189	浦安市当代島2-13-27
東京	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	本郷 S.C.	(03) 5684-8254	文京区本郷3-14-7 ビクター本郷ビル1F
	練馬 S.C.	(03) 3993-7520	練馬区豊玉南1-19-1
	大田 S.C.	(03) 3727-9385	大田区北千束2-20-6
	八王子 S.C.	(0426) 46-6914	八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	CSセンター	(03) 5631-2235	墨田区八広五丁目11-1
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大宮 S.C.	(048) 654-5241	さいたま市北区東大成町2-658-1
	熊谷 S.S.	(048) 553-5105	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口		
	東日本コールセンター	(03) 5803-2888	浦安市当代島2-13-27
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	横浜 S.C.	(045) 651-0403	横浜市中区翁町1-3-1
	平塚 S.C.	(0463) 36-2160	平塚市南原2-4-5
	相模原 S.C.	(042) 776-2052	相模原市古淵3-7-4
	横浜 T.C.	(046) 234-4500	海老名市東柏ヶ谷6-19-26
山梨	甲府 S.S.	(055) 237-4016	甲府市湯田2-11-5
新潟	新潟 S.C.	(025) 242-3431	新潟市明石1-2-19
	長岡 S.S.	(0258) 24-8391	長岡市下下条2-1366-1
長野	長野 S.C.	(026) 221-6583	長野市川合新田962-1
	松本 S.S.	(0263) 25-9165	松本市庄内2-4-21
	東海		
静岡	静岡 S.C.	(054) 282-4141	静岡市駿河区中田本町62-31 中田ビル1F
	沼津 S.S.	(055) 922-1557	沼津市筒井町6-5
	浜松 S.S.	(053) 421-3441	浜松市北島町785
愛知	名古屋 S.C.	(0568) 25-3235	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三河 S.C.	(0564) 25-0321	岡崎市葵町2-23 宝ビル101号室
	豊橋 S.S.	(0532) 64-0815	豊橋市多米東町1-1-1
岐阜	岐阜 S.S.	(058) 274-1947	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三重 S.S.	(0593) 52-0841	四日市市堀木2-15-2
	津 S.S.	(059) 229-7780	津市大字藤方485-18

都道府県名	窓口名	TEL	所在地
	北陸		
富山	富山 S.S.	(076) 425-2397	富山市二口町四丁目1-3
石川	金沢 S.C.	(076) 269-4821	金沢市新保本四丁目65-17
福井	福井 S.S.	(0776) 53-6916	福井市西開発3-211
	近畿		
滋賀	滋賀 S.S.	(077) 582-5812	守山市浮気町268
京都	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	京都 S.C.	(075) 644-0247	京都市伏見区深草下川原町31-1
京都北部	福知山 S.S.	(0773) 22-8664	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	奈良 S.S.	(0742) 35-0935	奈良市大宮町6-3-10藤本ビル1F
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	大阪 S.C.	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	堺 S.C.	(072) 254-2881	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口		
	メンテナンスセンター	(06) 6304-6715	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	和歌山 S.S.	(073) 472-6799	和歌山市太田430-8
	田辺 S.S	(0739) 22-9976	田辺市湊1581-12
兵庫中東部	【出張修理専門】のご相談窓口		
	西日本コールセンター	(06) 6304-5731	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口		
	神戸 S.C.	(078) 252-0562	神戸市中央区磯上通3-2-16
兵庫西部	姫路 S.S.	(0792) 34-3833	姫路市中地南町11-1
	中国		
岡山	岡山 S.C.	(086) 243-1566	岡山市西古松西町8-23
広島	広島 S.C.	(082) 243-9839	広島市中区光南3-9-17
	福山 S.S.	(084) 931-6984	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山口 S.C.	(083) 973-3708	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳山 S.S.	(0834) 27-1331	周南市野上町2-35
島根	松江 S.C.	(0852) 31-8900	松江市学園1-16-39
鳥取	鳥取 S.S.	(0857) 23-2151	鳥取市千代水1丁目22-1
	四国		
香川	高松 S.C.	(087) 866-1200	高松市田村町205-1
徳島	徳島 S.S.	(088) 622-7387	徳島市沖浜2-37
高知	高知 S.S.	(088) 882-0546	高知市高須新町4-1-43
愛媛	松山 S.C.	(089) 923-0372	松山市中央1-4-12
	宇和島 S.S.	(0895) 20-1018	宇和島市坂下津甲407-40
	九州・沖縄		
福岡佐賀	福岡 S.C.	(092) 431-1261	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米 S.S.	(0942) 39-3495	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州 S.C.	(093) 921-3981	北九州市小倉北区片野2-15-12
長崎	長崎 S.C.	(095) 862-5522	長崎市城山町9-13
	佐世保 S.S.	(0956) 33-5568	佐世保市木風町1467-2
大分	大分 S.C.	(097) 543-1422	大分市西大道3-1-1
熊本	熊本 S.C.	(096) 353-4536	熊本市近見町8-1-10
宮崎	宮崎 S.S.	(0985) 24-5401	宮崎市霧島町3-59
	延岡 S.S.	(0982) 35-7077	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島 S.C.	(099) 282-8818	鹿児島市田上七丁目9-8
沖縄	沖縄 S.C.	(098) 898-3631	宜野湾市真志喜1-13-16

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0705

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。
T.C.はテクニカルセンターの略称です。

主な仕様

・本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

項目			
HDMI端子			
	入力端子(ver 1.1)	DVR/DVD、VTR(DBS)	
	出力端子(ver.1.0)	モニター	
映像入力端子			入力感度 / インピーダンス
	映像(コンポジット)	DVR/DVD、VTR、DBS、AUX	:1.0V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	DVR/DVD、VTR、DBS、AUX	
		Y	:1.0V(p-p)/75Ω、同期負
		C	:0.286 V(p-p)/75Ω
	D4映像	DVR/DVD、VTR(DBS)	
		Y	:1.0V(p-p)/75Ω
		P_B/C_B、P_R/C_R	:0.7V(p-p)/75Ω
映像出力端子			出力レベル / インピーダンス
	映像(コンポジット)	DVR、VTR、モニター	:1.0V(p-p)/75Ω、同期負
	S映像	DVR、VTR、モニター	
		Y	:1.0V(p-p)/75Ω、同期負
		C	:0.286V(p-p)/75Ω
	D4映像	モニター	
		Y	:1.0V(p-p)/75Ω
		P_B/C_B、P_R/C_R	:0.7V(p-p)/75Ω
定格出力　ステレオ時(JEITA)			
	フロント出力	130W/ch (6Ω、20Hz〜20kHz、0.8%THD)	
定格出力　サラウンド時(JEITA)			
	フロント出力	130W/ch (6Ω、1kHz、0.8%THD)	
	センター出力	130W (6Ω、1kHz、0.8%THD)	
	サラウンド出力	130W/ch (6Ω、1kHz、0.8%THD)	
	サラウンドバック出力	130W/ch (6Ω、1kHz、0.8%THD)	
音声入力端子			入力感度 / インピーダンス
	アナログ入力	DVR/DVD(MULTI)、VTR、DBS、TV、AUX	:300mV/47kΩ
	デジタル入力	同軸デジタル1(DVR/DVD)	:0.5V(p-p)/75Ω
		光デジタル2(DBS)/3(VTR)	:−21dBm 〜 −15dBm
		光デジタル(AUX)	:−21dBm 〜 −15dBm
		USB	
		(サンプリング周波数　32kHz、44.1kHz、48kHzに対応)	
音声出力端子			出力レベル
	アナログ出力	DVR、VTR(録音出力)	:300mV
		サブウーハー	
		ヘッドホン(ø3.5)	
			出力レベル
	デジタル出力	PCM/STREAM(光)	:−21dBm 〜 −15dBm
その他の端子		AVコンピュリンク-Ⅲ (×2)	
S/N比(JEITA)		DVR/DVD、VTR、DBS、TV、AUX	:70dB
周波数特性		DVR/DVD、VTR、DBS、TV、AUX	:20Hz〜20kHz (±1dB)
その他			
	スリープタイマー	10、20、30、40、50、60、70、80、90分	
	電　源	AC 100V、50Hz/60Hz共用	
	消費電力	電源「入」時　245W	
		電源「切(待機)」時　0.9W	
	最大外形寸法(幅×高さ×奥行)	435mm×91.5mm×371mm	
	質　量	約7.8kg	

- JEITAは電子情報技術産業協会規格に定められた測定方法による数値です。
- 付属品については**2** ページをご覧ください。

用語索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット

別売りのオプション品

• オーディオコード	: CN-510E（ピンプラグ×2〜ピンプラグ×2）（1m）
	: CN-168G（ピンプラグ×2〜ピンプラグ×4）（1.5m）
• DVD用オーディオコード	: CN-D210E（ピンプラグ×6〜ピンプラグ×6）（1m）
• HDMIケーブル	: VX-HD115（1.5m）
• ビデオコード	: VX-110E（1m）
• Sビデオコード	: VC-S110E（1m）
• D端子コード	: VX-DS110（Dプラグ〜Dプラグ）（1m）
	: VX-DS210（Dプラグ〜ピンプラグ×3）（1m）
• HDMI−DVI変換ケーブル	: VX-HD215（HDMIプラグ〜DVIプラグ）（1.5m）
• 同軸デジタルコード	: CN-D110E（1m）
• 光デジタルケーブル	: XN-110SA（1m）
• USBケーブル	: VX-U110（1m）
• 接続コード	: CN-120A（1.5m）

別売りのオプション品は、お買い上げの販売店でお求めください。
(品番は変更されることがあります)

ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、
お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記の相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談 **ビクターサービスエンジニアリング株式会社**	お買い物相談や製品についての全般的なご相談 **お客様ご相談センター**
69ページの「ビクターサービス窓口案内」をご覧ください。	フリーダイヤル **0120−2828−17** 携帯電話・PHS・FAXなどからのご利用は 電話 (045)450−8950 FAX (045)450−2275 〒221-8528 横浜市神奈川区守屋町3-12

● ご相談窓口におけるお客さまの個人情報のお取り扱いについては、68ページをご覧ください。

ビクターインターネットホームページアドレス http://www.victor.co.jp

日本ビクター株式会社
AV＆マルチメディアカンパニー
〒221-8528 神奈川県横浜市神奈川区守屋町3-12

0805RYMMDWJEIN